

2024 年 9 月

食料安全保障月報

(第 39 号)



令和 6 年 9 月 30 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供を目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみならず、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報(生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等)について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

2024年9月食料安全保障月報（第39号）

目次

概要編

I	2024年9月の主な動き	1
II	2024年9月の穀物等の国際価格の動向	5
III	2024/25年度の穀物需給（予測）のポイント	5
IV	2024/25年度の油糧種子需給（予測）のポイント	5
V	今月の注目情報「豪州及びカナダの穀物等の生産・輸出動向」	6

（資料）

1	穀物等の国際価格の動向	10
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	11
3	穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）	12
4	加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の状況	14
5	食品小売価格の動向	18
6	海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）	19
7	FAO食料価格指数	21

今月のコラム

	「アルゼンチンのローカルフード事情について」	22
--	------------------------	----

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
	＜米国＞	2024/25年度の輸出量は22.5百万トンに回復の見込み
	＜カナダ＞	2024/25年度の生産量は前月から下方修正され34.3百万トンの見込み（AAFC）
	＜豪州＞	2024/25年度の生産量は上方修正され31.8百万トンの見込み（ABARES）
	＜EU27＞	2024/25年度の生産量は前年度比7.2%減、輸出量は同26.1%減（欧州委員会）
	＜ロシア＞	2024/25年度の輸出量は48.0百万トンの見込み
	＜ウクライナ＞	2024/25年度の生産量は上方修正され22.3百万トンの見込み
	＜中国＞	2024年1月～7月の輸入量は前年同期比15.6%増
2	とうもろこし	9
	＜米国＞	単収の引上げにより、生産量は1.0百万トン上方修正
	＜ブラジル＞	2024/25年度の見込みは4.1%増加の見込み
	＜アルゼンチン＞	2024/25年度の見込みは、前年度から2.0%増加する見込み
	＜ウクライナ＞	2024/25年度の見込みは、前年度より16.3%減の見込み
	＜中国＞	2024/25年度の見込みは、前年度から1.1%増加する見込み

3 コメ	15
<タイ>	2024/25年度の生産量は、前年度に比べ0.5%増加する見込み
<米国>	2024/25年度の生産量は、前年度に比べ0.7%増加する見込み
<中国>	2024/25年度の生産量は、前年度に比べ1.0%増加する見込み
<インド>	2024/25年度の生産量は、前年度に比べ1.5%増加する見込み
<ベトナム>	2023/24年度の生産量は、前年度に比べ0.5%減少する見込み
II 油糧種子	
大豆	21
<米国>	2024/25年度の生産量は前年度より10.1%増加する見込み
<ブラジル>	2024/25年度の生産量は前年度より10.5%増加する見込み
<カナダ>	2024/25年度の生産量は前年度より3.1%増加する見込み (AAFC)
<中国>	2024/25年度の生産量は、前年度より0.7%減少する見込み
<アルゼンチン>	2024/25年度の生産量は、前年度より6.0%増加する見込み
(参考1) 本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2024/25年度)	27
(参考2) 単位換算表	27
(参考3) 各国のクロップカレンダー一覧 (主要品目毎)	28

特別分析トピック

「我が国の種畜をめぐる動向」

【利用上の注意】

表紙写真：ウクライナのポルタヴァ州の圃場。次の作物の栽培に取り掛かるため、大豆の収穫作業を急ピッチで進めている。(ポルタヴァ州 2024年9月2日)

(概要編)

I 2024年9月の主な動き

主要穀物等の需給・相場等について

主要穀物等の2024/25年度の作況について、北半球では小麦等が収穫期を迎えており、とうもろこしや大豆等の作物が成熟期から収穫期を迎えている。なお、南半球では2023/24年度の作物の収穫がほぼ終了している。

2024/25年度の状況について、品目別にみると、9月の米国農務省（USDA）の需給報告によれば、小麦については、EU、ロシアで単収・収穫面積ともに前年度より減少するものの、豪州、米国、中国で単収・収穫面積ともに増加、カザフスタン、インド、カナダで単収が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。ロシアのウクライナ侵攻に関連し、2022年3月に過去最高を更新した小麦の国際相場は侵攻時の水準を下回ったものの、ウクライナ産穀物の輸出再開に関する4者合意（黒海穀物イニシアティブ）については2023年7月にロシアが離脱し停止。現在、黒海の臨時回廊からの輸出が順調に機能しているものの、EUの東欧経由での輸出の進捗も含め注視が必要。

とうもろこしについては、ブラジル、南アフリカ、メキシコで単収・収穫面積ともに前年度より増加、中国で収穫面積が増加するものの、ウクライナで単収・収穫面積ともに減少、米国で収穫面積が減少すること等から、世界全体の生産量は前年度を下回る見通し。

大豆については、ブラジル、米国、アルゼンチンで単収・収穫面積ともに増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。

いずれの品目も、旺盛な消費需要により期末在庫は依然としてタイトな状況であり、引き続き注視が必要。

FAO（国連食糧農業機関）が公表している食料価格指数については、主に砂糖、肉、穀物の価格の低下等により、7月の121.0から、8月（最新値）は120.7に下落（参考：2023年8月122.0、2022年8月137.6、2021年8月128.0、2020年8月95.9）。海上運賃については、バルチック海運指数（穀物輸送等に使用される外航ばら積み船の運賃指数）が、直近5カ年の平均値より約1割高い水準で推移。

早期注意段階の継続について

緊急事態食料安全保障指針に基づく「早期注意段階」については、2021年7月に、主要輸入農産物の国際価格や海上運賃の上昇、国際的な物流の遅れ等の当時の状況を踏まえて適用。2024年9月も引き続き適用した一方で、主要穀物等の国際相場や海上運賃についてはここ最近下落傾向で推移しており、引き続きその動向に留意。

【参考】早期注意段階について（農林水産省HP）

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/soukichuui.html>



ウクライナの生産・輸出動向

USDAの9月需給報告によれば、2024/25年度の小麦の生産量は、収穫面積は増加するものの単収が減少することから、前年度より3%減少し2,230万トンとなる見込み。また、とうもろこしの生産量は、収穫面積・単収ともに減少することから、前年度より16%減少し2,720万トンとなる見込み。2024/25年度の小麦の輸出量は、生産量及び期首在庫の減少を受け、前年度より19%減少し1,500万トンとなる見込み。とうもろこしの輸出量も前年度より19%減少し2,400万トンとなる見込み。

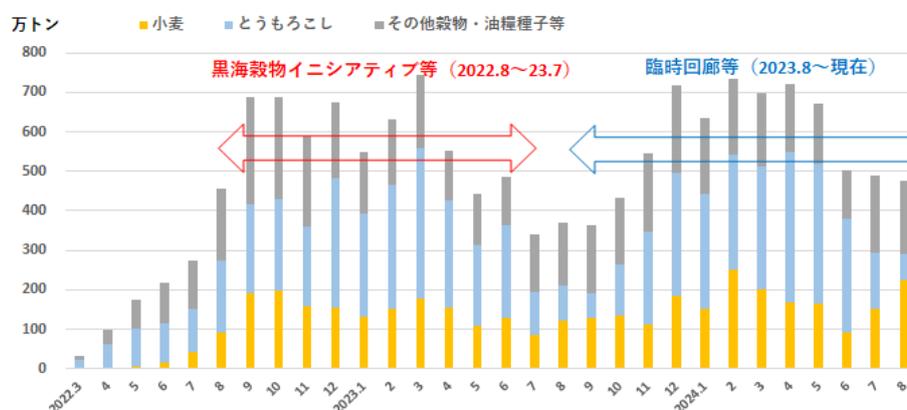
ウクライナ農業政策食料省によれば、9月5日現在、2024/25年度の小麦の収穫作業は終了し、とうもろこしの収穫作業は始まったばかりである。ウクライナ気象センターによれば、8月末現在、とうもろこしは概ね黄熟期から完熟期にある。

臨時回廊からの輸出状況

2022年7月22日の国連、ウクライナ、ロシア及びトルコの4者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意（黒海穀物イニシアティブ）により、同年8月以降、オデーサ港等3港（オデーサ港、チョルノモルシク港、ビブジェヌイ港）からの輸出が再開したが、2023年7月17日にロシアが同イニシアティブからの離脱を表明し、輸出が停止した。ウクライナ農業政策食料省によれば、同イニシアティブ履行期間中の輸出実績（2022年8月～23年7月）は、穀物・油糧種子等6,846万トン（うち、小麦1,728万トン、とうもろこし2,949万トン）。

ウクライナは、ルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する新ルート「臨時回廊」を国際海事機関（IMO）に通報し、2023年8月以降、運用が開始された。現在、臨時回廊や、運河等を利用し、ルーマニアのコンスタンツァ港などを経由した輸出が行われている。輸出ルートのうち、EU域内を經由した輸出（鉄道又はトラック）は減少傾向にある一方、臨時回廊からの輸出量が大半を占めている。ウクライナ農業政策食料省によれば、2023年8月～24年8月までの穀物・油糧種子等の輸出量は7,364万トン（うち小麦2,083万トン、とうもろこし2,953万トン）と、黒海穀物イニシアティブ履行期間中の月平均輸出量（570万トン）と同水準（566万トン）となっている（参考）。

（参考）ウクライナの輸出量の推移（月毎）（2022年3月～2024年8月）



出典：農業政策食料省のデータをもとに農林水産省で作成

注：データは港湾、鉄道、陸路などすべての輸出の計。

1 EU：欧州南東部の高温乾燥によりとうもろこしの単収が悪化

USDAによれば、2024/25年度のEUのとうもろこしの生産量は5,900万トンと、前月予測から2%下方修正され、前年度から4%減少し、過去5年平均を8%下回る見込み。収穫面積は860万ヘクタールと、前月予測から変更ないものの、前年度より5%増加し、過去5年平均を3%下回っている。単収は6.86トン/ヘクタールと、前月予測から2%下方修正され、前年度より8%減少し、過去5年平均を5%下回っている。

とうもろこしは、バルカン半島の主要な夏作物であるが、高温乾燥型の天候により単収の悪化が顕著になっている(図1、2)。加えて、当該地域では灌漑設備が限られており、作柄の悪化に拍車がかかることが懸念されている。なお、高温乾燥に耐性があるひまわりがとうもろこしの代替作物として好ましいが、ひまわりは頻繁な輪作が必要となる。

ルーマニアのとうもろこしの生産量は780万トンと、前月予測から90万トン下方修正、ハンガリーは520万トンと前月予測から70万トン下方修正された。一方、EU最大のとうもろこし生産国であるフランスは、前月予測から40万トン上方修正され1,400万トンとなる見込み。同国の冬小麦は降雨過多により大幅な減産となったが、とうもろこしの生長には多くの水分を必要とするため、逆に生産量が増加する見込み。

2 インド：コメの収穫面積が過去最高を記録

USDAによれば、2024/25年度のインドのコメの生産量は1億3,900万トン(精米ベース)と、作付面積の増加により、前月予測からわずかに上方修正され、前年度から1%増加する見込み。収穫面積は4,850万ヘクタールと、前月予測から1%上方修正され、前年度から2%増加。また、インド農業・農民福祉省「作物状況報告書」(2024.8.30)によれば、綿花に比べて単収が高く、投入コストが低いコメに作付けがシフトしており、作付面積は前年度から4%増加する見込みとされている。一方、単収は4.3トン/ヘクタールと、前月から前年度からもわずかに減少する見込み。なお、コメの主産地では降雨に恵まれ、作付ペースは平年を上回っているという。

図1：EUの植生指数(平年対差)(2024.8)

欧州南東部で作物の作柄が悪化



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム(JASMAI)

図2：EUの降水量(平年対差)(2024.8)

欧州南東部で降水量が不足



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム(JASMAI)

図3：インドのコメの収穫面積の推移



出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省で作成

3 中東：紅海における船舶航行の安全確保が困難なため回避

イスラエルとハマスの戦闘が継続する中、報道等によれば、2023年12月以降、イエメンの親イラン武装組織フーシ派が、地中海とインド洋をスエズ運河経由で結ぶ紅海を航行する商船を攻撃しており、海運各社は貨物輸送をアフリカ喜望峰経由等に迂回させている。

また、パナマ運河については、2023年7月以降、降雨不足による水位低下に伴い通航制限が実施された。通航枠は同年12月には1日当たり22隻まで制限されたが、雨季の到来に伴い順次制限を緩和、9月1日からは36隻まで増加させている。現在、通行枠についてはほぼ従来の状態（36隻程度）まで回復しているものの、依然として水の問題は残っており、パナマ運河庁は、パナマにある51の流域と湖からの代替水源を特定し、運河の運営に必要な水利用と貯蔵を最適化することにより、持続可能性を確保する解決策を模索している。

我が国の穀物輸入に関しては、小麦は主に米国・カナダ西海岸及び豪州から輸入しており、また、ブラジル産穀物等の多くは喜望峰経由で輸入していることから、上記2つのルートを通過しない。

一方、米国産のとうもろこし及び大豆は、メキシコ湾（ガルフ）からパナマ運河経由で輸入している場合が多いが、パナマ運河の通行料の高止まり等の影響により、米国西海岸（PNW）や喜望峰経由に切り替えている例がみられる。喜望峰経由の場合、ガルフからパナマ運河経由で輸入する場合と比較して2週間から3週間程度日数が嵩む。引き続き、今後の動向について注視が必要である。



II 2024年9月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、8月末、190ドル/トン台半ばで推移。9月に入り、EU及びロシアの作柄懸念や黒海周辺の緊張の高まり等から上昇し、9月中旬現在、210ドル/トン近くで推移。

とうもろこしは、8月末、140ドル/トン台後半で推移。9月に入り、米国中西部の乾燥による作柄懸念を受けて150ドル/トン台半ばまで上昇したものの、豊作見通しの大豆に連れ安等で140ドル/トン台後半まで下落した。その後、黒海周辺の緊張の高まり等を受けて上昇し、9月中旬現在、150ドル/トン台半ばで推移。

コメは、8月末、610ドル/トン台前半で推移。9月に入り、タイバーツ高にもかかわらず、インドネシアのタイ産米への需要減少が見込まれることから値を下げ、9月中旬現在、590ドル/トン台前半で推移。

大豆は、8月末、360ドル/トン台前半で推移。9月に入り、米国中西部における乾燥による作柄懸念及び米国産の新規の輸出成約報告等を受けて、370ドル/トン台前半まで上昇したものの、米国産の豊作見通し等を受けて下落し、9月中旬現在、360ドル/トン台前半で推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、コメはタイ国家貿易委員会価格

III 2024/25年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前年度より0.6%増の28.27億トン。消費量は、前年度より0.9%増の28.40億トンとなり、5年連続で生産量が消費量を下回る見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も前年度を下回り27.1%となる見込み（資料2参照）。

生産量は、前年度より、とうもろこしで減少も、小麦、コメで増加し、穀物全体で増加となり、28.27億トンの見込み。

消費量は、前年度より、小麦、とうもろこし、コメで増加し、穀物全体で増加となり、28.40億トンの見込み。

貿易量は、前年度より、小麦、とうもろこし、コメで減少し、穀物全体で減少し、5.02億トンの見込み。

期末在庫量は、7.68億トンと前年度より減少、期末在庫率も、前年度より減少する見込み。

(注：数値は9月のUSDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

IV 2024/25年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り6.87億トン。消費量は前年度を上回り6.62億トンとなり、前年度に引き続き、生産量が消費量を上回る見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率は前年度を上回る22.8%となる見込み。

(注：数値は9月のUSDA「Oilseeds: World Markets and Trade」等による)

V 今月の注目情報: 豪州及びカナダの穀物等の生産・輸出動向

エルニーニョ現象による乾燥の影響を受けた2023/24年度に比べ、生産量の増加が見込まれる豪州の小麦、大麦、菜種や、干ばつの影響を受けた2023/24年度に比べ、増産が見込まれるカナダの小麦や菜種などに関し、2024/25年度の生産・輸出動向等についてまとめた。

注：文中の「2024/25年度」等は市場年度で、豪州の小麦は2024年10月から2025年9月、カナダの小麦は2024年8月から2025年7月。国や作物によって異なる(品目別需給編P.27参照)。

1 豪州の生産・輸出動向

(1) 生産動向

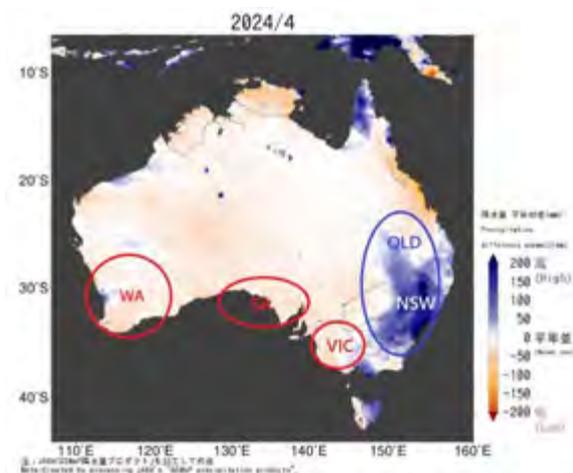
豪州農業資源経済科学局（ABARES）の「Australian Crop Report」（2024.9.3）によれば、2024/25年度の冬作物の生産量はエルニーニョ現象による乾燥の影響を受けた前年度に比べ17%増加し、5,520万トンなる見込み。これは、過去10年平均を17%上回り、過去5番目に高い水準となる。作付面積は、主にニューサウスウェールズ州（NSW州）及びクィーンズランド州（QLD州）の増加を背景に、前年度から5%増加し2,400万ヘクタールとなる見込み。これは、過去最高を記録した2020/21年度及び2021/22年度をわずかに下回るものの、過去10年平均を9%上回る水準。

2024/25年度の小麦の生産量は3,180万トンと、前年度から23%増加し、過去10年平均を20%上回る見込み。NSW州及びQLD州では4月の作付期に平年を上回る降水量に恵まれ、NSW州では前年度比55%増、QLD州では同94%増と大幅な増産が見込まれる。一方、ウエスタンオーストラリア州（WA州）、ビクトリア州（VIC州）、サウスオーストラリア州（SA州）では、乾燥型の天候に見舞われた（図1）。WA州では、北部及び西部地域で7月以降の降雨により作柄が改善したものの、南部及び東部の一部地域では乾燥型の天候が続いており作柄の悪化が懸念されている。また、VIC州及びSA州では、生育期間を通じて乾燥型の天候が続き、生産量の減少が見込まれている。

2024/25年度の大麦の生産量は1,220万トンと、前年度から13%増加し、過去10年平均を7%上回る見込み。これは2023年9月の中国向け大麦の輸出再開により、大麦の作付面積が増加したことが影響している。

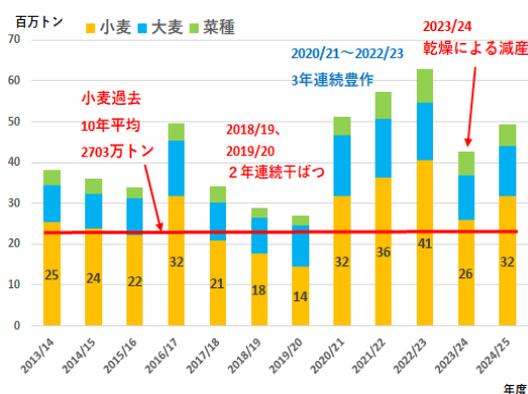
2024/25年度の菜種の生産量は550万トンと、作付面積の減少により、前年度から8%減少する見込み。なお、作付面積は依然として過去10年平均を15%上回っており、生産量も過去10年平均を22%上回る水準とな

図1 豪州の降水量(平年対差)(2024.4)
NSW州及びQLD州で十分な降水量
WA州、VIC州、SA州で乾燥天候



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

図2 豪州の小麦、大麦、菜種の生産量の推移



出典：ABARES「Australian Crop Report」（2024.9）
をもとに農林水産省で作成

っている。

(2) 輸出動向

小麦について、豪州の主要輸出先は中国、インドネシア、ベトナム等のアジア諸国である。中国は豪州にとって最大の輸出先国であり、近年は常に小麦輸出の4分の1程度を占めている（図3）。USDAによれば、2020/21年度から2022/23年度まで3年連続の豊作により輸出量が大きく増加したものの、2023/24年度はエルニーニョ現象の影響による減産から輸出量が減少した。一転、2024/25年度はエルニーニョ現象の終息に伴い生産量が増加し、輸出量も2,500万トンと前年度から25%増加する見込み。

大麦について、2019/20年度以前は中国は豪州にとって主要な輸出先国であったが、2020年5月、中国が豪州産大麦に対し73.6%のアンチダンピング関税及び6.9%の相殺関税を課したことにより中国向けの輸出が激減した。2023年8月、中国は国内の大麦市場状況の変化により関税を撤廃。その後、中国向け大麦輸出は急速に回復している（図4）。USDAによれば、2024/25年度の輸出量は630万トンと、前年度から11%減少し、過去10年平均を2%下回る見込み。これは中国の旺盛な大麦需要による2023/24年度の輸出増から2024/25年度の期首在庫が減少し、同年度の供給量が減少することによる。

菜種について、豪州はカナダに次ぐ世界第2位の輸出国であり、近年では世界貿易の20~40%を占めている。主要輸出先国は、主にバイオディーゼル用途のEUが約4割を占め、次いで日本、アラブ首長国連邦、パキスタン、メキシコ等となっている（図5）。USDAによれば、2024/25年度の輸出量は475万トンと、前年度から7%減少するものの、過去10年平均を38%上回っている。

2 カナダの生産・輸出動向

(1) 生産動向

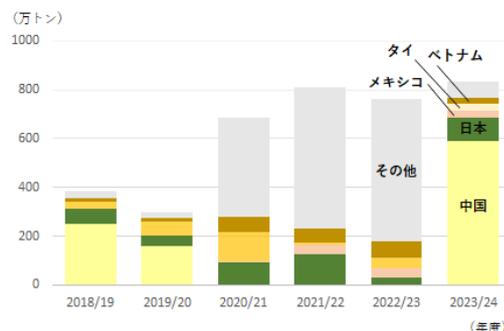
カナダ農務農産食品省（AAFC）「Outlook for Principal Field Crops」（2024.9.25）によれば、2024/25年度の小麦の生産量は3,429万トンと、干ばつの影響を受けた前年度に比べ4%増加する見込み。これはデュラム小麦の生産量が603万トンと前年度から48%増加することが主要因であり、普通小麦は2,826万トンと前年度から2%減少する見込みとなっている。デュラム小麦については、主産地の平原州で7月を通して高温乾燥型の天候

図3 豪州の小麦輸出先国（2023年）



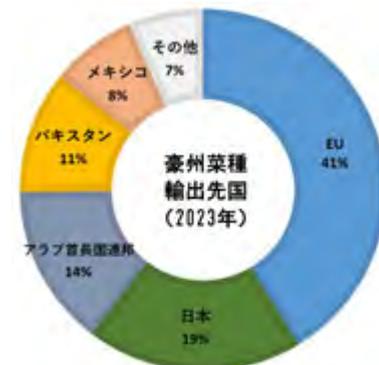
出典：Global Trade Atlas をもとに農林水産省で作成

図4 豪州の大麦輸出量の推移



出典：豪州統計局のデータをもとに農林水産省で作成
注：年度は豪州の会計年度

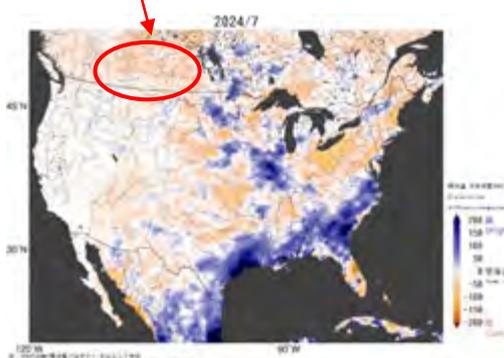
図5 豪州の菜種輸出先国（2023年）



出典：Global Trade Atlas をもとに農林水産省で作成

図6 カナダの降水量(平年対差)(2024.7)

平原州で高温乾燥天候



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

が続いたことにより作柄が悪化したものの、単収は干ばつの影響を受けた前年度から 40%上回ることから、生産量は前年度を 48%上回る見込み。普通小麦についてもデュラム小麦と同様、7月の高温乾燥（図6）により作柄が悪化したものの、単収は前年度を 1%上回る見込み。作付面積が前年度に比べ 3%減少したことを主要因とし、生産量は前年度を 2%下回る見込み。

2024/25年度の大麦の生産量は760万トンと、前年度から 15%減少する見込み。作付面積が前年度を 13%下回ったことを主要因とする。大麦の主産地は小麦と同様、アルバータ州とサスカチュワン州であり、7月の高温乾燥により作柄が悪化し、単収は前年度を 0.3%下回る見込み。

2024/25年度の菜種の生産量は1,898万トンと、前年度から 1%減少する見込み。作付面積は 891万ヘクタールと、作付期の土壤水分量の不足により前年度から 0.4%減少した。単収は 2.15トン/ヘクタールと前年度を 1%下回る見込み。

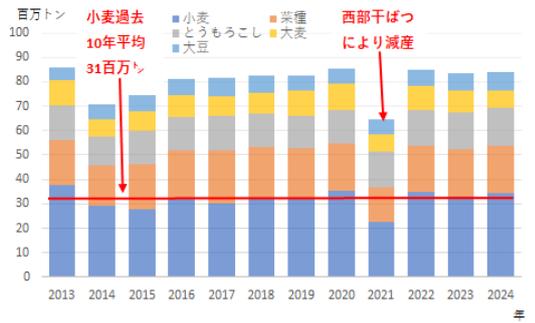
2024/25年度のとうもろこしの生産量は 1,517万トンと、前年度から 2%減少する見込み。これは、とうもろこし価格の低下による大豆への作付けシフトにより、作付面積が 148万ヘクタールと、前年度から 5%減少することによる。主産地のオンタリオ州及びケベック州では平年を上回る降雨に恵まれ、単収は 10.53トン/ヘクタールと前年度を 4%上回る見込み。

2024/25年度の大豆の生産量は720万トンと、前年度から 3%増加する見込み。これは、堅調な搾油需要と輸出需要、良好な土壤水分量、とうもろこし価格の低下による作付けシフトにより、作付面積が 232万ヘクタールと、前年度から 2%増加することによる。

(2) 輸出動向

小麦について、カナダの主要輸出先は、中国、インドネシア、日本等のアジア向け、米国、ペルー、コロンビア等の北・中米、アルジェリア等のアフリカ向け、イタリア等の欧州向けと多岐にわたっており（図8）、ロシア、EUに次ぐ世界第3位の輸出国である。2024/25年度の小麦の輸出量は、干ばつによる減産から輸出量が減少した前年度からわずかに回復し、0.2%増の 2,530万トンとなる見込み。これはデュラム小麦の輸出量が 480万トンと前年度から 38%増加することが主要因であり、普通小麦は2,050万トンと前年度から 6%減少する見込みとな

図7 カナダの主要穀物・油糧種子生産量の推移



出典：カナダ統計局のデータをもとに農林水産省で作成

写真1 サスカチュワン州の小麦 (2024. 7. 3)



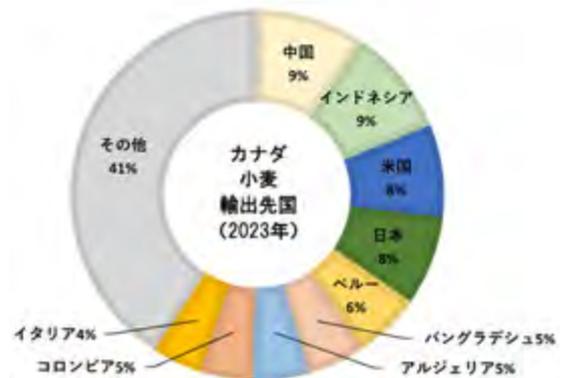
撮影：カール・デコニックスマス氏

写真2 オンタリオ州の大豆 (2024. 7. 2)



撮影：マーク・マクレーン氏

図8 カナダの小麦輸出先国 (2023年)



出典：Global Trade Atlasをもとに農林水産省で作成

っている。

大麦について、2024/25年度の輸出量は、期首在庫量と生産量の減少により供給量の減少が見込まれるため、前年度から17%減少し275万トンとなる見込み。

菜種について、カナダは世界最大の輸出国であり、主要輸出先は、中国が全体の約7割を占め、次いで日本、メキシコ等となっている（図9）。2024/25年度の菜種の輸出量は、期首在庫の増加により供給量の増加が見込まれるため、前年度から12%増加し750万トンとなる見込み。

とうもろこしについて、2024/25年度の輸出量は、世界的にとうもろこし供給が潤沢となる中、前年度並みの200万トンとなる見込み。また、輸入量は前年度から3%減少し290万トンとなる見込み。カナダはとうもろこしのほぼ全量を米国から輸入している。

大豆について、カナダは世界第5位の輸出国であり、主要輸出先は、中国が3割以上を占め、次いでイラン、アルジェリア、日本、インドネシア等となっている（図10）。2024/25年度の大豆の輸出量は、中国の堅調な需要により前年度から2%増加し500万トンとなる見込み。

3 今後の動向

2024/25年度は、豪州、カナダともに、概ね生育に適した天候に恵まれ、生産量の増加が見込まれる年となった。気象庁によれば、現在、エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態にあるが、11月以降、ラニーニャ現象が発生する確率は70%となるとみられる。豪州では、前回ラニーニャ現象が発生した2020年から2022年の間、降雨に恵まれ過去最高の生産量を記録しており、今後の天候状況に注目したい。

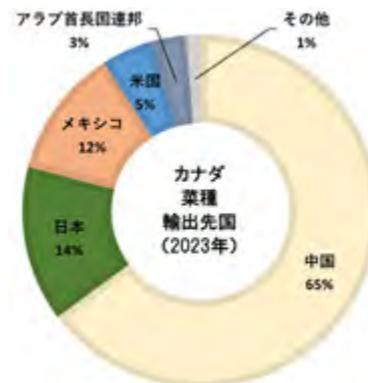
豪州の小麦及び大麦、カナダの小麦、大麦、菜種、大豆の最大輸出先はいずれも中国であり、中国の輸入動向は両国の輸出に大きな影響を与えている。

2020年5月、中国政府は豪州産大麦に対し73.6%のアンチダンピング関税及び6.9%の相殺関税を課した。これにより2020年以降、豪州の中国向け大麦輸出は激減したが、2023年8月、中国がこれらの関税を撤廃したことにより、中国向け大麦輸出は急速に回復している。

2024年9月9日、中国政府はカナダ産菜種に対するアンチダンピング調査を開始すると発表した。カナダが中国から輸入する電気自動車（EV）や鉄鋼・アルミニウム製品に追加関税を課したことへの対抗措置とみられる。カナダは菜種生産量の半分以上を中国向けに輸出しており、アンチダンピング関税が課されることとなればその影響は大きい。

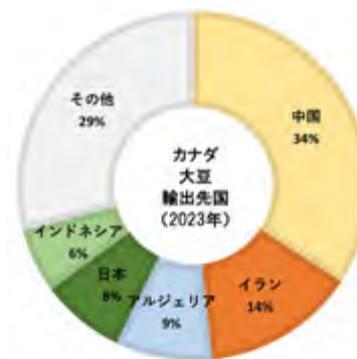
豪州の大麦、カナダの菜種、いずれも中国に次ぐ第2位の輸出先国は日本であり、中国の輸入動向を含め、豪州・カナダの穀物需給の動向を注視していきたい。

図9 カナダの菜種輸出先国（2023年）



出典：Global Trade Atlas をもとに農林水産省で作成

図10 カナダの大豆輸出先国（2023年）

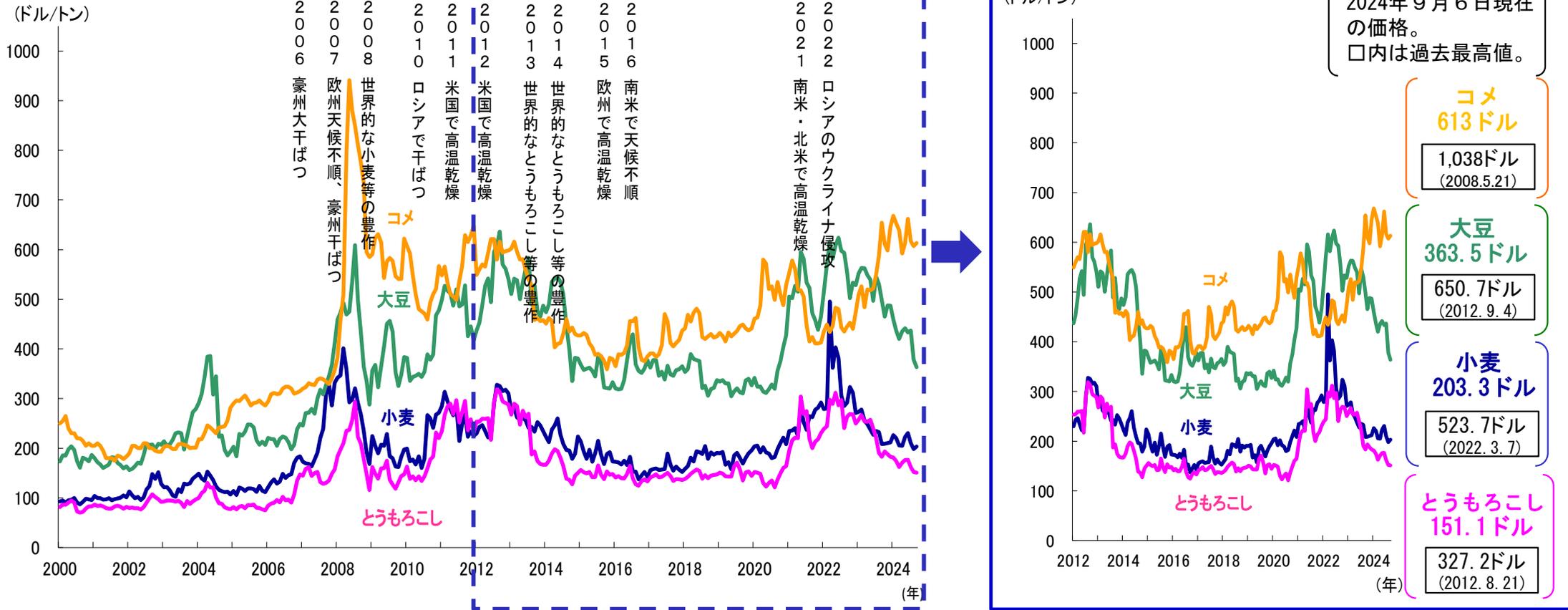


出典：Global Trade Atlas をもとに農林水産省で作成

資料 1 穀物等の国際価格の動向 (ドル/トン)

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。2022年、ロシアのウクライナ侵攻により、小麦は史上最高値を更新も、ウクライナからの臨時回廊等による輸出再開などもあり侵攻前の水準まで低下。一方で、とうもろこし、大豆はウクライナ侵攻時に高騰も、ブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで低下。コメは、2013年以降低下で推移も、2022年9月以降、インドの輸出規制導入と強化、インドネシアのエルニーニョによる減産を受けた需要増等から上昇。
- 穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要に加え、ウクライナ情勢により、2008年以前を上回る水準で推移。

□ 穀物等の国際価格の動向

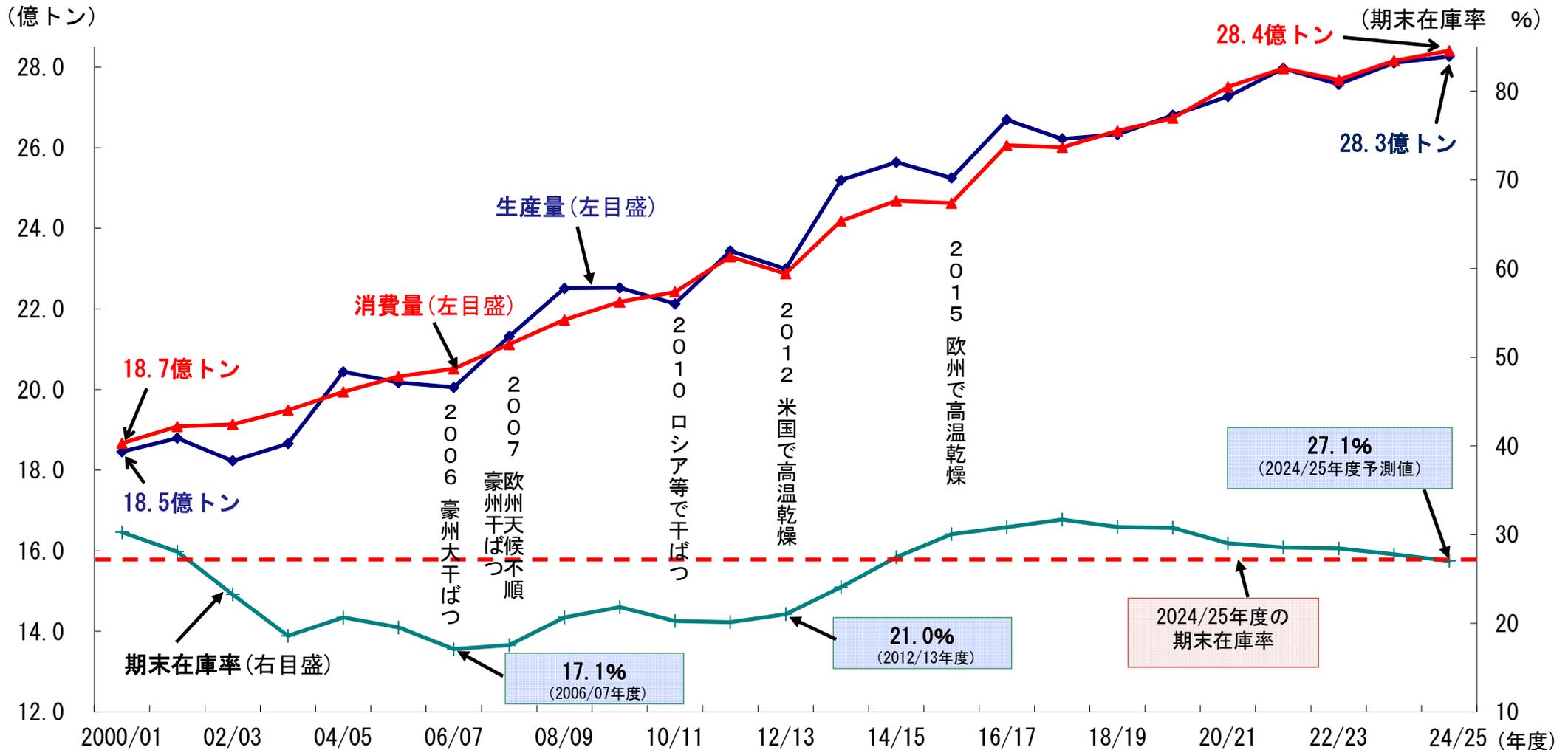


注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格(セツルメント)である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。
注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2024/25年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2024/25年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、27.1%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

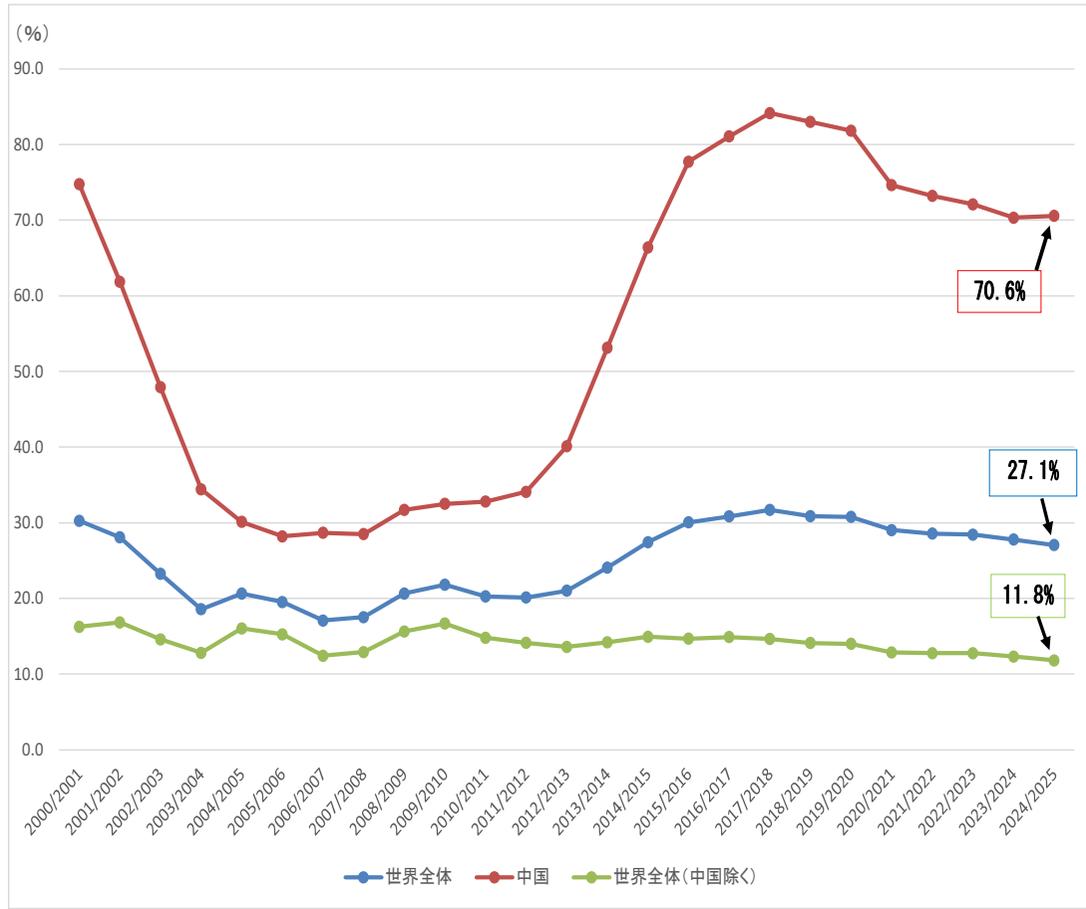


資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(September 2024)、「PS&D」

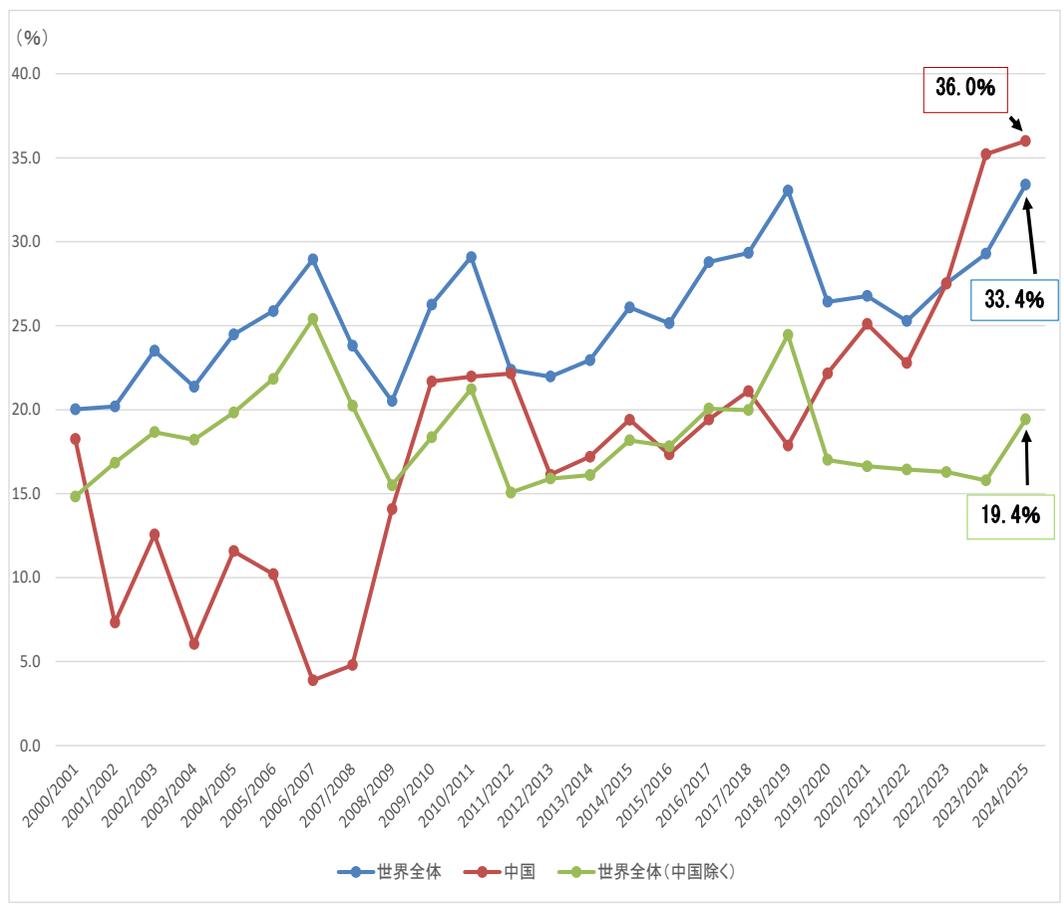
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(September 12, 2024)

注: 1) 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

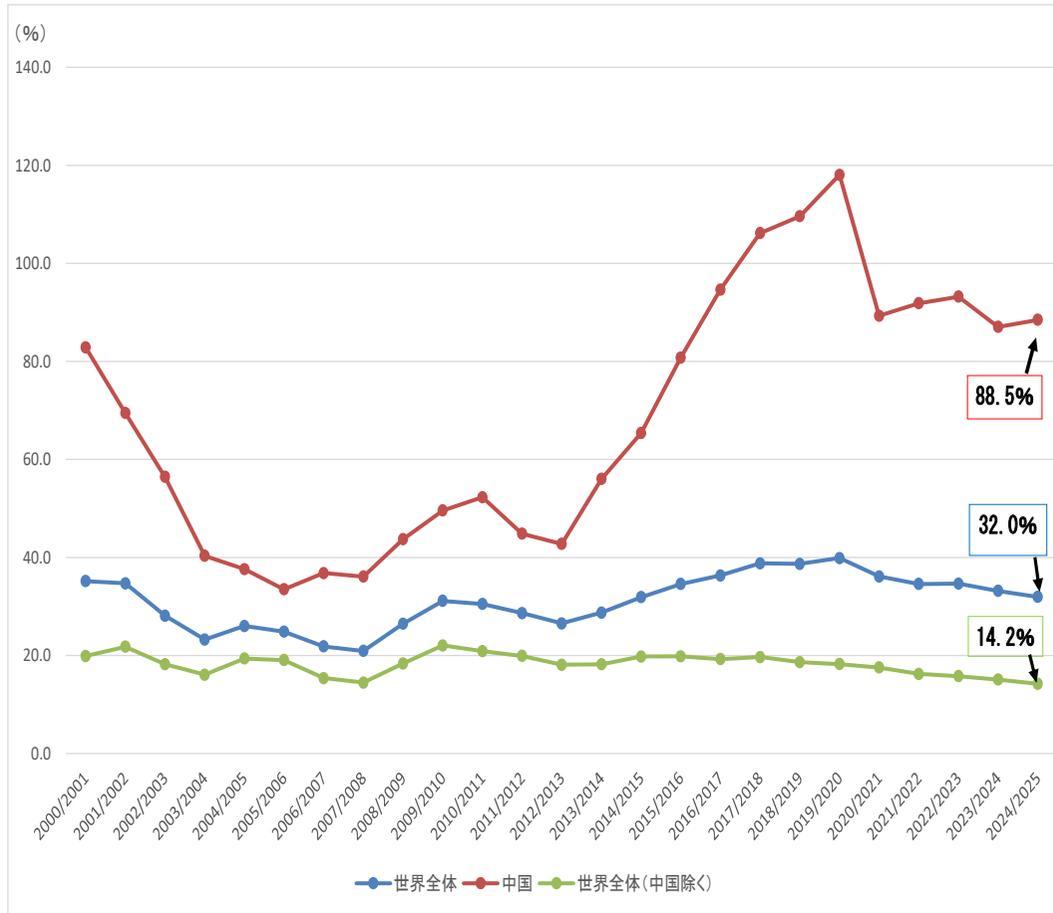
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

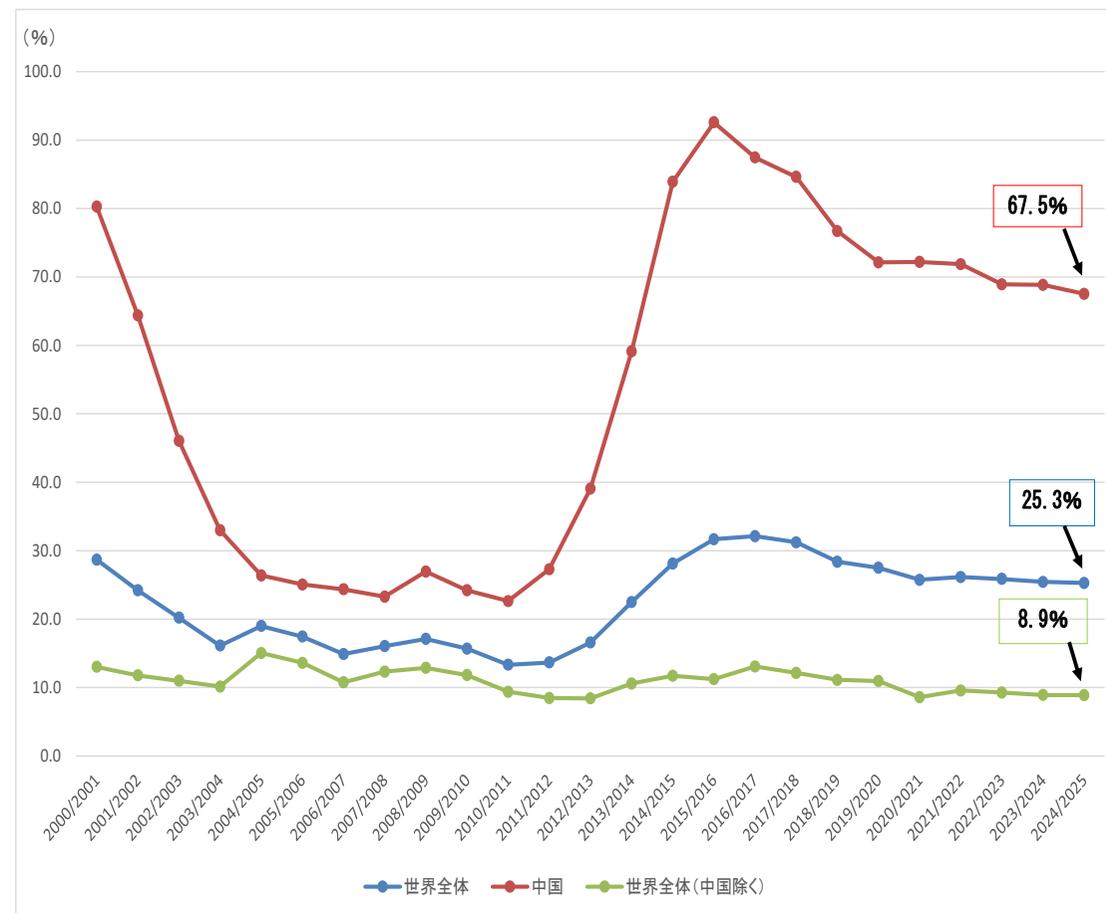
4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(September 12, 2024)

注: 1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

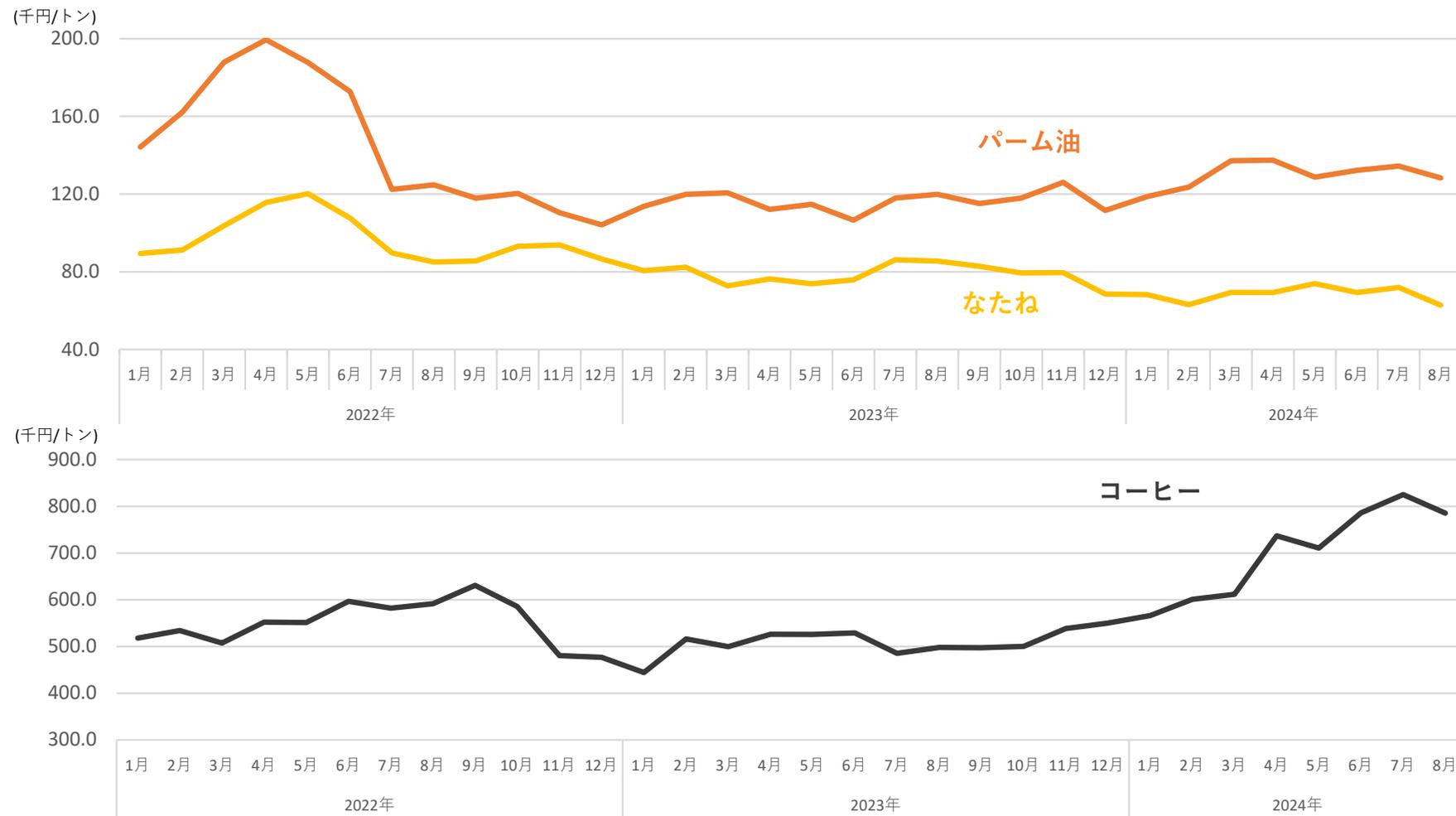
2)世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100

3)中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

4)中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料4-1 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

- なたね、パーム油の需要の面では、世界的な人口増加や中国等における所得水準の向上による食用油需要の拡大、エネルギー向け需要の増加などにより市場価格上昇の要因となっている。
- なたね、パーム油の供給の面では、なたねについては、2021年に主産地であるカナダで減産があったが、2022年以降は回復基調から平年並みの収量に近づいた。パーム油については、インドネシアの輸出禁止措置（2022年5月23日解除）があったが、マレーシアの生産量の増加によって供給不足の懸念が払拭された。いずれも2022年の高値からは落ち着きが見られるものの、依然高止まりしている。
- コーヒーについて、2021年以降、世界最大の生産国であるブラジルにおける天候不順による収穫量減少や世界的な物流の混乱等により、市場価格が上昇した。その後、消費地のインフレによる景況感の悪化やブラジルにおける収穫量の回復等により、市場価格は一時下降したが、ブラジルにおける天候不順やベトナムにおける干ばつによる収穫量減少等により、2024年以降は再び市場価格が高騰している。



2024年9月20日現在
□内は2022年1月以降の最高値。

パーム油
128.3千円/トン
199.5千円/トン (2022.4)

なたね
62.8千円/トン
120.3千円/トン (2022.5)

コーヒー
785.5千円/トン
825.0千円/トン (2024.7)

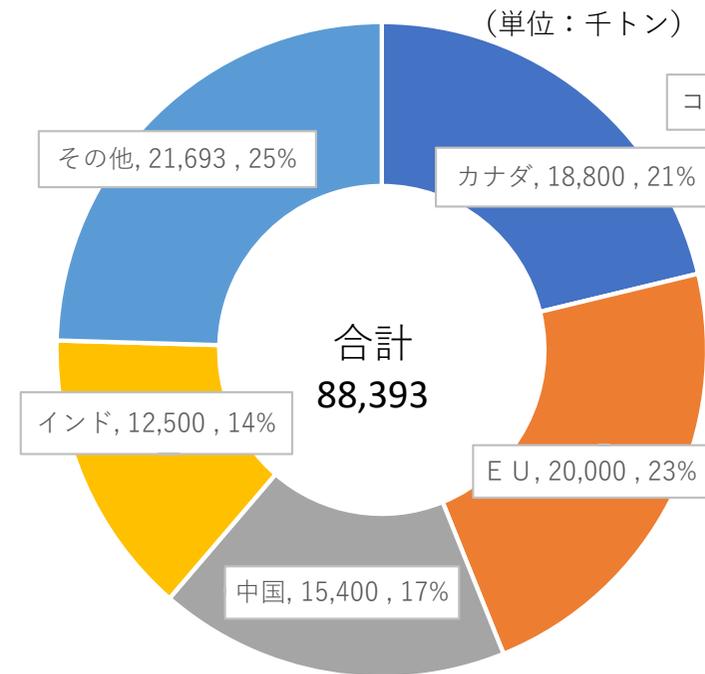
※ なたねの国際価格についてはカナダウィニペグ菜種市場の先物価格（期近物）を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格（期近物）を、コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

資料4-2 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

○主要生産国の生産状況

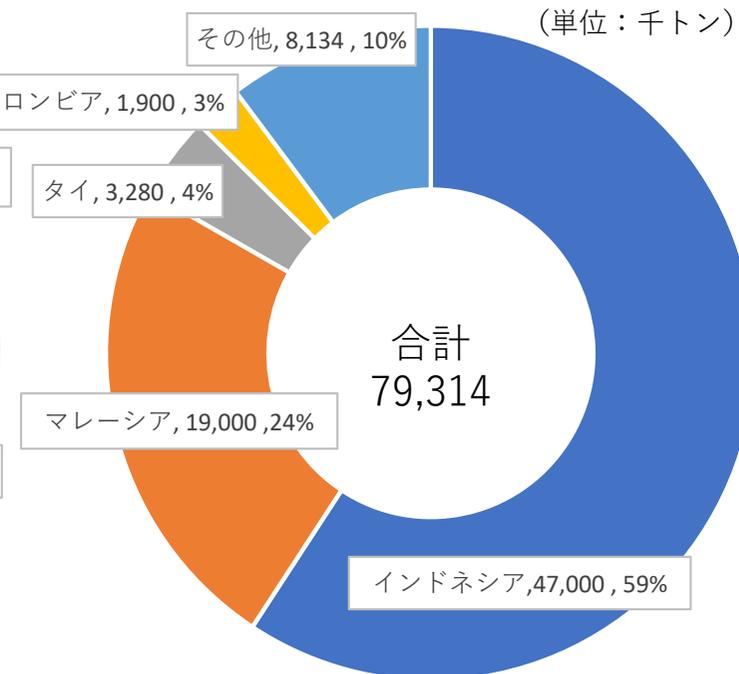
なたね生産量（2023/24）

（単位：千トン）



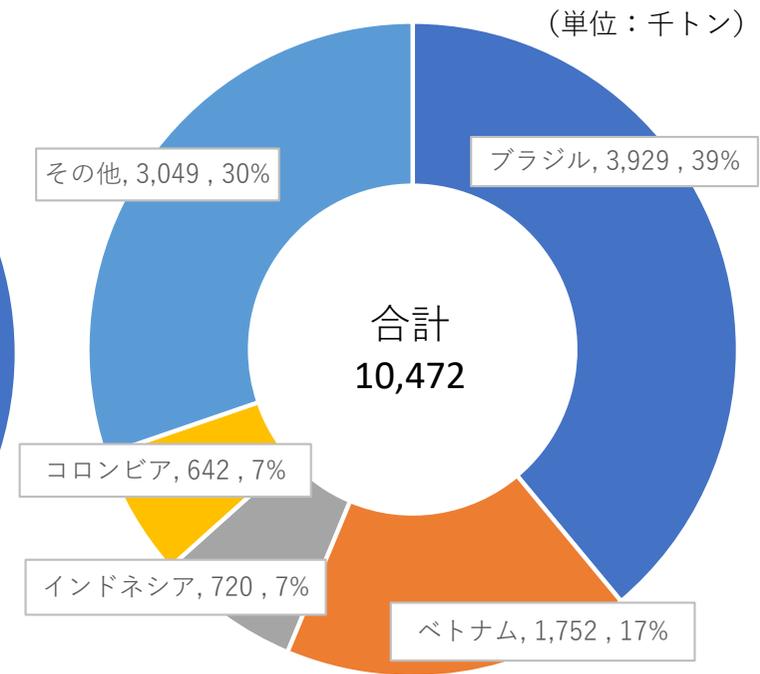
パーム油生産量（2023/24）

（単位：千トン）



コーヒー生産量（2022/23）

（単位：千トン）



※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）
2024年6月時点

※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）
2024年6月時点

※国際コーヒー機関（ICO）統計資料
2024年6月時点

○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2023年））

なたね	輸入量	割合
カナダ	1,039	51.4%
オーストラリア	983	48.6%
その他	0	0.0%
合計	2,022	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1205）

パーム油	輸入量	割合
マレーシア	574	85.6%
インドネシア	96	14.4%
その他	0	0.1%
合計	671	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1511）

コーヒー	輸入量	割合
ブラジル	124	35.0%
ベトナム	99	27.9%
コロンビア	34	9.6%
その他	98	27.6%
合計	356	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：0901.11～0901.12）

資料4-4 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移②

③ コーヒー

単位（千円/トン）

	2022年												2023年												2024年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
コーヒー	517.9	534.1	507.5	552.1	551.2	596.8	582.3	591.6	631.1	585.4	480.6	477.0	444.4	516.3	499.6	526.2	526.1	529.1	485.5	498.1	497.4	500.3	538.5	550.2	566.3	601.1	611.7	737.0	710.8	786.3	825.0	785.5				
前月比	100.6	103.1	95.0	108.8	99.8	108.3	97.6	101.6	106.7	92.8	82.1	99.2	93.2	116.2	96.8	105.3	100.0	100.6	91.8	102.6	99.9	100.6	107.6	102.2	102.9	106.2	101.8	120.5	96.5	110.6	104.9	95.2				
前年同月比	194.1	190.6	172.9	188.0	169.5	172.9	158.3	152.4	151.4	128.4	98.8	92.7	85.8	96.7	98.5	95.3	95.4	88.7	83.4	84.2	78.8	85.5	112.0	115.4	127.4	116.4	122.4	140.1	135.1	148.6	169.9	157.7				

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均から算出

注2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

資料5 食品小売価格の動向

○ 令和6年8月の国内の加工食品の消費者物価指数は113.7～151.8(前年同月比で-6.8%～7.1%)の範囲内。

消費者物価指数(総務省)
(令和6年3月～令和6年8月)

【参考】

食品価格動向調査(農林水産省)
(令和6年3月～令和6年9月)

品目	R2	R3	R4	R5	R6						上昇率 (前年 同月比)
	平均	平均	平均	平均	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
食パン	100.0	99.2	110.3	118.7	122.1	121.9	121.7	122.0	122.4	122.6	-0.2%
即席めん	100.0	100.1	107.6	119.7	123.9	123.5	124.6	121.4	122.9	124.3	-1.2%
豆腐	100.0	101.3	105.3	114.6	117.6	118.0	117.9	117.9	118.1	117.9	1.7%
食用油 (キャノーラ油)	100.0	106.9	144.4	160.2	148.3	148.0	147.8	149.0	146.8	148.1	-6.8%
みそ	100.0	99.3	101.3	108.1	112.9	113.3	113.2	113.8	113.4	113.7	5.7%
マヨネーズ	100.0	105.6	125.6	149.5	153.4	153.7	153.4	152.3	152.7	151.8	-2.5%
チーズ	100.0	98.7	107.5	131.1	134.5	135.3	130.5	132.6	132.3	135.4	-0.6%
バター	100.0	99.9	99.2	108.6	118.8	120.2	120.5	120.0	119.6	120.1	7.1%
生鮮食品を 除く食料	100.0	100.2	104.1	112.6	115.3	115.5	115.7	115.9	116.3	117.1	2.9%

品目	R2	R3	R4	R5	R6						上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)	
	平均	平均	平均	平均	3月	4月	5月	6月	7月	8月			9月
食パン	100.0	98.6	107.8	114.5	118.6	115.0	117.8	118.9	118.2	118.6	118.9	0.3%	0.0%
即席めん	100.0	99.2	105.6	117.5	121.0	117.3	119.8	114.9	121.0	120.4	119.1	-1.1%	-2.0%
豆腐	100.0	100.6	103.7	113.0	115.0	118.9	116.7	115.0	115.9	115.9	116.7	0.7%	1.1%
食用油 (キャノーラ油)	100.0	104.1	140.7	159.4	150.5	145.1	145.1	144.1	142.9	145.1	143.5	-1.1%	-8.6%
みそ	100.0	99.2	100.1	105.9	110.2	106.7	108.1	109.2	110.0	109.8	110.2	0.4%	4.4%
マヨネーズ	100.0	102.2	117.7	139.8	143.4	140.3	138.6	141.3	140.3	140.6	141.3	0.5%	-2.2%
チーズ	100.0	98.1	105.7	126.5	129.8	123.8	121.3	127.8	129.3	129.3	128.8	-0.4%	-1.1%
バター	100.0	99.8	99.1	108.0	118.5	119.7	119.4	119.7	119.7	119.7	118.8	-0.8%	7.5%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。平成30年9月までは週1回、同年10月以降は月1回実施。

注3: 調査結果は調査期間中の平均値で算出。

注4: 令和2年4～5月、令和3年1～3月、同5～9月については、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の対象都道府県においては調査を中止。そのためそれぞれ前月の値とは接続しない。

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

資料: 総務省消費者物価指数

資料 6-1 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

○独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は毎月25日頃に海外の畜産物の需給動向を公表（月報 畜産の情報）

○2024年10月号（9月25日に公表）の各品目の主な動きは以下の通り

『月報 畜産の情報』

◆牛肉

（米国）肥育牛価格は高値で推移、フィードロット飼養頭数は前年並み

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003411.html

（豪州）24年8月の牛肉輸出量、生産増と海外需要増を背景に過去最高を記録

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003412.html

（ブラジル）24年の牛肉生産量は3年連続の増加で過去最大の見込み

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003413.html

◆豚肉

（米国）24年6月の輸出量、米ドル高の影響により前年同月比10.2%減

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003414.html

（EU）24年1～5月の豚肉生産量はやや増加、豚肉卸売価格は下落

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003415.html

（中国）24年7月の豚肉価格は前年同月比24.4%高

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003416.html

資料 6-2 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

◆牛乳・乳製品

(EU) 24年上半期の生乳出荷量、前年同期をわずかに上回る

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003420.html

(豪州) 23/24年度の生乳生産量は増加、主要乳製品輸出量も全粉乳を除き増加

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003421.html

(NZ) GDT平均価格が大きく上昇、24/25年度の生産者支払乳価は引き上げへ

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003422.html

※GDT価格…グローバルデイトレード価格

◆飼料穀物

(世界：トウモロコシ) 米国などの増産見込みを受けて、期末在庫は高水準の見通し

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003423.html

(世界：大豆) 米国の生産増などから、大豆の期末在庫は大幅な増加見込み

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003424.html

(米国) 米国は単収増加で生産量は上方修正、輸出量も2年ぶりの高水準

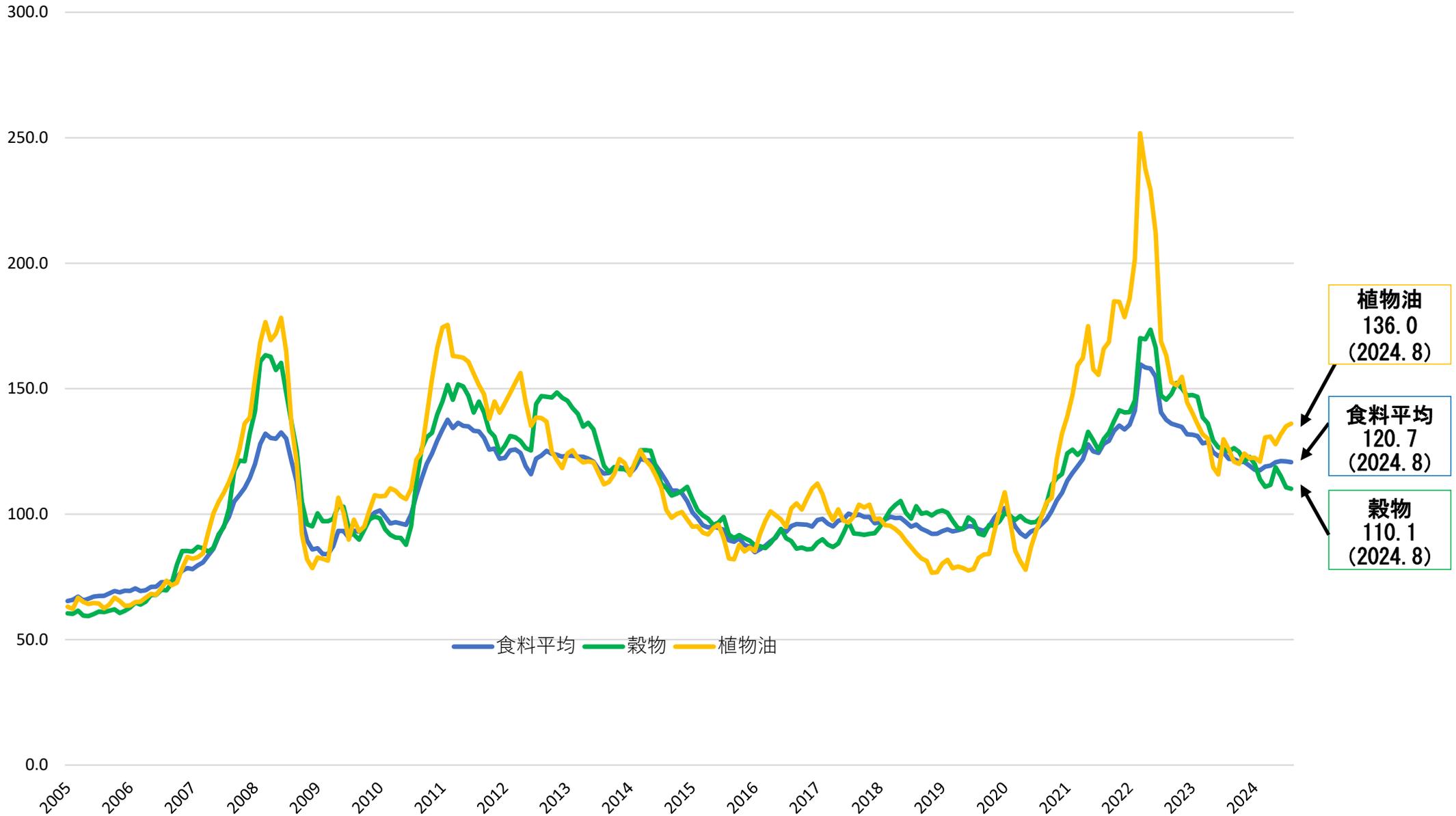
https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003425.html

(中国) トウモロコシおよび大豆の価格動向

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003426.html

資料 7 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2024.8)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

【今月のコラム】

アルゼンチンのローカルフード事情について

南米でブラジルに次いで二番目に面積の大きいアルゼンチンは、パンパと呼ばれる肥沃な土地を利用した穀物栽培や畜産業が盛んな国です。日本はアルゼンチンから飼料用とうもろこしを輸入するなど、我が国の食料安全保障上、重要な国の一つになります。

ブエノスアイレス市内のレストランでは、小麦粉の生地には牛肉など様々な具材を包んで焼き上げたエンパナダと呼ばれるローカルフードやアサードといったアルゼンチン流 BBQ 等の伝統料理のほか、日本食や中華料理等の多国籍料理を気軽に楽しむことができます。

今回、ご紹介させていただくのは、アルゼンチンのローカルフードの一つである、ミラネーザです（写真1）。日本だと、ミラノ風カツレツと呼ばれていますが、日本での呼び名の通り、イタリア料理です。アルゼンチンはイタリア系の移民が多いこともあり、パスタやピザなど街中のレストランで気軽に楽しむことができますが、ミラネーザは、数あるイタリア料理の中でもアルゼンチンで市民権を獲得している料理の一つに入っているのではないかと思います。アルゼンチンは世界でも有数の肉牛生産国であり、その国民の牛肉消費量は日本の約7倍の44.8キログラムと、とても多いです（図1）。このように日常的に牛肉を食べる食習慣が根付いていることから、ミラネーザが庶民には受け入れられていったのではないかと思います。ソースはお好みでケチャップやマスタードをつけて食べますが、ミラネーザにもいくつか種類があり、例えば、トマトソースとチーズがマルゲリータのようにミラネーザの表面に目一杯にトッピングされているのが、ナポリタンミラネーザです（写真2）。ミラネーザだけに限ったものではないですが、メインの料理と一緒に、よくポテトが添えられているのが定番です。また、アルゼンチンでは、牛肉だけでなく、豚肉や鶏肉のミラネーザもあり、日本でいう、トンカツ、チキンカツにあたります。

レストランでは、ミラネーザ単品で提供されるところをよく見かけますが、ブエノスアイレス市内のサンドイッチ屋では、ミラネーザサンドが売られています（写真3）。これはご想像の通りで、パンにミラネーザを挟んであるものですが、レタスやトマトなどの野菜も一緒にサンドされています。ミラネーザサンドに限った話ではないですが、アルゼンチンのサンドイッチはとにかくパンが大きく、ボリューム満点なのが特徴です。アルゼンチンといえばサッカーが人気のスポーツですが、プロの試合があると、スタジアム周囲の道端にはキッチンワゴンが軒を連ね、ミラネーザサンドやホットドッグなどを試合後に買って食べ歩きながら帰るサポーターたちを見かけることができます。また、ミラネーザは、外食だけでなく、家庭でもよく食べられています。街中の精肉店に行くと、生鮮の生肉と共に、ショーケースにパン粉と小麦粉が塗られた状態のミラネーザがよく売られており、自宅でも手軽に調理をすることができます（写真4）。

アルゼンチンは、まだまだ他にもたくさんの庶民に親しまれている美味しいローカルフードがありますので、皆さんも、チャンスがあれば是非アルゼンチンのローカルフードを体験してみてください。

文責：山路拓也(在アルゼンチン日本大使館(農業・経済協力担当))



写真1：ミラネーザ



写真2：ナポリタン
ミラネーザ

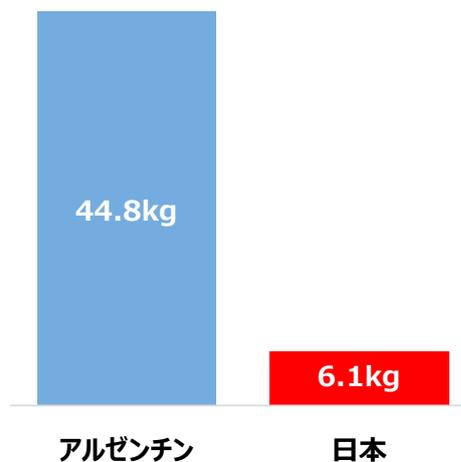


写真3：ミラネーザ
サンド



写真4：精肉店

図1 1人1年当たり牛肉供給量



【データ・出典】

ロサリオ穀物取引所

農林水産省「食料需給表」

本稿は、世界各国・地域の駐在員の方々にご協力をいただき、最新の現地情報をご紹介します。日本とは異なる文化や経済、国土条件等を背景として、それぞれの国や地域における食料の生産、流通、消費の特徴や考え方、また、日本の食料品や文化等に対するイメージなどについてもご紹介したいと思います。

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要 (詳細は右表を参照)

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・豪州、ウクライナで上方修正されたものの、EU、南アフリカで下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

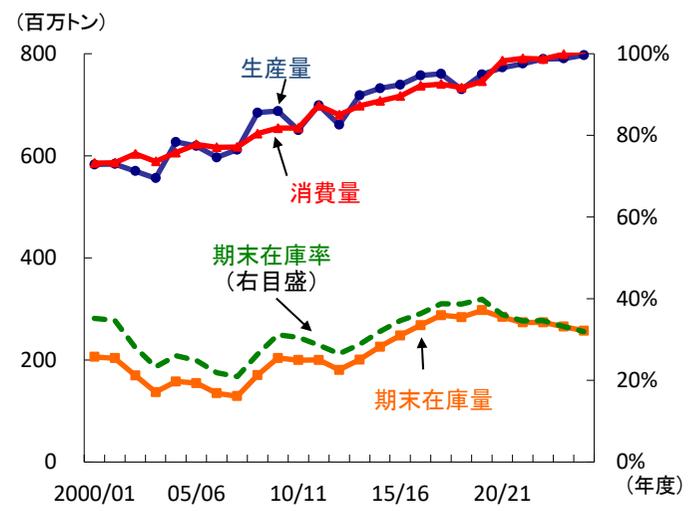
消費量 前年度比 前月比

- ・EU、ウクライナ等で下方修正されたものの、フィリピン、ベトナム等で上方修正され、前月から上方修正された。

輸出量 前年度比 前月比

- ・EUで下方修正されたものの、豪州、カナダ、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料:USDA「PS&D」(2024. 9. 12) をもとに農林水産省にて作成

◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

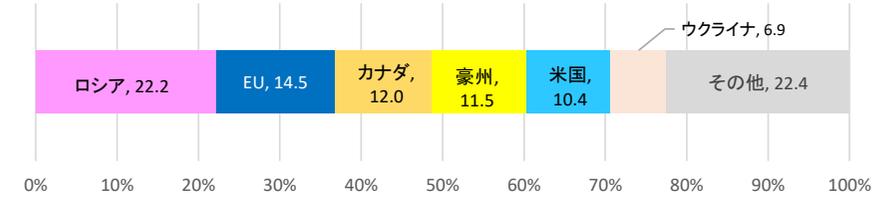
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	789.5	790.5	796.9	▲ 1.4	0.8
消費量	789.4	798.9	804.9	0.9	0.7
うち飼料用	152.7	160.1	151.9	0.8	▲ 5.1
輸出量	221.8	221.5	216.5	1.6	▲ 2.2
輸入量	213.1	222.3	210.3	1.9	▲ 5.4
期末在庫量	273.6	265.3	257.2	0.6	▲ 3.0
期末在庫率	34.7%	33.2%	32.0%	0.0	▲ 1.2

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 September 2024)

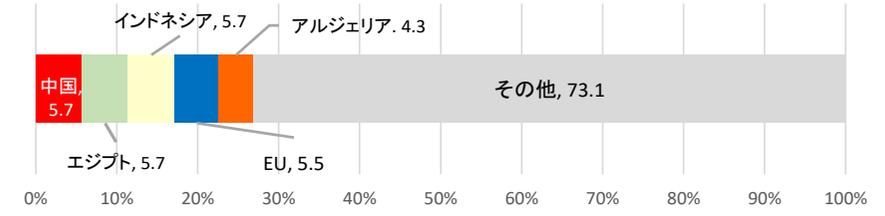
○ 2024/25年度の世界の小麦の生産量(796.9百万トン) (単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸出量(216.5百万トン) (単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸入量(210.3百万トン) (単位: %)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > 2024/25 年度の輸出量は 22.5 百万トンに回復の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 53.9 百万トンと、収穫面積及び単収が前年度より増加することから前年度と比べ 9.4%増、過去 5 年平均（48.2 百万トン）と比べても 11.8%増となる見込み。

品種別には、ハード・レッド・ウインター（HRW）が 21.1 百万トン（前年度比 29.1%増）、ハード・レッド・スプリング(HRS)が 13.6 百万トン（同 6.6%増）、ホワイト小麦（WW）が 7.8 百万トン（同 22.7%増）、デュラム小麦が 2.1 百万トン（同 29.6%増）と、前年度と比べ増加する一方で、ソフト・レッド・ウインター（SRW）は収穫面積の減少を受け 9.3 百万トン（同 23.8%減）となる見込み。

同「Crop Progress」（2024.9.16）によれば、9 月 15 日現在、春小麦の収穫進捗率は 92%と前年同期の 91%、過去 5 年平均の 90%をいずれも上回っている。なお、2024/25 年度の冬小麦の収穫は完了している。また、2025/26 年度の冬小麦の作付けが始まっており、作付進捗率は 14%と前年同期及び過去 5 年平均の 13%をいずれも上回っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 22.5 百万トンと、増産による輸出余力の増加に加え、EU、ロシア及びウクライナの減産による輸出余力の減少等を受け、前年度と比べ 16.7%増となるものの、過去 5 年平均（23.0 百万トン）比では 2.4%減となる見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 6 月～7 月の輸出量は、342.5 万トンと前年同期比 21.2%増となっており、輸出先国はメキシコ（19.0%）、日本（12.8%）、韓国（11.6%）の順で中国のシェア（2.2%）が減少している。

9 月 10 日時点の米国産小麦の FOB 価格は、EU、ロシア及びウクライナの生産量減少と米国産小麦の需要改善等を受け全ての品種が前月に比べ上昇しており、主要小麦輸出国（米国、アルゼンチン、豪州、カナダ、EU 及びロシア）の FOB 価格を比較した場合、米国産が一番高い価格（270 ドル/トン）となっており、価格競争力が低下している。

2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく 22.5 百万トンと、前年度と比べ 17.9%増加し 4 年ぶりの高水準となる見込み。

小麦—米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

(単位: 百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年6月～25年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.9	49.3	53.9	-	9.4
消費量	30.3	30.2	30.9	-	2.3
うち飼料用	2.0	2.3	3.0	-	28.3
輸 出 量	20.7	19.2	22.5	-	16.7
輸 入 量	3.3	3.8	2.9	-	▲ 23.9
期末在庫量	15.5	19.1	22.5	-	17.9
期末在庫率	30.4%	38.6%	42.2%	-	3.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.36	15.08	15.35	-	1.8
単収(t/ha)	3.13	3.27	3.51	-	7.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(12 September 2024)

図 米国の小麦の生産量・輸出量・期末在庫量の推移



表 米国産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量: 万トン、シェア: %)

2024/25年度 (2024年6月～7月)			2023/24年度 (2023年6月～2024年5月)			2022/23年度 (2022年6月～2023年5月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
メキシコ	65.0	19.0	メキシコ	325.8	17.4	メキシコ	365.4	18.0
日本	43.9	12.8	フィリピン	274.5	14.7	フィリピン	206.1	10.2
韓国	39.8	11.6	中国	216.9	11.6	日本	204.1	10.1
フィリピン	27.8	8.1	日本	197.1	10.5	韓国	147.2	7.3
台湾	15.1	4.4	韓国	130.1	6.9	中国	120.6	6.0
ナイジェリア	12.4	3.6	台湾	110.5	5.9	ナイジェリア	81.9	4.0
その他	138.6	40.5	その他	618.1	33.0	その他	901.7	44.5
計	342.5	100.0	計	1,873.0	100.0	計	2,027.0	100.0

資料: USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省で作成

< カナダ > 2024/25 年度の生産量は前月から下方修正され 34.3 百万トンの見込み (AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省 (AAFC) 「Outlook for Principal Field Crops」(2024.9.25)によれば、2024/25 年度の実産量は、収穫面積の引下げを受け前月予測から 6 万トン下方修正され 34.3 百万トンとなるものの、干ばつの影響により減産となった前年度に比べ 4.1%増となる見込み。種類別の生産量は、普通小麦は、収穫面積の引下げを受け前月予測から 6 万トン下方修正され 28.3 百万トン (前年度比 2.1%減)。デュラム小麦は、収穫面積の引下げを受け前月予測から 1 万トン下方修正され 6.0 百万トン (同 47.6%増) となる見込み。

主要生産州の各州政府によれば、サスカチュワン州では、9月9日現在、乾燥した天候により収穫が進展しており、収穫進捗率は、冬小麦 92%、デュラム小麦 83%、春小麦 60%となっている。アルバータ州では、9月10日現在、乾燥した天候により平年より早いペースで収穫が進展し、収穫進捗率は、冬小麦は収穫が完了し、春小麦が 70%、デュラム小麦が 72%となっている。マニトバ州の9月9日現在の収穫進捗率は、冬小麦 99% (前年同期 100%)、春小麦 68% (同 85%) と、春小麦の収穫進捗が降雨等の影響により遅れている。春小麦の作柄は概ね良好であるが、一部赤かび病等による品質低下がみられる。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 25.3 百万トンと、前年度と比べ 0.2%増となる見込み。種類別には、普通小麦が前年度に比べ 5.8%減少し 20.5 百万トンとなるものの、デュラム小麦は生産量の回復による輸出余力の増加と北アフリカ及び欧州の一部からの需要を受け、前年度に比べ 38.4%増加し 4.8 百万トンの見込み。

USDAによれば、2024/25 年度の輸出量は、期首在庫量の引上げによる輸出余力の増加を受け前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 26.0 百万トンと、前年度に比べ 2.2%増、過去 5 年平均 (23.3 百万トン) と比べても 11.4%増となる見込み。

カナダ穀物委員会 (CGC)によれば、2023/24 年度 (2023 年 8 月～2024 年 7 月) の輸出量は、2,458.9 万トンと前年度比 0.6%減。種類別には、普通小麦が前年度比 7.6%増の 2,115.3 万トンとなっており、輸出先国は中国 310.3 万トン (14.7%)、インドネシア 251.9 万トン (11.9%)、日本 173.9 万トン (8.2%) の順。また、デュラム小麦は生産量の減少と豊作となったトルコとの競合により前年度比 32.3%減の 343.5 万トンとなっており、輸出先国はアルジェリア 89.3 万トン (26.0%)、モロッコ 81.7 万トン (23.8%)、米国 46.2 万トン (13.5%) の順。AAFCによれば、2024/25 年度の期末在庫量は、期首在庫量の引上げ等を受け前月予測から 2.3 百万トン上方修正され 5.1 百万トンと、前年度に比べ 10.2%増となる見込み。

小麦—カナダ (春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	34.8	33.0	35.0 (34.3)	-	6.2
消費量	8.3	9.1	9.6 (8.7)	0.3	5.4
うち飼料用	3.2	4.0	4.5 (4.3)	0.5	12.2
輸 出 量	25.6	25.4	26.0 (25.3)	1.0	2.2
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	-	▲ 1.8
期末在庫量	5.6	4.6	4.5 (5.1)	1.5	▲ 1.1
期末在庫率	16.6%	13.3%	12.7% (14.9%)	3.7	▲ 0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.10	10.70	10.60 (10.53)	-	▲ 0.9
単収(t/ha)	3.45	3.08	3.30 (3.26)	-	7.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)、
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(25 September 2024)

表 カナダ産小麦の輸出量と輸出先国

○普通小麦 (輸出量:万トン)

2023/24年度 (2023.8～2024.7)			2022/23年度 (2022.8～2023.7)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
中国	310.3	14.7%	中国	296.8	15.1%
インドネシア	251.9	11.9%	インドネシア	213.8	10.9%
日本	173.9	8.2%	日本	167.3	8.5%
バングラデシュ	172.7	8.2%	ペルー	148.3	7.5%
ペルー	137.3	6.5%	バングラデシュ	144.4	7.3%
その他	1,069.2	50.5%	その他	996.1	50.7%
計	2,115.3	100.0%	計	1,966.6	100.0%

○デュラム小麦 (輸出量:万トン)

2023/24年度 (2023.8～2024.7)			2022/23年度 (2022.8～2023.7)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
アルジェリア	89.3	26.0%	イタリア	121.0	23.8%
モロッコ	81.7	23.8%	アルジェリア	120.8	23.8%
米国	46.2	13.5%	モロッコ	85.7	16.9%
イタリア	44.7	13.0%	米国	50.4	9.9%
日本	21.2	6.2%	チュニジア	32.5	6.4%
その他	60.4	17.6%	その他	96.8	19.1%
計	343.5	100.0%	計	507.3	100.0%

資料: カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省で作成

< 豪州 > 2024/25 年度の生産量は上方修正され 31.8 百万トンの見込み (ABARES)

【生育・生産状況】豪州農業資源経済科学局 (ABARES) 「Australian Crop Report」(2024.9.3) によれば、2024/25 年度の実生産量は、6 月予測から収穫面積及び単収が上げられたことを受け、2.7 百万トン上方修正され 31.8 百万トンの見込み。エルニーニョ現象の影響による降雨不足のために土壌水分不足だった前年度から収穫面積及び単収が増加 (収穫面積は前年度比 5.2%増、単収は同 16.6%増) することから、前年度と比べ 22.6%増、過去 5 年平均 (29.8 百万トン) と比べても 6.7%増となる見込み。

州別の生産量は、ウェスタンオーストラリア州 (WA 州) が 10.4 百万トン (前年度比 35.1%増)、ニューサウスウェールズ州 (NSW 州) が 11.0 百万トン (同 55.0%増)、クイーンズランド州 (QLD 州) が 2.1 百万トン (同 94.4%増) と、降雨に恵まれたことから前年度に比べ増加する一方、サウスオーストラリア州 (SA 州) が 4.3 百万トン (同 10.4%減)、ビクトリア州 (VIC 州) が 4.0 百万トン (同 23.6%減) と、乾燥が続いていることから前年度に比べ減少する見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、収穫面積及び単収の上げを受け前月予測から 2.0 百万トン上方修正され 32.0 百万トンと、前年度と比べ 23.3%増、過去 5 年平均 (29.8 百万トン) と比べても 7.3%増となる見込み。同「World Agricultural Production」(2024.9.12) によれば、生産州のうち、NSW 州及び QLD 州では作付面積の増加と作付け時期の土壌水分量が平年を上回っていたことから、特に良好な生産となる見込みである一方、SA 州及び VIC 州西部においては乾燥が続いており適切な降雨が必要となっている。

【貿易情報・その他】ABARES によれば、2024/25 年度の輸出量は、生産量の上方修正による輸出余力の増加等を受け 6 月予測から 1.9 百万トン上方修正され 21.8 百万トンと、前年度と比べ 10.0%増となるものの、過去 5 年平均 (22.4 百万トン) と比べると 2.7%減となる見込み。

2023/24 年度のうち 2023 年 10 月～2024 年 7 月までの輸出量は 1,759.0 万トンと、乾燥により生産量が減少したことから前年同期 (2,812.4 万トン) に比べ 37.5%減少している。同期間の輸出先国は、中国 374.0 万トン (21.3%)、インドネシア 284.4 万トン (16.2%)、フィリピン 194.3 万トン (11.0%) の順となっており、前年同期と同様に中国のシェアが高くなっている。

2024/25 年度の期末在庫量は、6 月予測から 0.8 百万トン上方修正され 4.1 百万トンと、前年度に比べ 47.8%増となる見込み。

小麦一豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位: 百万トン)

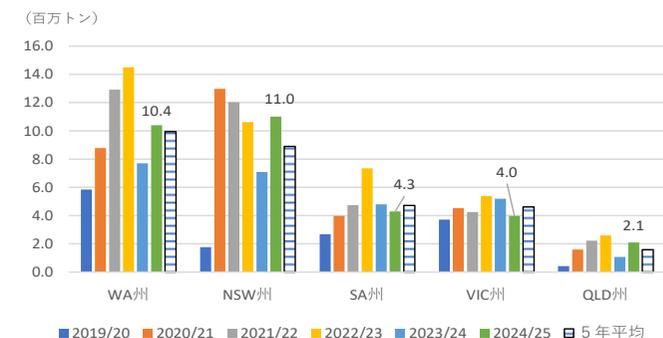
年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、() は ABARES	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	40.6	26.0	32.0 (31.8)	2.0	23.3
消費量	8.0	7.5	7.5 (8.7)	0.5	-
うち飼料用	4.5	4.0	4.0	0.5	-
輸出量	31.8	20.0	25.0 (21.8)	2.0	25.0
輸入量	0.2	0.2	0.2	-	▲ 9.1
期末在庫量	4.4	3.1	2.8 (4.1)	▲ 1.0	▲ 9.8
期末在庫率	11.0%	11.1%	8.5% (13.5%)	▲ 4.1	▲ 2.6

(参考)

収穫面積 (百万ha)	13.05	12.37	13.00 (13.01)	0.20	5.1
単収 (t/ha)	3.11	2.10	2.46 (2.45)	0.12	17.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
ABARES 「Australian Crop Report」(3 September 2024)

図 豪州の小麦の州別生産量の推移



資料: ABARES「Australian Crop Report」(2024.9.3) をもとに農林水産省で作成

表 豪州産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量: 万トン, シェア: %)

2023/24年度 (2024年7月)		2023/24年度 (2023年10月～2024年7月)		2022/23年度 (2022年10月～2023年7月)				
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア			
インドネシア	28.2	18.8	中国	374.0	21.3	中国	702.0	25.0
イエメン	21.9	14.7	インドネシア	284.4	16.2	インドネシア	412.1	14.7
フィリピン	20.9	14.0	フィリピン	194.3	11.0	フィリピン	267.8	9.5
南アフリカ	11.4	7.6	イエメン	141.9	8.1	ベトナム	251.6	8.9
韓国	11.2	7.5	韓国	107.7	6.1	韓国	245.5	8.7
日本	10.3	6.9	日本	103.7	5.9	タイ	187.1	6.7
その他	45.7	30.5	その他	553.1	31.4	その他	746.2	26.5
計	149.6	100.0	計	1,759.0	100.0	計	2,812.4	100.0

資料: ABARES 「Trade dashboard」 をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2024/25年度の生産量は前年度比7.2%減、輸出量は同26.1%減（欧州委員会）

【生育・生産状況】欧州委員会（EC）「EU Cereals Balance Sheets」（2024.8.29）によれば、2024/25年度の生産量は、フランス等で生産量が下方修正されたことにより前月予測から4.8百万トン下方修正され123.0百万トンと、2023年秋の多雨で冬小麦の作付けが困難となったほか、生育期間を通じた降雨過多等により収穫面積及び単収が減少することを受け、前年度比7.2%減、過去5年平均（133.4百万トン）と比べても7.8%減となる見込み。このうち、普通小麦は前月予測から4.7百万トン下方修正され116.1百万トンと、前年度比7.5%減、過去5年平均比でも7.8%減となる見込み。国別にはスペインが干ばつからの回復により前年度比85.1%増の6.5百万トンとなる一方、フランスが降雨過多等を受け同24.8%減の26.1百万トン、ドイツも同7.9%減の19.5百万トンとなる見込み。デュラム小麦は前月予測から0.1百万トン下方修正され6.9百万トンと、前年度比1.9%減、過去5年平均比でも8.0%減となる見込み。国別にはスペインが干ばつからの回復により前年度比102.5%増の0.9百万トンとなる一方、イタリアが乾燥により同14.5%減の3.1百万トンとなる見込み。USDAによれば、2024/25年度の実績は、収穫面積及び単収の引下げを受け前月予測から4.0百万トン下方修正され124.0百万トンと、前年度と比べ8.1%減、過去5年平均（134.6百万トン）と比べても7.9%減となる見込み。同「Wheat Outlook」（2024.9.16）によれば、EUの生産量は欧州北西部で降雨が続き小麦の生長が妨げられたことなどから、ドイツ、フランス、ポーランド等の生産量が減少し2018/19年度以来、最低水準になる見込み。特にフランスでは、1987/88年度以来最低の生産量になると予想されるとともに、小麦の品質低下も懸念されている。

【貿易情報・その他】ECによれば、2024/25年度の輸出量は、主要輸出国であるフランス等での減産等を受け前月予測から6.0百万トン下方修正され26.7百万トンと、前年度比26.1%減となる見込み。2023/24年度（2023年7月～2024年6月）の輸出量は、3,615.5万トンと、前年度比7.8%増。種類別には、普通小麦が3,512.7万トンと、前年度比7.5%増。デュラム小麦が102.7万トンと、同18.7%増。2024/25年度の輸入量は、ウクライナの生産量の引上げ等を受け前月予測から1.0百万トン上方修正され9.0百万トンとなるものの、ウクライナの減産で同国からの輸入が減少すること等から前年度比25.4%減となる見込み。2023/24年度の輸入量は、1,208.7万トンと、前年度比3.7%増。種類別には、普通小麦が957.6万トンと、前年度比0.4%減。デュラム小麦が251.1万トンと、同23.3%増。2024/25年度の期末在庫量は、前月予測から1.6百万トン上方修正され13.0百万トンとなるものの、供給量の減少から前年度と比べ28.5%減となる見込み。

小麦－EU27（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、()はEC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	134.3	134.9	124.0 (123.0)	▲ 4.0	▲ 8.1
消費量	109.0	111.0	108.8 (110.4)	▲ 1.5	▲ 2.0
うち飼料用	45.0	46.5	44.5 (45.6)	▲ 1.5	▲ 4.3
輸出量	35.1	37.9	31.5 (26.7)	▲ 2.5	▲ 16.8
輸入量	12.2	12.6	11.5 (9.0)	▲ 0.5	▲ 8.9
期末在庫量	16.0	14.7	9.9 (13.0)	▲ 0.2	▲ 32.4
期末在庫率	11.1%	9.8%	7.1% (9.5%)	0.0	▲ 2.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	24.40	24.31	23.00 (22.68)	▲ 0.10	▲ 5.4
単収(t/ha)	5.50	5.55	5.39 (5.42)	▲ 0.15	▲ 2.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
EC 「EU Cereals Balance Sheets」(29 August 2024)

図 EU27の普通小麦及びデュラム小麦生産量の推移

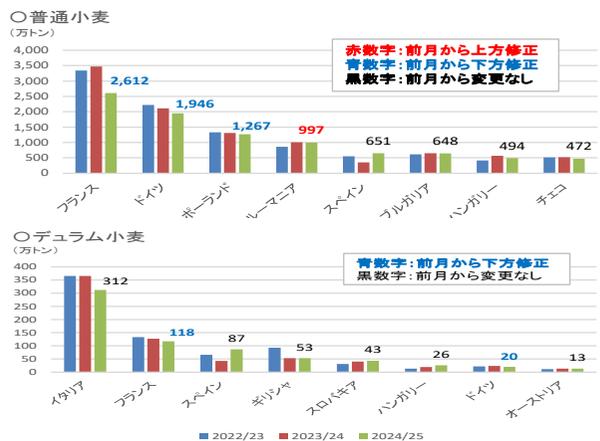


図 EU27の小麦の輸出量及び輸入量

○輸出量					○輸入量				
国名	2023/24年度 (2023.7～2024.6)		2022/23年度 (2022.7～2023.6)		国名	2023/24年度 (2023.7～2024.6)		2022/23年度 (2022.7～2023.6)	
	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)		輸入量 (万トン)	シェア (%)	輸入量 (万トン)	シェア (%)
モロッコ	489.1	13.5%	468.8	14.0%	ウクライナ	647.3	53.6%	614.6	52.7%
アルジェリア	393.7	10.9%	428.6	12.8%	カナダ	138.5	11.5%	189.0	16.2%
ナイジェリア	348.9	9.7%	294.9	8.8%	ロシア	82.1	6.8%	36.4	3.1%
中国	237.7	6.6%	108.0	3.2%	トルコ	76.8	6.4%	0.1	0.0%
エジプト	175.0	4.8%	181.9	5.4%	モルドバ	73.6	6.1%	32.2	2.8%
サウジアラビア	155.4	4.3%	196.3	5.9%	カザフスタン	56.3	4.7%	35.0	3.0%
その他	1,815.7	50.2%	1,676.6	50.0%	その他	134.0	11.1%	258.2	22.2%
合計	3,615.5	100.0%	3,355.1	100.0%	合計	1,208.7	100.0%	1,165.4	100.0%

資料：EC「EU trade for cereals」(2024.8.29)をもちに農林水産省で作成

< ロシア > 2024/25 年度の輸出量は 48.0 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量（クリミア地域分を含まず）は、前月予測からの変更はなく 83.0 百万トンと、前年度と比べ 9.3%減となるものの、過去 5 年平均（83.5 百万トン）と比べれば 0.6%減に留まる見込み。種類別には、冬小麦が 57.5 百万トンと、5 月の霜害とそれに続く高温乾燥により前年度に比べ 10.2%減。春小麦も 25.5 百万トンと、霜害と高温乾燥により同 7.3%減となる見込み。

ロシア統計庁によれば、2024/25 年度の作付面積は 2,850.6 万ヘクタール（前年度比 4.2%減）で、種類別には冬小麦が 1,613.4 万ヘクタール（同 3.1%増）、春小麦が霜害による大豆、菜種等への作付けの転換により 1,237.2 万ヘクタール（同 12.4%減）となっている。

ロシア農業省によれば、9 月 6 日現在、小麦全体（冬小麦及び春小麦）の収穫進捗率は前年同期並みの 70%で、6,781 万トンが収穫済みとなっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 48.0 百万トンと、史上最高となった前年度に比べ 13.5%減となる見込み。他方で、競合する EU 及びウクライナの小麦生産量も減少することから、両国に比べ引き続き価格競争力を維持する可能性が高いと予想されており、過去 5 年平均（42.2 百万トン）に比べ 13.7%増となる見込み。

現地情報会社によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～8 月の輸出量は、887.7 万トンと、前年同期 949.5 万トンに比べ 6.5%減となっている。輸出先国別には、エジプト 120.6 万トン（13.6%）、トルコ 62.8 万トン（7.1%）、バングラデシュ 61.9 万トン（7.0%）、アルジェリア 48.5 万トン（5.5%）、ケニア 45.3 万トン（5.1%）の順。引き続き、アフリカや中東向けの輸出が多くなっている。

USDA によれば、9 月 10 日時点の FOB 価格は、ロシア産は前月に比べ 4 ドル/トン下落し 218 ドル/トンとなり、主要小麦輸出国（米国、アルゼンチン、豪州、カナダ及び EU）の FOB 価格を比較した場合、ロシア産は引き続き他国産と比べ高い価格競争力を維持している。なお、ロシア政府は輸出関税の算定基準となる基準価格を 7 月 3 日以降 1 万 7,000 ㏩から 1 万 8,000 ㏩に引上げており、これにより実質的に輸出価格は下落し、ロシア産の価格競争力が更に増している可能性がある。

2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく 6.7 百万トンと、前年度に比べ 33.9%減となる見込み。

小麦－ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

(単位: 百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	92.0	91.5	83.0 (81.8)	-	▲ 9.3
消費量	41.0	40.5	38.8 (39.1)	-	▲ 4.3
うち飼料用	18.0	17.5	16.0 (16.0)	-	▲ 8.6
輸出量	49.0	55.5	48.0 (43.2)	-	▲ 13.5
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.1)	-	-
期末在庫量	14.4	10.2	6.7 (9.3)	-	▲ 33.9
期末在庫率	16.0%	10.6%	7.8% (11.3%)	-	▲ 2.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.00	28.83	28.00 (27.73)	-	▲ 2.9
単収(t/ha)	3.17	3.17	2.96 (2.95)	-	▲ 6.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 August 2024)

図 ロシア産小麦の月別輸出量の推移

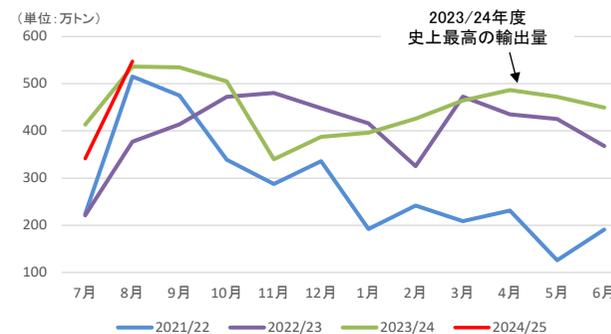


表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量: 万トン、シェア: %)

2024/25年度 (2024年8月)			2024/25年度 (2024年7月～8月)			2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
エジプト	78.2	14.3	エジプト	120.6	13.6	エジプト	868.3	16.0
トルコ	53.1	9.7	トルコ	62.8	7.1	トルコ	691.9	12.8
アルジェリア	39.7	7.3	バングラデシュ	61.9	7.0	バングラデシュ	350.2	6.5
バングラデシュ	36.6	6.7	アルジェリア	48.5	5.5	アルジェリア	236.8	4.4
イスラエル	26.4	4.8	ケニア	45.3	5.1	サウジアラビア	224.8	4.2
サウジアラビア	25.2	4.6	サウジアラビア	44.0	5.0	カザフスタン	222.2	4.1
ベトナム	24.7	4.5	イスラエル	41.8	4.7	パキスタン	213.0	3.9
その他	262.8	48.1	その他	462.8	52.1	その他	2,602.8	48.1
計	546.7	100.0	計	887.7	100.0	計	5,410.0	100.0

資料: 現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

<ウクライナ> 2024/25年度の生産量は上方修正され22.3百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の実産量（クリミア地域分を含む）は、単収が引上げられたことを受け前月予測から0.7百万トン上方修正され22.3百万トンとなるものの、3月以降、降水量が平年を下回り乾燥が続いた影響により前年度に比べ3.0%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均（2017/18～2021/22年度、27.9百万トン）と比べても20.1%減となる見込み。

ウクライナ国家統計庁（2024.8.30）によれば、2024/25年度の作付面積は490.2万ヘクタールと、前年度と比べ4.9%増。このうち、冬小麦は472.9万ヘクタールと、同5.5%増。春小麦は17.4万ヘクタールと、同10.0%減。ウクライナ農業政策食料省（2024.9.5）によれば、2024/25年度の冬小麦及び春小麦の収穫は完了しており、収穫面積は486.7万ヘクタール、収穫量は2,185.9万トンとなる見込み。また、2025/26年度の冬小麦の作付けが始まっており、作付予定面積447.9万ヘクタールに対し作付進捗率は2%と前年同期の5%に比べ遅れている。

【貿易状況・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、生産量の上方修正による輸出余力の増加等を受け前月予測から1.0百万トン上方修正され15.0百万トンとなるものの、生産量の減少等により前年度と比べ19.3%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均（18.1百万トン）と比べても17.1%減となる見込み。

現地情報会社によれば、8月20日、ウクライナ政府は小麦等の適正な輸出を確保するため最低輸出価格の承認に関する決議を採択した。最低輸出価格は毎月10日までに承認・公表され、当該価格に対し最大10%の減まで（最低輸出価格の90%以上の価格は輸出可能）認められる。また、9月3日、ウクライナ農業政策食料省は穀物市場関係者と覚書の付属書を締結し、2024/25年度の実産量の輸出上限は1,620万トンに設定された。

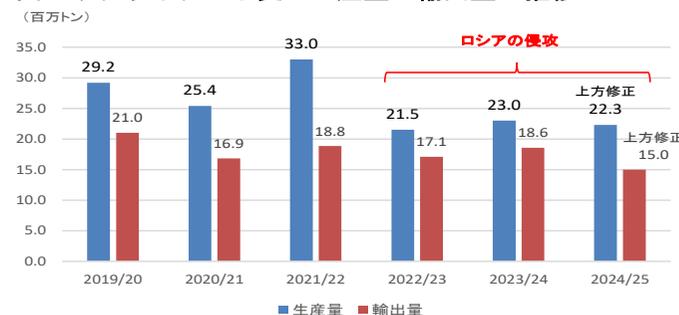
2024/25年度のうち2024年7月～8月の輸出量は378.3万トンと、前年同期202.7万トンに比べ86.6%増で、輸出先国は前年度とほぼ同様でスペイン、北アフリカ諸国及び東南アジアが中心。輸出量の増加の要因は、2023年7月のロシアの黒海穀物イニシアティブ離脱を受け輸出量が減少していたことや2024/25年産の収穫が平年よりも早かったことによるもの。USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、生産量の上方修正等を受け前月予測から0.04百万トン上方修正され1.1百万トンと、前年度に比べ53.5%増となるものの、史上3番目に低い水準となる見込み。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)			
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	21.5	23.0	22.3 (25.4)	0.7	▲ 3.0	
消費量	7.8	6.7	7.0 (10.0)	▲ 0.4	4.5	
うち飼料用	3.0	2.0	2.2 (2.0)	▲ 0.3	10.0	
輸出量	17.1	18.6	15.0 (15.0)	1.0	▲ 19.3	
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	33.3	
期末在庫量	2.9	0.7	1.1 (1.2)	0.04	53.5	
期末在庫率	11.8%	2.8%	5.0% (4.6%)	0.05	2.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.60	5.01	5.20 (6.17)	-	3.8	
単収(t/ha)	3.84	4.59	4.29 (4.11)	0.14	▲ 6.5	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 August 2024)

図 ウクライナの小麦の生産量・輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.9.12)をもとに農林水産省で作成

表 ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国

2024/25年度 (2024年8月)		2024/25年度 (2024年7月～8月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)				
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア			
スペイン	49.2	22.0	スペイン	77.5	20.5	スペイン	589.9	32.0
インドネシア	42.8	19.1	インドネシア	60.6	16.0	エジプト	172.1	9.4
ベトナム	24	10.7	ベトナム	37.8	10.0	インドネシア	151.5	8.2
アルジェリア	19.1	8.5	アルジェリア	37.3	9.9	トルコ	107.8	5.9
エジプト	14.6	6.5	エジプト	36.1	9.5	ルーマニア	100.1	5.4
タイ	9.8	4.4	イエメン	16.6	4.4	パキスタン	81.4	4.4
ポルトガル	8.2	3.7	タイ	16.3	4.3	ベトナム	75.1	4.1
イエメン	8.1	3.6	チェコ	13.1	3.5	バングラデシュ	73.7	4.0
チェコ	7.9	3.5	レバノン	11.7	3.1	イタリア	67.7	3.7
イタリア	6.8	3.0	イタリア	11.5	3.0	アルジェリア	63.3	3.4
その他	33.4	14.9	その他	60.0	15.9	その他	358.0	19.5
合計	223.7	100.0	合計	378.3	100.0	合計	1,840.6	100.0

資料：APK-Inform Agencyのデータをもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2024年1月～7月の輸入量は前年同期比15.6%増

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、前月予測からの変更はなく140.0百万トンと、前年度と比べ2.5%増、過去5年平均（135.8百万トン）と比べても3.1%増となり史上最高となる見込み。

中国国家気象センター「中国気象農業頻道」（2024.9.2）によれば、8月25日～8月31日における春小麦の生育状況は、登熟期から収穫期を迎えており収穫が進展している。なお、冬小麦の収穫は終了している。

中国国家统计局によれば、2024/25年度の小麦の作付面積は23.09百万ヘクタールと、前年度に比べ0.1%増（3.2万ヘクタール増）となる見込み。単収は5.99トン/ヘクタールと、前年度と比べ2.6%増。生産量は138.2百万トンと、前年度と比べ2.7%増となる見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、前月予測からの変更はなく151.0百万トンと、経済成長による食生活の変化に伴い小麦粉需要が増加する一方、2023/24年度に飼料用グレード国産小麦が増加していたものが減少し飼料用消費量が減少することから、前年度と比べ1.6%減となるものの、過去5年平均（146.1百万トン）と比べると3.4%増となる見込み。

2024/25年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく12.0百万トンと、史上最高の生産量となり国内需給が緩和することから、前年度に比べ12.0%減となる見込み。

中国海関統計によれば、2024年1月～7月までの輸入量は1,008.0万トンと、前年同期に比べ15.6%増となっている。輸入先別には、豪州329.9万トン（32.7%）、フランス229.7万トン（22.8%）、カナダ206.5万トン（20.5%）、米国174.9万トン（17.3%）の順となっており、当該4か国で輸入シェアの90%以上を占めている。豪州の輸入シェアは、2023/24年度の減産に伴う豪州産の相対的な価格競争力の低下等を受け前年同期の63.7%から32.7%と大きくシェアを減らしている一方で、フランス及び米国が大きくシェアを伸ばしている。

現地情報会社によれば、国内産小麦（広州黄埔港の高品質小麦）と外国産小麦（米国メキシコ湾出しの硬質系小麦（関税割当枠内））の価格を比較した場合、2023年8月以降、2023/24年産の収穫前の降雨で国内産小麦の品質が低下し高品質小麦の需給が逼迫したことから、国内産小麦の価格が外国産小麦を上回っている。USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく134.5百万トンと、前年度並みとなる見込み。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	137.7	136.6	140.0 (140.0)	-	2.5
消費量	148.0	153.5	151.0 (146.8)	-	▲1.6
うち飼料用	33.0	37.0	33.0 (28.0)	-	▲10.8
輸 出 量	1.0	1.0	1.0 (1.2)	-	▲3.8
輸 入 量	13.3	13.6	12.0 (10.7)	-	▲12.0
期末在庫量	138.8	134.5	134.5 (142.9)	-	-
期末在庫率	93.2%	87.0%	88.5% (96.6%)	-	1.5
（参考）					
収穫面積(百万ha)	23.52	23.63	23.70 (23.65)	-	0.3
単収(t/ha)	5.86	5.78	5.91 (5.92)	-	2.2
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(12 September 2024) IGC 「Grain Market Report」(15 August 2024)					

図 中国の小麦の供給量と消費量の推移



資料：USDA「PS&D」（2024.9.12）をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦輸入量と輸入先国

（輸入量：万トン、シェア：%）

国 名	2024年1月～7月		2023年1月～7月		2023年1月～2023年12月	
	輸入量	シェア	輸入量	シェア	輸入量	シェア
豪州	329.9	32.7	555.7	63.7	693.9	57.4
フランス	229.7	22.8	82.1	9.4	82.5	6.8
カナダ	206.5	20.5	144.4	16.6	254.8	21.1
米国	174.9	17.3	54.9	6.3	92.6	7.7
カザフスタン	39.7	3.9	23.6	2.7	51.9	4.3
ロシア	25.3	2.5	7.7	0.9	28.5	2.4
その他	2.0	0.2	3.7	0.4	5.7	0.5
計	1,008.0	100.0	872.0	100.0	1,209.9	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDAの見通し> 2024/25年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・タンザニア、米国、カナダで上方修正されたものの、EU、ガーナ、ロシア等で下方修正され、前月から下方修正された。

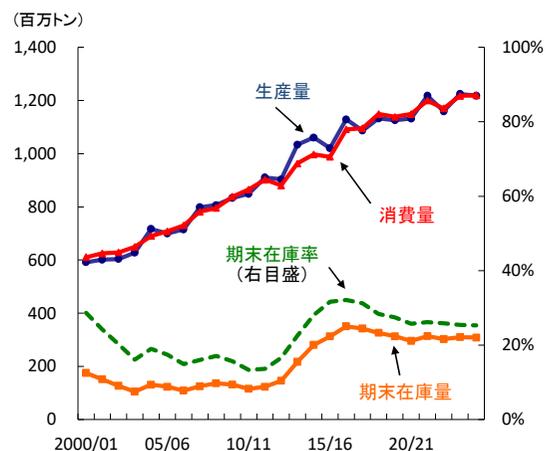
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ガーナ、イラン、EU等で下方修正されたものの、ブラジル、メキシコ、タンザニア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・タンザニア、カナダで上方修正されたものの、ロシア、セルビア、EU等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2024.9.12)をもとに農林水産省にて作成。

◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	1,159.7	1,224.3	1,218.6	▲ 1.3	▲ 0.5
消費量	1,170.6	1,217.5	1,219.9	1.7	0.2
うち飼料用	734.6	766.6	772.2	▲ 0.6	0.7
輸出量	180.2	199.7	191.4	▲ 0.1	▲ 4.2
輸入量	173.4	192.5	185.4	▲ 0.4	▲ 3.7
期末在庫量	302.8	309.6	308.4	▲ 1.8	▲ 0.4
期末在庫率	25.9%	25.4%	25.3%	▲ 0.2	▲ 0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 September 2024)

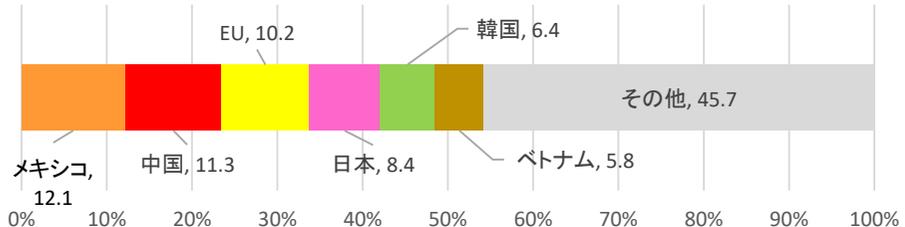
○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの生産量(1,218.6百万トン) (単位：%)



○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの輸出量(191.4百万トン) (単位：%)



○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの輸入量(185.4百万トン) (単位：%)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 単収の引上げにより、生産量は1.0百万トン上方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の実産量は、単収が前月予測から0.03トン/ヘクタール引き上げられたため、前月予測から1.0百万トン上方修正されたものの、収穫面積の減少（対前年度比4.4%減）を受け、史上最高の前年度より1.0%減の385.7百万トンと史上2番目に高い見通し。作付け時の大豆価格は、前年度に史上最高の豊作となり価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。

USDA「Crop Progress」(2024.9.16)によれば、9月15日現在、主要生産18州におけるデント（穀粒に窪みができる段階）進捗率は85%と、前年同期（88%）を下回っているものの、過去5年平均（84%）を上回っている。成熟進捗率も45%と、前年同期（48%）を下回っているものの、過去5年平均（38%）を上回っている。作柄評価が「良～やや良」の比率は65%であり、乾燥の影響を受けた前年同期（51%）を上回っている。現在、収穫が開始されており、収穫進捗率は9%と、前年同期（8%）、過去5年平均（6%）を上回っている。

【需要状況】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、安価なとうもろこし価格から飼料需要が増加したことを受けて、前年度に比べ0.3%増の321.7百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、米国産が価格競争力を有する見通しを受けて前年度より0.4%増の52.3百万トンの見込み。

USDA「Grain: World Markets and Trade」(2024.9.12)によれば、米国産の輸出価格は、9月9日現在、堅調な需要等を受けて前月から24ドル/トン上昇し、206ドル/トン。なお、2023年9月～2024年8月の輸出量は4,997万トンと、2023/24年度の豊作を受けて前年同期の3,126万トンより60%増。主な輸出先は、メキシコ1,647万トン（33.0%）、中国979万トン（19.6%）、日本782万トン（15.7%）の順。

USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、直近の輸出ペースが予想を上回ったことにより2023/24年度の輸出量が引き上げられたことを受けて、前月予測から0.4百万トン下方修正されたものの、高水準の生産量となる見通しを受けて、前年度より13.6%増の52.3百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より1.6ポイント上昇し13.7%と、過去5年平均（10.8%）を上回っている。

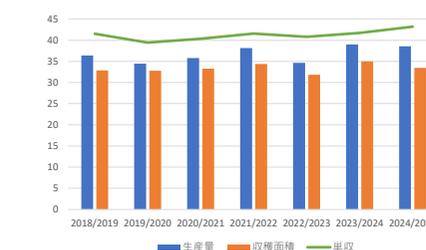
とうもろこし—米国

(単位:百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	346.7	389.7	385.7	1.0	▲1.0
消費量	305.9	320.8	321.7	-	0.3
うち飼料用	139.4	146.7	148.0	-	0.9
エタノール用等	131.5	138.8	138.4	-	▲0.3
輸出量	42.2	58.2	58.4	-	0.4
輸入量	1.0	0.8	0.6	-	▲15.8
期末在庫量	34.6	46.0	52.3	▲0.4	13.6
期末在庫率	9.9%	12.1%	13.7%	▲0.1	1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	31.85	35.01	33.47	-	▲4.4
単収(t/ha)	10.89	11.13	11.52	0.03	3.5

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)

図1 米国産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移
(百万t,百万ha) (t/ha)



資料: USDA「PS&D」(2024.9.12)をもとに農林水産省にて作成

図2 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし
輸出価格(FOB)の推移



資料: IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は 4.1%増加の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 9 月以降作付けが開始される 2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加を受けて前年度より 4.1%増の 127.0 百万トンと、史上 2 番目に高い生産量となる見込み。エルニーニョ現象が終息し、10 月以降冬にかけてラニーニャ現象に移行する見込みもあり、生産量は増加する可能性がある。

ブラジル食料供給公社 (CONAB) の月例報告 (2024.9.12) によれば、2023/24 年度のとうもろこしの生産量は、大豆への作付けシフトによる作付面積の減少や生育初期の高温乾燥等による単収の低下から前年度比 12.3%減の 115.7 百万トンの見込み。収穫が終了した夏とうもろこし (大豆-ブラジルのクロップカレンダー (P.23) 参照) は、エルニーニョ現象による南部での降雨過多の影響等により、前年度比 16.1%減の 23.0 百万トンの見込み。冬とうもろこしは、中西部の高温乾燥の影響を受け、前年度比 11.3%減の 92.8 百万トンの見込み。9 月上旬時点で、冬とうもろこしの収穫進捗率は 99%と、前年同期 (82%) を上回り、収穫はほぼ完了。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、エタノール用需要増を受けて前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、国内の畜産物消費の増加を背景とした飼料用需要の増加から、前年度より 1.2%増の 81.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて前年度より 2.1%増の 49.0 百万トンとなり、前年に引き続き米国に次ぐ世界第 2 位の輸出国となる見込み。

なお、2023/24 年度の輸出量は、直近の冬とうもろこし収穫を受けた中国向けの輸出量が前年同期を大きく下回っていることを受けて、前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、史上最高の豊作となった 2022/23 年度より 11.6%減の 48.0 百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～8 月の輸出量は 17.9 百万トンで、史上最高の増産となった前年度より減産したことから前年同期比 29%減。内訳は、エジプト 2.1 百万トン (11.9%)、中国 1.8 百万トン (10.0%)、韓国 1.7 百万トン (9.5%) の順。なお、とうもろこし輸出は、大豆の輸出が一巡し、冬とうもろこしの収穫を受け本格化し始めている。

とうもろこし-ブラジル

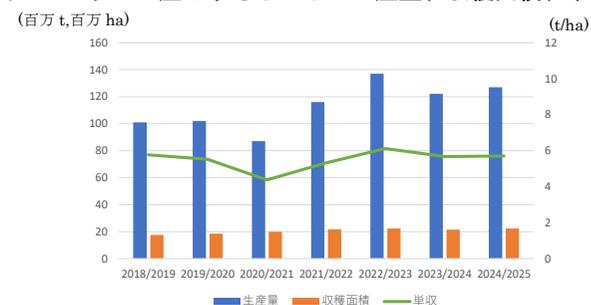
(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが約 8 割、夏とうもろこしは約 2 割)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	137.0	122.0	127.0 (124.6)	-	4.1
消費量	78.0	80.5	81.5 (82.7)	1.0	1.2
うち飼料用	61.5	62.0	63.0 (56.9)	▲ 1.0	1.6
輸出量	54.3	48.0	49.0 (43.5)	-	2.1
輸入量	1.3	1.3	1.5 (2.0)	-	15.4
期末在庫量	10.0	4.8	2.8 (4.5)	-	▲ 41.3
期末在庫率	7.6%	3.8%	2.2% (3.6%)	▲ 0.0	▲ 1.6

(単位: 百万トン)

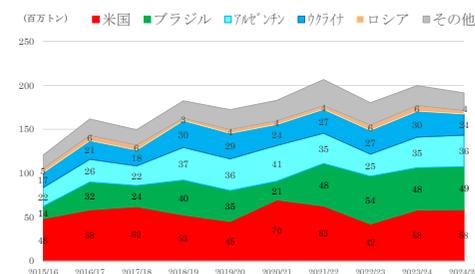
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 August 2024)

図 1 ブラジル産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料: USDA 「PS&D」(2024.9.12) をもとに農林水産省にて作成

図 2 世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移 (ブラジルは米国に次ぐ世界第 2 位の輸出国)



資料: USDA 「PS&D」(2024.9.12) をもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 8 月下旬以降作付けが開始される 2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 2.0%増、過去 5 年平均（49.5 百万トン）より 3.0%増の 51.0 百万トンの見込み。ヨコバイによる被害が生産者の作付け意欲に負の影響を及ぼしているほか、とうもろこし価格の下落により収益が見込める大豆に作付けがシフトすることが見込まれることから収穫面積が減少するものの、前年度に比べ単収が増加すると見込まれることによる。

USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、干ばつにより減産した 2022/23 年度より 39%増の 50.0 百万トンの見込み。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度並みの 14.8 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて、前年度より 2.9%増の 36.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2024 年 1～7 月の輸出量は 2,149.2 万トンで、2022/23 年度の減産から回復したことを受け、前年同期（1,364.6 万トン）比で 57%増となった。内訳は、ベトナム 427.5 万トン（19.9%）、ペルー 227.1 万トン（10.6%）、アルジェリア 202.7 万トン（9.4%）の順。

現地情報によれば、7 月に、中国の国有企業の COFCO（中糧集団）が、アルゼンチン産とうもろこしの中国向けの出荷を準備しており、輸出されれば 15 年ぶりの中国向け輸出再開となる。

前年 12 月 10 日に右派のミレイ政権が誕生し、同 12 日に経済相は通貨ペソの公式レートを、現行の 1 ドル＝350 ペソから 1 ドル＝800 ペソに引き下げた。また、2021 年 12 月以降、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、小麦及びとうもろこしに輸出上限数量を設定していたものの、2024 年 5 月に、市場に対する規制改革の一環として、小麦及びとうもろこしの輸出上限数量の撤廃を決定した。なお、アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、これを継続している。

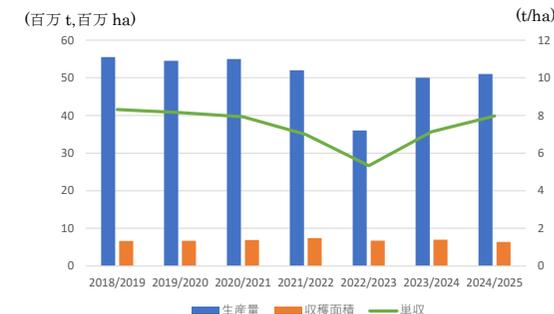
とうもろこし—アルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	36.0	50.0	51.0 (54.0)	-	2.0
消費量	14.2	14.8	14.8 (20.2)	-	-
うち飼料用	10.0	10.4	10.3 (15.0)	-	▲ 1.0
輸出量	25.2	35.0	36.0 (34.0)	-	2.9
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 50.0
期末在庫量	1.3	1.5	1.7 (1.6)	-	13.0
期末在庫率	3.3%	3.1%	3.4% (3.0%)	-	0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.75	7.00	6.40 (8.10)	-	▲ 8.6
単収(t/ha)	5.33	7.14	7.97 (6.79)	-	11.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 August 2024)

図 アルゼンチン産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.9.12) をもとに農林水産省にて作成

表 アルゼンチンのとうもろこし輸出量と輸出先国

(単位：万 t)

2024年7月		2024年1月～7月	
国名	輸出量	国名	輸出量
ベトナム	93.3	ベトナム	334.2
マレーシア	43.1	ペルー	189.6
ペルー	37.5	アルジェリア	189.4
韓国	34.9	マレーシア	198.1
チリ	26.2	韓国	174.0
その他	166.4	その他	662.3
計	401.4	計	1,747.6

資料：アルゼンチン国家統計局 (INDEC) をもとに農林水産省にて作成

< ウクライナ > 2024/25 年度の生産量は、前年度より 16.3%減の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、収益性の高い油糧種子への作付けシフトを受けて収穫面積が減少（対前年度比 2.4%減）するとともに、豊作の前年度から単収も減少（対前年度比 14.3%減）する見込みを受け、前年度より 16.3%減、侵攻前の史上最高の豊作となった 2021/22 年度から 35.4%減の 27.2 百万トンとなる見込み。

8 月末現在、生育ステージは概ね黄熟期から完熟期を迎えている。9 月 12 日現在、収穫進捗率は 6 %と、前年同期（0.3%）より進んでいる。

USDA によれば、9 月上旬、ウクライナ西部で降雨があったものの、他の地域では高温と干ばつが続いている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、減産による供給減を受けて前年度より 4.7%減の 4.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、供給減や EU での増産による輸入需要の減少を受け、前年度より 18.6%減の 24.0 百万トンの見込み。

なお、2023/24 年度の実績は、前月予測から変更はなく、臨時回廊による輸出が増加していることを受けて前年度より 8.9%増の 29.5 百万トンの見込み。

ウクライナ政府等によれば、臨時回廊による輸出が本格化した 2023 年 10 月～2024 年 8 月の輸出量は 2,802 万トン（海上輸送、陸路等による全ての輸出が含まれる）と、黒海穀物イニシアティブ履行時の 2022 年 7 月～2023 年 7 月と比べて月平均比で 6.7%増。輸出先国は、スペイン 616.4 万トン（22.0%）、中国 461.9 万トン（16.5%）、エジプト 361.9 万トン（12.9%）、オランダ 270.8 万トン（9.7%）の順。2023/24 年度に干ばつとなったスペイン向けが最大となっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、減産による供給減から前年度より 53.2%減、侵攻前の 5 か年平均より 75%減の 0.7 百万トンの見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度から 2.0 ポイント減の 2.6%と、2018/19 年度以来の低水準となる見込み。

とうもろこし-ウクライナ

(単位: 百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.0	32.5	27.2 (26.0)	-	▲ 16.3
消費量	4.9	4.3	4.1 (4.7)	-	▲ 4.7
うち飼料用	4.0	3.3	3.1 (3.3)	-	▲ 6.1
輸出量	27.1	29.5	24.0 (21.6)	-	▲ 18.6
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.8	1.6	0.7 (0.7)	-	▲ 53.2
期末在庫率	8.7%	4.6%	2.6% (2.7%)	-	▲ 2.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.05	4.20	4.10 (4.20)	-	▲ 2.4
単収(t/ha)	6.67	7.74	6.63 (6.19)	-	▲ 14.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 August 2024)

図 とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移
(2024/25 年度の実績は、2017/18 年度以来の低水準の見込み)



表 ウクライナ産とうもろこしの主な輸出先国

(単位: 万 t)

2024年8月		2023年10月～2024年8月	
国名	輸出量	国名	輸出量
スペイン	20.8	スペイン	616.4
インド	9.6	中国	461.9
スペイン	7.0	エジプト	361.9
イスラエル	6.8	オランダ	270.8
イタリア	5.7	イタリア	238.8

資料: ウクライナ国家統計局のデータを基に農林水産省にて作成

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 1.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、作付面積の増加見込みを受けて、前年度より 1.1%増の 292.0 百万トンとなり、史上最高となる見込み。

全国農業気象月報（2024.9.5）によれば、8 月は生育に適した気温となり、農地の土壌水分も十分であり、とうもろこしの開花や登熟に適しているとみられる。8 月末現在、主産地の黒竜江省では概ね絹糸抽出期から乳熟期にある。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要が増大することから、前年度より 2.0%増の 313.0 百万トンと史上最高の見込み。背景には国内の堅調な食肉需要があり、中国国家統計局（2024.1.17）によれば、2023 年の食肉生産量は 9,641 万トンと、前年比で 4.5%増。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要減少につながるの見方もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、前年度より 10.6%減の 21.0 百万トンの見込み。

なお、2023/24 年度の実績は、直近の輸入ペースを受けて前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、前年度より 25.7%増の 23.5 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～7 月の輸入量は、国内産とうもろこし及び代替品の価格低下等を受けて前年同期比 11.4%減の 1,214.3 万トンの見込み。内訳は、ブラジル 576.5 万トン（52.2%）、ウクライナ 428.8 万トン（32.7%）、米国 178.9 万トン（12.5%）の順。

等の在庫が十分なこと等を受けて、2,480 元/トンと前月（2,500 元/トン）から小幅に下落した。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引下げを受けて前月予測から 1.5 百万トン下方修正され、前年度より 0.01%減の 211.3 百万トンとほぼ横ばいの見込み。

とうもろこし—中国

(単位: 百万トン)

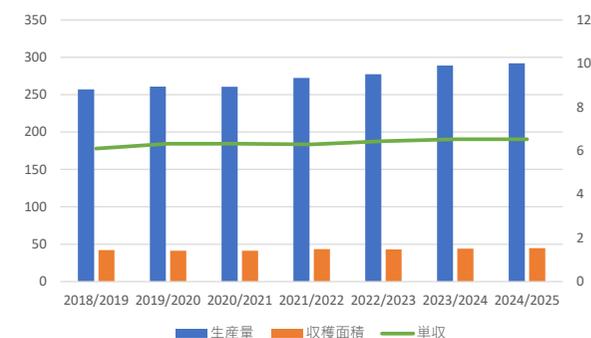
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	277.2	288.8	292.0 (296.0)	-	1.1
消費量	299.0	307.0	313.0 (315.7)	-	2.0
うち飼料用	218.0	225.0	231.0 (213.0)	-	2.7
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	18.7	23.5	21.0 (18.0)	▲ 2.0	▲ 10.6
期末在庫量	206.0	211.4	211.3 (178.6)	▲ 1.5	▲ 0.01
期末在庫率	68.9%	68.8%	67.5% (56.6%)	▲ 0.5	▲ 1.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	43.07	44.22	44.70 (44.20)	-	1.1
単収(t/ha)	6.44	6.53	6.53 (6.70)	-	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」,
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 August 2024)

図 中国産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移
(百万 t, 百万 ha) (t/ha)



資料: USDA 「PS&D」(2024.9.12) をもとに農林水産省にて作成

表 中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

(輸入量: 万トン、シェア: %)

2024年 1～7 月			2023年 1月～2023年12月			2022年 1月～2022年12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	576.5	47.5	ブラジル	1,280.6	47.2	米国	1,486.5	72.1
ウクライナ	428.8	35.3	米国	714.4	26.3	ウクライナ	526.4	25.5
米国	178.9	14.7	ウクライナ	551.8	20.3	ミャンマー	19.4	0.9
ロシア	8.8	0.7	ブルガリア	73.9	2.7	ブルガリア	14.7	0.7
ブルガリア	7.6	0.6	ミャンマー	38.1	1.4	ロシア	9.5	0.5
南アフリカ共和国	5.6	0.5	ロシア	29.4	1.1	ラオス	5.1	0.2
その他	8.1	0.7	その他	24.5	0.9	その他	0.2	0.0
計	1,214.3	100	計	2,712.7	100	計	2,061.8	100

資料: 中国海関統計をもとに農林水産省で作成

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要 (詳細は右表を参照)

<USDA の見通し>

2024/25 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・インドで上方修正されたものの、米国、バングラデシュ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

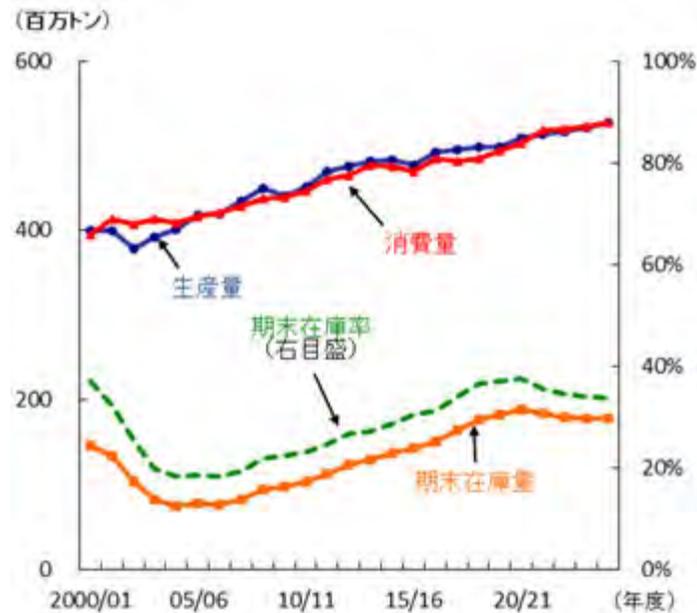
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国、バングラデシュで下方修正されたものの、中国、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・豪州、中国で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2024.9.12)をもとに農林水産省にて作成

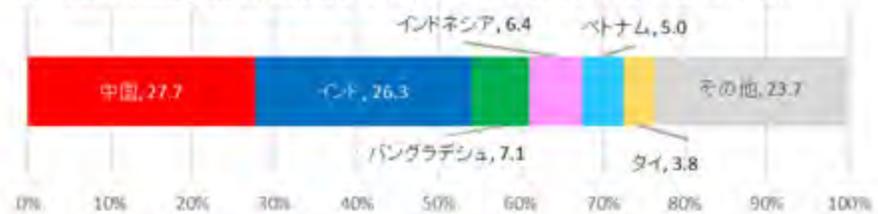
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	516.0	520.7	527.3	▲ 0.4	1.3
消費量	519.9	523.0	527.5	0.5	0.8
輸出量	54.6	54.4	54.3	▲ 0.1	▲ 0.2
輸入量	56.6	51.5	51.0	0.1	▲ 1.0
期末在庫量	179.8	177.4	177.2	▲ 0.2	▲ 0.1
期末在庫率	34.6%	33.9%	33.6%	▲ 0.1	▲ 0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 September, 2024)

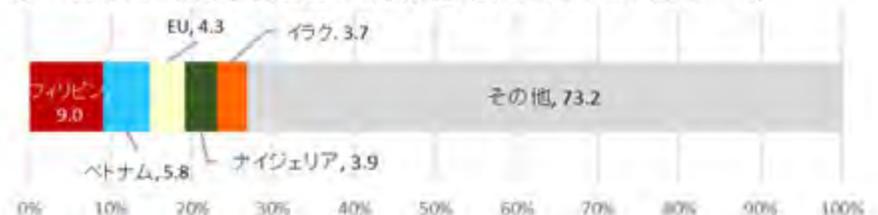
○ 2024/25年度の世界のコメの生産量(527.3百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸出量(54.3百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸入量(51.0百万トン)(単位：%)



(2) 国別のコメの需給動向

< タイ > 2024/25年度の生産量は、前年度に比べ0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、20.1百万トンと、前年度に比べ0.5%増加する見込み。雨季の開始が遅れ降雨量が少なかった2023年に比べ、2024年は平年通りの雨季（例年5月～10月）となり収穫面積の増加が見込まれることによる。

タイ農業協同組合省農業経済局「農業経済」（2024.8）によれば、2024/25年度の雨季米の生産量は、良好な天候から前年度に比べ0.8%増加の27.0百万トン（粳ベース）の見込み。単収は増加した一方、作付面積は、前年度の995万ヘクタールから994万ヘクタールに僅かに減少する見込み。コメの市場価格が高いことから栽培面積を増加させる生産者がいる一方、天候への懸念から乾燥に強いキャッサバや市場価格が高騰しているサトウキビへの作付のシフトも行われている。また2024/25年度の乾季米の収穫量は、降雨に恵まれ十分な灌漑用水が確保されるとみられることから前年度に比べ15%増の7.2百万トンの見込み。

USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、20.0百万トンと前年度に比べ0.5%減少する見込み。

タイ農業協同組合省農業経済局「農業経済」（2024.7月号）によれば、灌漑用水の不足による乾季米の作付面積が減少したこと等を受けて、前年度より減産するとみられる。なお、乾季米の収穫は、7月までに概ね終了している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は前月予測からの変更はなく、輸入拡大していたインドネシアの輸入減少を受け、7.5百万トンと、前年度から14.8%減少する見込み。2023/24年度（2024年1月～12月）の輸出量は、6月までの輸出ペースが予想を上回り、サハラ以南のアフリカ向けが増加したことを受け、前月予測から0.3百万トン上方修正され8.8百万トンの見込み。

タイ関税局によれば、2024年1～7月の輸出量は、前年同期比22.0%増の568.5万トンとなった。このうち、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大しているインドネシア向けの輸出量は、前年同期の71.8万トンから50.0%増加し、107.7万トンと輸出先国の中で最大となった。タイ政府は、2024年上半期の輸出実績に加え、インドのコメの輸出制限の継続、フィリピン及びインドネシアの需要増加等により、引き続き好調な輸出を見込み、2024年の輸出目標を800万トンから820万トンに上方修正した。

コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年1月～25年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.9	20.0	20.1 (20.1)	-	0.5
消費量	12.5	12.5	12.6 (12.5)	-	0.8
輸出量	8.7	8.8	7.5 (8.2)	-	▲ 14.8
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
期末在庫量	3.9	2.7	2.8 (3.0)	-	3.8
期末在庫率	18.1%	12.4%	13.7% (14.5%)	-	1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.07	10.65	10.70 (10.70)	-	0.5
単収(もみt/ha)	2.86	2.85	2.85 (1.88)	-	-

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September, 2024)
IGC「Grain Market Report」(15 Aug, 2024) (単収は精米t/ha)

表 タイの国別輸出量

(輸出量:万トン、シェア:%)

2023/24年度 (2024年1月～7月)			2022/23年度 (2023年1月～12月)			2021/22年度 (2022年1月～12月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
インドネシア	107.7	18.9	インドネシア	141.1	16.1	イラク	160.0	20.8
イラク	63.0	11.1	南アフリカ	88.5	10.1	南アフリカ	77.5	10.1
米国	46.5	8.2	イラク	85.4	9.7	中国	75.2	9.8
南アフリカ	40.1	7.1	米国	70.6	8.1	米国	65.2	8.5
フィリピン	30.2	5.3	中国	47.2	5.4	日本	31.3	4.1
コートジボワール	25.2	4.4	フィリピン	42.0	4.8	セネガル	23.2	3.0
その他	255.8	45.0	その他	401.5	45.8	その他	338.6	43.9
計	568.5	100.0	計	876.3	100.0	計	771.0	100.0

資料: タイ関税局 (2024.9)

< 米国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実産量は、単収の低下を受け、前月予測から僅かに下方修正され 7.0 百万トンの見込み。前年度に比べ、生産量は収穫面積の増加から 0.7%増加し、2020/21 年度以降最大となる見込み。

同「Rice Outlook」(2024.9.16)によれば、7月上旬のテキサス州でハリケーン「ベリル」が、出穂期にあるコメに倒伏等の影響を与え単収が低下した。種類別の生産量は、長粒種が5.3百万トンと前年度を8%上回るものの、中・短粒種は、収穫面積の影響を受け1.7百万トンと前年度を18%下回る見込み。中・短粒種の主産地であるカリフォルニア州では、5月初旬の豪雨により作付が遅延するとともに、この豪雨と価格の低下により作付面積が減少した。

同「Crop Progress」(2024.9.8)によれば、9月8日現在の作柄評価は、テキサス州でハリケーン「ベリル」の影響を受けたものの「やや良～良」の割合が80%と前年同期(71%)を9ポイント上回っている。また同「Crop Progress」(2024.9.16)によれば、9月15日現在の主要生産6州の収穫進捗率は64%と、前年(54%)及び過去5年平均(44%)を上回っている。南部の生産州では作付が早かったことから収穫が進展している一方、カリフォルニア州では平年通り9月上旬から収穫が開始された。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から僅かに下方修正されたものの、期首在庫及び輸入増を受け、前年度に比べ 2.2%増の 5.1 百万トンと史上最高の見込み。

2024/25 年度の輸入量は、前月予測から僅かに上方修正され、引き続きタイ及びインドを中心としたアジア諸国からの香り米の輸入が継続する見込みを受け、前年度に比べ 4.2%増の 1.5 百万トンと史上最高の見込み。2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 3.2 百万トンと、輸出余力の増加から前年度に比べ 2.9%増加し、2016/17 年度以降で最高となる見込み。種類別の輸出量は、長粒種は中南米諸国向けを中心に、米国の豊富な輸出余力と価格競争力から 2017/18 年度以降最高となり、中・短粒種はアジア諸国を中心に、供給量の増加と米国産の価格低下から前年度に比べ増加する見込み。

USDA「Exports Sales Query System」(2024.8)によれば、2023/24 年度(2023年8月～2024年7月)の輸出量は 3.3 百万トンで、主な輸出先国は、メキシコ 90.6 万トン(27.7%)、ハイチ 34.5 万トン(10.5%)、日本 29.6 万トン(9.0%)の順。2024/25 年度の期末在庫量は、期首在庫の引上げ等を受け、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 1.5 百万トンとなり、前年度に比べ 16.0%増加する見込み。

コメー米国

長粒種の実産量が 75%を占め、中・短粒種の実産量は 25%、その内カリフォルニア州での栽培が 20%

(単位:百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.1	6.9	7.0	▲ 0.03	0.7
消費量	4.6	4.9	5.1	▲ 0.03	2.2
輸 出 量	2.1	3.1	3.2	-	2.9
輸 入 量	1.3	1.4	1.5	0.03	4.2
期末在庫量	1.0	1.3	1.5	0.1	16.0
期末在庫率	14.4%	15.5%	17.6%	0.8	2.0

(参考)
 収穫面積(百万ha) 0.88 1.16 1.17 - 0.9
 単収(もみt/ha) 8.28 8.57 8.50 ▲ 0.04 ▲ 0.8

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(12 September, 2024)

図 米国の長粒種と中・短粒種の実産量・輸出価格の推移



資料:USDA「Rice Outlook」(2024.9.16)より。価格は年度内の平均価格

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 1.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、146.0 百万トンと、収穫面積の増加（前年度比 0.2%増）及び史上最高の単収（前年度比 0.7%増）から、前年度に比べ 1.0%増の見込み。政府の最低支持価格の上昇を受け、収穫面積はわずかに増加する見込み。

全国農業気象月報（2024.9.5）によれば、8 月末まで、主産地である東北地域（黒龍江省、吉林省、遼寧省）では、一期作米の大部分は乳熟期であり、四川盆地（中国南西部、四川省、重慶市）では一期作米は成熟し、収穫された。

江淮地帯（長江・淮河の間）の大部分では出穂・穂ばらみ期にあり、一部は乳熟期にある。

二期作早生米は収穫が終了している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 145.1 百万トン。飼料用需要が比較的安価なとうもろこしへシフトすることや、食用需要が高齢化の進展、若年層の食生活の西洋化等に伴い減少することから、前年度比で 2.0%減少する見込み。

消費量は 2021/22 年度に史上最高の 156.4 百万トンに達したのち、3 年連続で減少している。

2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、特に飼料用の国内消費量の減少や生産量の増加から、前年度比 2.0%減の 1.5 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～7 月の輸入量は 80.5 万トン（前年同期比 25.5%増）で、輸入国別では、ミャンマー 24.5 万トン（30.5%）、ベトナム 22.5 万トン（28.0%）、タイ 21.7 万トン（26.9%）の順。

USDAによれば、「一帯一路」政策の賛同国を拡大する目的から、同政策の関係国に対しコメの輸出促進を図っているものの、軟調な需要に基づく輸出ペースが続くと予想されることから、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、前年度比 14.1%減の 1.4 百万トンの見込み。

2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく 104.0 百万トンと、前年度に比べ 1.0%増の見込み。なお、期末在庫量は、2020/21 年度に史上最高の 116.5 百万トンに達したのち低下したものの、2024/25 年度は上昇に転じた。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは 3 割程度

(単位: 百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予 測 値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	146.0	144.6	146.0 (145.0)	-	1.0
消 費 量	155.0	148.1	145.1 (145.2)	0.1	▲ 2.0
輸 出 量	1.7	1.6	1.4 (1.6)	▲ 0.1	▲ 14.1
輸 入 量	4.4	1.5	1.5 (2.1)	-	▲ 2.0
期末在庫量	106.6	103.0	104.0 (101.7)	-	1.0
期末在庫率	68.0%	68.8%	71.0% (69.3%)	-	2.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	29.45	28.95	29.00 (29.00)	-	0.2
単収(もみt/ha)	7.08	7.14	7.19 (5.00)	-	0.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September, 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 Aug, 2024) (単収は精米t/ha)

図 中国の生産量、収穫面積、単収の推移
(2004/05～2024/25 年度)



資料: USDA 「PS&D」(2024.9.12)をもとに農林水産省にて作成

< インド > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 1.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実生産量は、収穫面積の増加により、前月予測から 1.0%上方修正され 139.0 百万トンと、前年度比で 1.5%増加、過去 5 年平均（129.1 百万トン）と比べ 7.7%増加し、史上最高の見込み。収穫面積は、主にインド東部におけるモンスーンの降水量が前年を上回り、カリフ米の収穫面積が予想を上回ったことから、前月予測から 0.5 百万ヘクタール増の 48.5 百万ヘクタールとなり、前年度に比べ 1.9%増加し史上最高となる見込み。

インド政府（2024.9.2）によると、綿花に比べて単収が高く、投入コストが低いコメに作付がシフトしており、カリフ米の作付面積は前年度から 4%増加し 40.87 百万ヘクタールとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 2.8%増の 121.0 百万トン。

国民の食料安全保障を確保するためにインド政府による公的食料配給制度が継続しており、より多くのコメが供給される見込み。政府は公的食料配給制度により市場からコメ等を調達し、低所得世帯（8.14 億人以上）に無償又は低価格で配給している。

USDAによれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、供給量の増加を受け、前年度比 18.0%増の 18.0 百万トンの見込み。依然として世界第 1 位の輸出シェアを維持しており、世界全体のコメ輸出総量の約 33%を占める。

2023/ 24 年度の輸出量は、前月予測から下方修正され 15.3 百万トンと、前年度比 24.7%減。

インド輸出入統計によれば、2023 年 10 月から 2024 年 6 月までの輸出量は 11.3 百万トンで、主な輸出先国は、サウジアラビア 110.2 万トン（9.8%）、ベナン 81.3 万トン（7.2%）、ギニア 75.7 万トン（6.7%）の順。サウジアラビア等中東諸国向けはバスマティ米の輸出が主である。なお、インドは、2022 年 9 月 9 日以降、非バスマティ米を中心に、様々な輸出規制を発動・強化している。

2024 年 2 月 21 日に、インド財務省は本年 3 月 31 日までの予定だったパーボイルド米の 20%の輸出関税を無期限に延長した。

一方、インド政府は輸出者等からの要請を受け 2024 年 9 月 14 日に、2023 年 8 月 27 日より導入したバスマティ米の最低輸出価格の撤廃を発表した（詳細は右表を参照）。

インド食品公社（Food Cooperation India）によれば、8 月時点での期末在庫量は、32.75 百万トンと前年に比べ 34.8%増の見込み。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ（小麦）の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位：百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	135.8	137.0	139.0 (137.5)	1.0	1.5
消費量	114.5	117.8	121.0 (118.5)	1.0	2.8
輸 出 量	20.3	15.3	18.0 (17.3)	-	18.0
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	35.0	39.0	39.0 (41.8)	0.5	-
期末在庫率	26.0%	29.3%	28.1% (30.8%)	0.2	▲ 1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	47.83	47.60	48.50 (48.50)	0.50	1.9
単収(もみt/ha)	4.26	4.32	4.30 (2.84)	▲ 0.01	▲ 0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September, 2024)
IGC「Grain Market Report」(15 Aug, 2024) (単収は精米t/ha)

表 インドのコメ輸出規制(2022 年9月9日～)

対象品目	措置内容	発動日
全ての種類のコメの籾 (HS 1006 10)	輸出税 (20%)	2022.9.9～
全ての種類のコメの玄米 (HS 1006 20)	輸出税 (20%)	2022.9.9～
バスマティ米・精米 (HS1006 30 20)	関税：12,000ルピー/t (日本円で約2万円/t) 最低輸出価格導入 (1,200ドル/トン→950ドル /トンに引き下げ (2023.10.26～))	(法定税率) 2023. 8. 2 7～ →2024.9.14.イ ンド政府は完全撤 廃を発表。施行日 未定。
パーボイルド米・精米 (HS1006 30 10)	輸出税 (20%)	2023.8.25～
バスマティ米・パーボ イルド米以外の精米 (HS1006 30 90)	輸出禁止	2023.7.20～ 2024.12.31

※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は輸出を許可
※有機米は本措置の対象外
資料：インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成

< ベトナム > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5% 減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、26.5 百万トンと、前年度を 0.5% 下回る見込み。2016/17 年以降、南部沿岸地域における海水の浸潤やメコン川の水流量減少、肥料価格の高騰、高収益作物等（果物・野菜・養殖）へのシフト等から、作付面積は減少傾向にある。2023/24 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく 26.6 百万トンと前年度に比べ 1.8% 減少する見込み。

農業農村開発省（MARD）によれば、9 月上旬の台風 11 号「ヤギ」の影響を受け、12 万 4,593 ヘクタールの稲作地が水没したが、実際の被害面積は大きくなく、主産地である紅河デルタ地域（北部）では、回復不能な面積も少ないため、夏秋作の生長に問題はないとみられている。

紅河デルタ地域（北部）では、夏秋作（雨季米）は幼穂形成期にあり、イネの生育状態は良好。メコンデルタ地域（南部）では、夏秋作（雨季米）が収穫期にあり、17.30 百万ヘクタールのうち 0.55 百万ヘクタールの収穫が終了している。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、インドネシアからの輸出が増加し過去最高となった 2024 年度に比べ 14.0% 減少する見込み。

USDA 「Rice Outlook」(2024.9.16) によれば、2023/24 年度の輸出見通しは、直近のインドネシア政府との 18 万 5,000 トンの追加契約に基づき、前年度に比べ 4.6% 増の 860 万トンと過去最高に引き上げられた。

同「Rice Outlook」(2024.9.16) によれば、8 月中旬以降、収穫が終わりに近づいたベトナム産 5% 破碎米（夏秋産）の価格は、新規需要の鈍化及び農産物価格の下落により、8 月 13 日の週から 25 ドル下落し、9 月 10 日の週に 580 ドル/トンとなった。

ベトナム食品協会（VFA）(2024.8.23) によれば、ベトナムのコメ輸出価格が世界で最も高い水準に達し、タイやパキスタンなどの主要輸出国を上回っていると発表。

ベトナム関税総局によれば、2024 年 1～8 月の輸出量は 615.0 万トンと、前年同期（581.3 万トン）に比べ 5.8% 増加。主な輸出先国は、フィリピン 280.7 万トン（45.6%）、インドネシア 91.3 万トン（14.9%）、マレーシア 58.3 万トン（9.5%）、ガーナ 34.0 万トン（6.0%）の順。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位: 百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年1月～25年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.1	26.6	26.5 (28.6)	-	▲ 0.5
消費量	21.9	22.0	22.0 (22.4)	-	-
輸出量	8.2	8.6	7.4 (7.8)	-	▲ 14.0
輸入量	2.8	2.9	3.0 (2.2)	-	1.7
期末在庫量	2.6	1.6	1.6 (3.4)	-	3.2
期末在庫率	8.7%	5.1%	5.4% (11.1%)	-	0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.12	7.00	6.95 (7.20)	-	▲ 0.7
単収(もみt/ha)	6.10	6.09	6.10 (3.97)	-	0.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September, 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 Aug, 2024) (単収は精米t/ha)

写真 南部キエンザン省 ホアダット地区 ビンザン村の圃場風景 (2024 年 9 月 2 日撮影)



茎の伸長期～出穂期を迎えており、生育は順調である。

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要 (詳細は右表を参照)

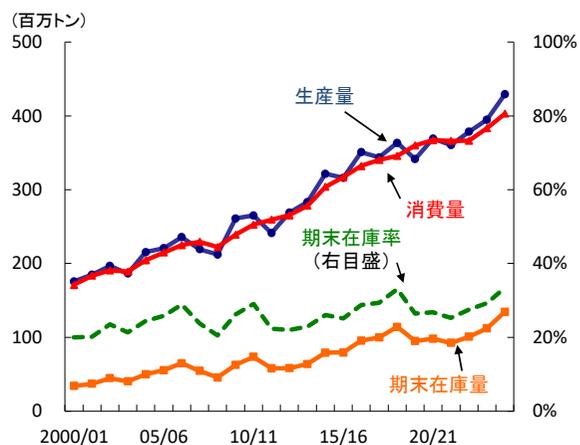
<USDAの見通し> 2024/25年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑
 ・EU、米国等で下方修正されたものの、パラグアイ、カナダで上方修正され、前月予測から上方修正された。史上最高の見込み。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑
 ・カナダ、米国で上方修正され、前月予測から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑
 ・パラグアイで上方修正され、前月予測から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」(2024.9.12)をもとに農林水産省で作成

◎世界の大豆需給

(単位：百万トン)

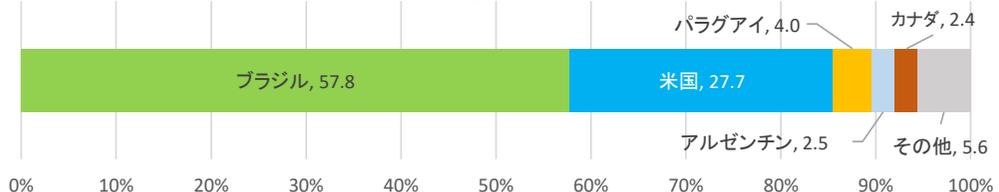
年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	378.7	394.8	429.2	0.5	8.7
消費量	366.5	383.3	403.0	0.1	5.1
うち搾油用	315.4	330.1	346.7	0.1	5.0
輸出量	171.8	178.0	181.6	0.4	2.1
輸入量	167.8	177.9	177.7	0.5	▲ 0.1
期末在庫量	100.9	112.3	134.6	0.3	19.9
期末在庫率	27.5%	29.3%	33.4%	0.1	4.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 September 2024)

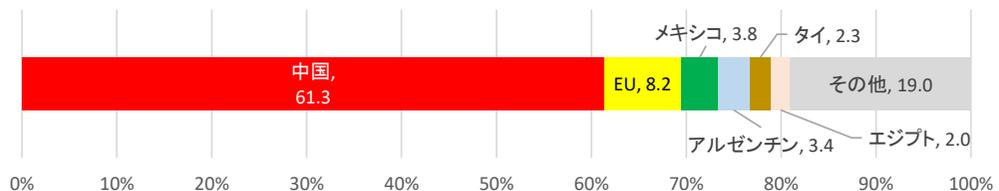
○ 2024/25年度の世界の大豆の生産量(429.2百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界の大豆の輸出量(181.6百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界の大豆の輸入量(177.7百万トン)(単位：%)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 2024/25 年度の生産量は前年度より 10.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、単収の引下げ等を受け、前月予測から 0.1 百万トン下方修正されたものの、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度より 10.1%増の 124.8 百万トンと史上最高の見通し。作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作となり価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。

USDA 「Crop Progress」(2024.9.16) によれば、9 月 15 日現在、主要生産 18 州における落葉進捗率は 44%と、前年同期(47%)を下回ったものの、過去 5 年平均(37%)を上回っている。収穫進捗率は 6%と、前年同期(4%)、過去 5 年平均(3%)を上回っている。作柄評価が「良～やや良」の比率は 64%と、乾燥の影響を受けた前年同期(62%)を上回っている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、飼料用需要の引上げを受けて前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、バイオ燃料等の需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 5.5%増の 69.2 百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の搾油用需要が増加する見通しから、前年度より 8.8%増の 50.4 百万トンの見込み。

USDA 「Oilseeds: World Markets and Trade」(2024.9.12) によれば、米国大豆価格は、9 月 2 日現在、豊作見通しを受けて前月から 8 ドル/トン下落し、401 ドル/トンと、2022 年 12 月以降初めてブラジル産(420 ドル/トン)及びアルゼンチン産(412 ドル/トン)を下回っている。なお、USDA によれば、2023 年 9 月～2024 年 8 月の輸出量は 4,876 万トンと、世界的な大豆需要の増加を受けて前年同期の 4,818 万トンより 1.2%増。内訳は中国 2,400 万トン(49.2%)、メキシコ 635 万トン(13.0%)、日本 333 万トン(6.8%)の順となっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前年度の搾油用需要の引上げを受けた期首在庫の減少や生産量の引下げによる供給減を受けて前月予測から 0.3 百万トン下方修正されたものの、増産を受けて前年度より 61.7%増の 15.0 百万トンとなる見込み。期末在庫率は 12.5%と、過去 5 年平均(8.0%)を上回り、2019/20 年度以来 5 年ぶりに 10%台まで回復する見通し。

大豆－米国

(単位: 百万トン)

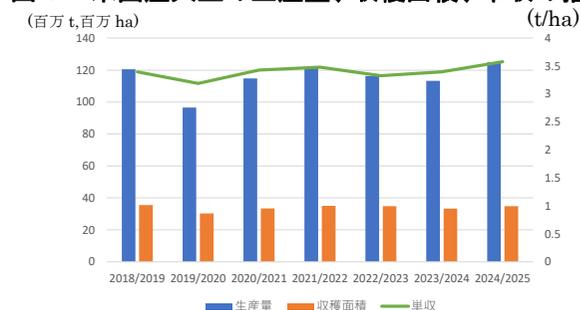
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	116.2	113.3	124.8	▲ 0.1	10.1
消費量	63.3	65.6	69.2	0.1	5.5
うち搾油用	60.2	62.5	66.0	-	5.7
輸 出 量	53.9	46.3	50.4	-	8.8
輸 入 量	0.7	0.5	0.4	-	▲ 24.1
期末在庫量	7.2	9.3	15.0	▲ 0.3	61.7
期末在庫率	6.1%	8.3%	12.5%	▲ 0.2	4.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	34.87	33.33	34.91	-	4.7
単収(t/ha)	3.33	3.40	3.57	▲ 0.01	5.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)

図1 米国产大豆の生産量、収穫面積、単収の推



資料: USDA 「PS&D」(2024.9.12) をもとに農林水産省にて作成

図2 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格(FOB)の推移



資料: IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度より 10.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 10 月以降作付けが開始される 2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が史上最高となる見込みを受け、前年度より 10.5%増の 169.0 百万トンと史上最高の見通し。エルニーニョ現象が終息し、10 月以降冬にかけてラニーニャ現象に移行する見込みもあり、生産量は増加する可能性もある。

CONAB の月例報告 (2024.9.12) によれば、2023/24 年度の実産量は、とうもろこし等から収益性が高い大豆に作付けがシフトすることで収穫面積が増加するものの、生育初期の高温乾燥による単収減から前年度より 4.7%減の 147.4 百万トンの見通し。6 月中旬に収穫は完了。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、引き続き堅調な搾油用需要から前年度より 0.4%増の 58.1 百万トンとほぼ横ばいの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、レアル安による価格競争力と中国からの引き続き堅調な需要から、前年度並みの 105.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～8 月の輸出量は 83.4 百万トンで、前年同期 (80.8 百万トン) に比べ 3.2%増となっており、中国向け輸出が昨年に引き続き堅調に推移していることが要因。輸出先は、中国 61.2 百万トン (73.3%)、スペイン 3.5 百万トン (4.2%)、トルコ 2.3 百万トン (2.7%) の順。

2023 年 6 月、北部のマラニョン州イタキ港と南部のサンパウロ州サントス港を結ぶ南北鉄道が開通した。さらに、マット・グロソ州から南部サントス港まで輸送する鉄道の拡張工事も行われており、これらのアクセス改善が輸出のボトルネックを回避する一助になることが期待されている。

報道情報によれば、9 月中旬現在、南米のアマゾン川流域では、降雨不足と干ばつにより河川の水位が記録的な水準に低下し、一部では輸出向け穀物を運ぶはしけの航行に支障をきたしている。

ブラジルでは、従来からの主要な穀物輸送手段であるトラック輸送に加え、近年では鉄道輸送網が整備されつつある一方で、アマゾン川の水運も主要な輸送手段の一つとなっているため、アマゾン川の水位低下が穀物輸出へ及ぼす影響を注視する必要がある。

大豆—ブラジル

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	162.0	153.0	169.0 (161.5)	-	10.5
消費量	57.2	57.9	58.1 (57.3)	-	0.4
うち搾油用	53.4	54.0	54.0 (54.3)	-	-
輸出量	95.5	105.0	105.0 (104.0)	-	-
輸入量	0.2	0.9	0.2 (0.7)	-	▲ 83.3
期末在庫量	36.8	27.9	33.9 (2.4)	0.1	21.7
期末在庫率	24.1%	17.1%	20.8% (1.5%)	0.03	3.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	44.60	45.80	47.30 (41.49)	-	3.3
単収(t/ha)	3.63	3.34	3.57 (3.89)	-	6.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 August 2024)

図1 ブラジル産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.9.12) をもとに農林水産省にて作成

図2 ブラジルのクロープカレンダー (中部から南部)

2023/24年度の実産量は、2023年9月以降、順次開始。
2024年2月以降、大豆の収穫が行われ、その後、一部の圃場で冬とうもろこしを栽培。

2023/24年度	2023年				2024年								
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし (リオ・グランデ・ド・スール 州等)	作付 4.0(百万ha)				収穫 23.0(百万t) → 収穫夏冬作計 115.7百万t								
冬とうもろこし (マット・グロソ州、 パラナ州等)	作付面積夏冬作計 21.1百万ha				作付 17.1(百万ha) → 収穫92.8(百万t)								
大豆 (マット・グロソ州、 パラナ州等)	作付 46.0(百万ha)				大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこしを作付 収穫 147.4(百万t)								

資料：CONAB 穀物レポート (2024.9.12)

< カナダ > 2024/25 年度の生産量は前年度より 3.1%増加する見込み (AAFC)

【生育・生産状況】AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2024.9.25)によれば、2024/25年度の生産量は、収穫面積が下方修正されたものの、単収が上げられたことを受けて前月予測から0.1百万トン上方修正され、前年度から3.1%増の7.2百万トンの見込み。大豆価格が低下しているものの、大豆粕の需要と輸出は堅調であり、生産量は微増するとみられる。土壌水分量は現時点で十分とみられる。なお、USDAによれば、9月上旬、温暖で乾燥した天候が広がり、作物の成熟に好影響を与えている。

カナダ統計局「Model-based principal field crop estimates, August 2024」(2024.9.16)によれば、州別には、米国コーンベルトに隣接する最大生産州オンタリオ州の生産量は、前年度に比べ6.9%増の4.3百万トンの見込み。とうもろこし等の他作物より価格が有利な大豆の作付けを増加させたため収穫面積が増加することが主な要因とみられる。隣接するマニトバ州、ケベック州でも生産されており、マニトバ州では前年度より減産する一方、ケベック州では前年度より増産の見込み。

オンタリオ州では、9月中旬現在、概ね成熟期を迎えている。

【需要状況】AAFCによれば、2024/25年度の消費量は、飼料用等の需要の減少により前年度から1.2%減の2.5百万トンの見込み。なお、飼料用等の需要引上げを受けて前月予測から0.1百万トン上方修正された。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より2.0%増の5.0百万トンの見込み。主要な輸出先国である中国において、搾油用需要の増加に伴い、中国の輸入量が増加することが要因の一つとみられる。

カナダ穀物委員会によれば、2023/24年度(2023年8月～2024年7月)の輸出量は340.9万トンで、前年同期(311.6万トン)を上回っている。国別では、中国143.9万トン(43.6%)、アルジェリア58.2万トン(16.6%)、イラン54.6万トン(16.5%)、オランダ18.5万トン(5.6%)の順となっている。

AAFCによれば、2024/25年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産により前年度から40.0%増の0.5百万トンの見込み。

大豆－カナダ

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.5	7.0	7.2 (7.2)	0.3	3.1
消費量	2.7	2.5	2.9 (2.5)	0.1	12.6
うち搾油用	1.8	1.7	1.8 (1.9)	0.1	2.6
輸 出 量	4.2	4.9	4.3 (5.0)	-	▲ 11.4
輸 入 量	0.5	0.3	0.4 (0.5)	▲ 0.1	4.5
期末在庫量	0.4	0.3	0.7 (0.5)	0.2	132.0
期末在庫率	5.3%	4.1%	9.8% (7.0%)	2.0	5.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	2.12	2.26	2.30 (2.31)	-	1.8
単収(t/ha)	3.09	3.09	3.13 (3.12)	0.13	1.3

資料：USDA「PS&D」
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(25 September 2024)

図 カナダの直近3か年の生産量等の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2024.9.25)をもとに農林水産省にて作成

表 カナダ産大豆の輸出量と輸出先国

(輸出量：万t、シェア：%)

2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	143.9	43.6	中国	128.8	40.5
アルジェリア	58.2	16.6	イラン	49.0	15.4
イラン	54.6	16.5	アルジェリア	36.5	11.5
オランダ	18.5	5.6	イタリア	27.5	8.6
その他	65.7	17.7	その他	69.9	23.9
計	340.9	100.0	計	311.6	100.0

資料：カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省にて作成

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度より 0.7%減少する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が増加（対前年度比 0.3%増）するものの、単収が平年並みに戻り減少（対前年度比 1.0%減）すると見込まれることから、前年度より 0.7%減の 20.7 百万トンとなるも、史上 2 番目に高い見込み。

全国農業気象月報（2024.9.5）によれば、8 月は生育に適した気温となり、農地の土壌水分も十分であり、大豆の開花や結実に適しているとみられる。8 月末、黒竜江省等では登熟期を迎えている。

【需要状況】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、国内の畜産物の需要増を受けて大豆粕の需要が増加することから、前年度より 4.2%増の 126.8 百万トンと史上最高の見込み。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要の減少につながるの見方もある。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の前年度より 2.2%減の 109.0 百万トンとなるも、引き続き高水準を維持する見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～7 月の輸入量は、前年同期より 1.5%減の 5,833.7 万トン。内訳は、ブラジル 4,355.8 万トン（74.7%）、米国 1,263.3 万トン（21.7%）、カナダ 99.2 万トン（1.7%）の順。ブラジルと米国を合わせたシェアが 9 割以上を占めている。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 7 月号」によると、7 月の輸入価格（山東省の輸入大豆価格）は、前月（4,440 元/トン）から小幅に上昇し、4,480 元/トンとなった。7 月の国内価格は、5,420 元/トンと前月（5,380 元/トン）から小幅に上昇し、食用大豆は季節的に消費が少なく、前年度の大豆が備蓄から販売されている時期であり、価格は安定している。

USDAによれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、生産量と輸入量の合計が消費量を上回っていることを受けて、前年度より 6.5%増の 45.7 百万トンと史上最高の見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度より 0.8 ポイント増の 36.0%となる見込み。

大豆－中国

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.3	20.8	20.7 (20.5)	-	▲ 0.7
消費量	117.5	121.7	126.8 (127.4)	-	▲ 4.2
うち搾油用	96.0	99.0	103.0 (105.4)	-	▲ 4.0
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
輸 入 量	104.5	111.5	109.0 (107.0)	-	▲ 2.2
期末在庫量	32.3	42.9	45.7 (43.9)	-	▲ 6.5
期末在庫率	27.5%	35.2%	36.0% (34.4%)	-	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.24	10.47	10.50 (8.40)	-	0.3
単収(t/ha)	1.98	1.99	1.97 (1.95)	-	▲ 1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
IGC「Grain Market Report」(15 August 2024)

図 中国産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移

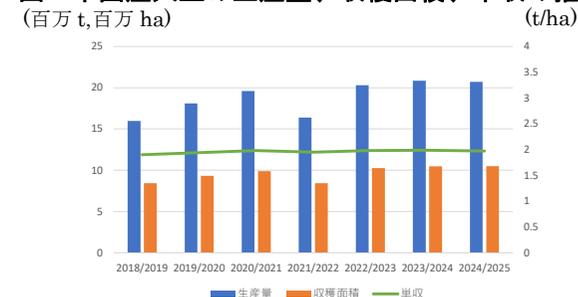


表 中国の大豆輸入量と輸入先国

(輸入量：万トン、シェア：%)

2024年 1～7 月			2023年 1月～2023年12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	4,355.8	74.7	ブラジル	6,993.0	70.7
米国	1,263.3	21.7	米国	2,374.3	24.0
カナダ	99.2	1.7	アルゼンチン	199.2	2.0
ロシア	45.6	0.8	カナダ	146.6	1.5
アルゼンチン	32.9	0.6	ロシア	129.3	1.3
ベナン	20.6	0.4	南アフリカ	14.7	0.1
その他	16.4	0.1	その他	38.6	0.4
計	5,833.7	100	計	9,895.7	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度より 6.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 11 月以降作付けが開始される 2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、大豆の収益性が高まることで農家がとうもろこしから大豆へ作付けをシフトさせる見通しを受けて、前年度から 6.0%増の 51.0 百万トンの見込み。

なお、2023/24 年度の実産量は、干ばつとなった前年度より 92.4%増の 48.1 百万トンの見込み。1 月から 2 月初旬にかけて高温乾燥型の天候が続いたものの、その後の降雨により作柄が改善した。

ブエノスアイレス取引所週報（2024.7.3）によれば、7 月 3 日現在、大豆の収穫は完了。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産に伴い搾油量が增加することから、前年度比 11.3%増の 47.6 百万トンの見込み。なお、アルゼンチンは、丸大豆の搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、世界有数の大豆油及び大豆粕の輸出国である。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、パラグアイ産の輸入増の見込みを受けて前月予測から 0.5 百万トン上方修正されたものの、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 16.7%減の 6.0 百万トンの見込み。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の供給量の引上げによる競争の激化を受けて前年度より 13.5%減の 4.5 百万トンとなるも、中国向け輸出が引き続き堅調に推移する見通し。

なお、2024 年 1～7 月の輸出量は、前年度の干ばつによる減産からの回復を受けて 353.6 万トンで前年同期（82.4 万トン）の約 4 倍。輸出先は、中国 323.7 万トン（91.5%）、米国 4.4 万トン（1.2%）、チリ 3.7 万トン（1.0%）の順で、4 月以降、中国向け輸出が急増している。

2023 年 12 月 10 日に右派のミレイ政権が誕生した。同 12 日に経済相は通貨ペソの公式レートを現行の 1 ドル＝350 ペソから 50%以上切り下げ、1 ドル＝800 ペソにした。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆に最大 33%、大豆油及び大豆粕に 31%を設定。ミレイ政権においても、輸出税は引き続き維持されている。

「OIL WORLD Weekly」（2024.8.23）によれば、アルゼンチンのとうもろこし及び大豆の主要輸送経路であるパラナ川の水位が低下しており、主要輸出港ロサリオ港への河川輸送に問題が生じている。

大豆－アルゼンチン

(単位:百万トン)

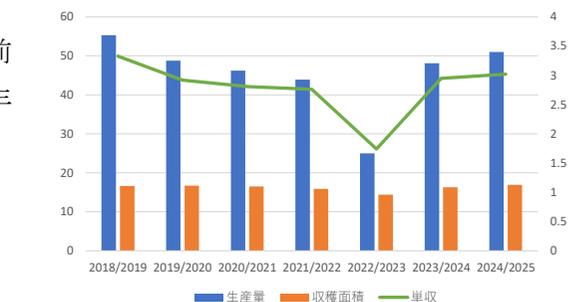
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	25.0	48.1	51.0 (51.5)	-	6.0
消費量	36.6	42.8	47.6 (48.5)	-	11.3
うち搾油用	30.3	35.5	40.0 (42.0)	-	12.7
輸 出 量	4.2	5.2	4.5 (6.1)	-	▲ 13.5
輸 入 量	9.1	7.2	6.0 (5.4)	0.5	▲ 16.7
期末在庫量	17.0	24.4	29.3 (11.4)	0.5	20.1
期末在庫率	41.7%	50.8%	56.1% (20.9%)	1.0	5.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	14.40	16.30	16.90 (15.87)	-	3.7
単収(t/ha)	1.74	2.95	3.02 (3.25)	-	2.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 September 2024)
IGC 「Grain Market Report」(15 August 2024)

図 アルゼンチン産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移
(百万 t,百万 ha)



資料：USDA 「PS&D」(2024.9.12) をもとに農林水産省にて作成

表 アルゼンチンの大豆輸出量と輸出先国

(単位:万 t)

2024年7月		2024年1月～7月	
国名	輸出量	国名	輸出量
中国	33.5	中国	323.7
チリ	0.5	アメリカ	4.4
アメリカ	0.2	チリ	3.7
-	-	ペルー	2.1
その他	3.0	その他	19.7
計	37.2	計	353.6

資料：アルゼンチン国家統計局 (INDEC) をもとに
農林水産省にて作成

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について (2024/25年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	24年6月～25年5月	24年9月～25年8月	24年8月～25年7月	24年9月～25年8月
カナダ	24年8月～25年7月			24年8月～25年7月
豪州	24年10月～25年9月		25年3月～25年2月	
EU	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
中国	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月
ロシア	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		24年9月～25年8月
ウクライナ	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
ブラジル		25年3月～26年2月	25年4月～26年3月	24年10月～25年9月
アルゼンチン	24年12月～25年11月	25年3月～26年2月		24年10月～25年9月
タイ			25年1月～12月	
インド	24年4月～25年3月		24年10月～25年9月	
ベトナム			25年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
 例えば、2024/25年度は、米国の小麦では2024年6月～2025年5月、ブラジルのとうもろこしでは2025年3月～2026年2月です。
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国

1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
------------	-----	-----	-----

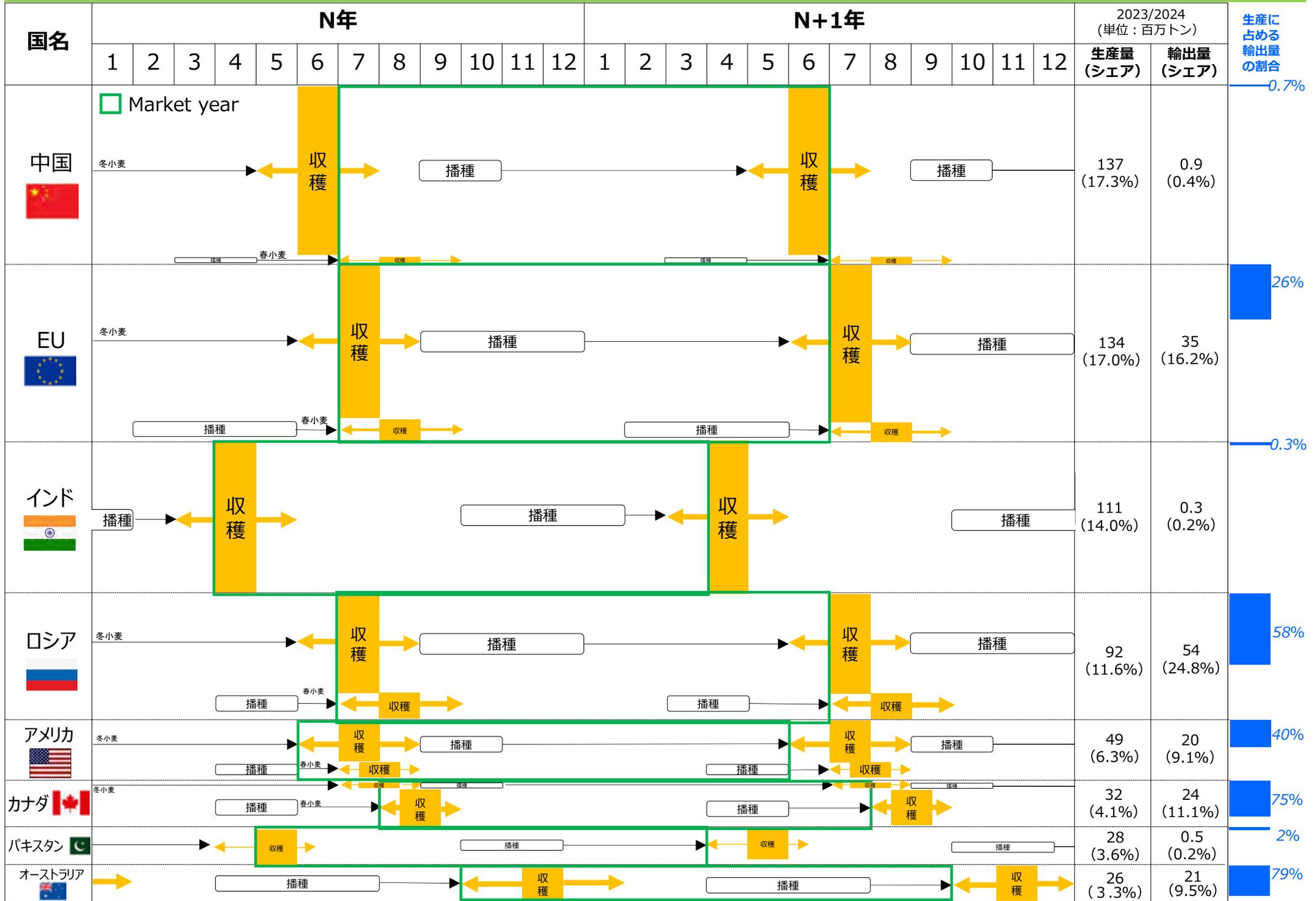
1斤	500g	重量	中国
----	------	----	----

華氏→摂氏 : °C = (° F - 32) ÷ 1.8			
-------------------------------	--	--	--

(参考3)各国のクロープカレンダー一覧(主要品目毎)

主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



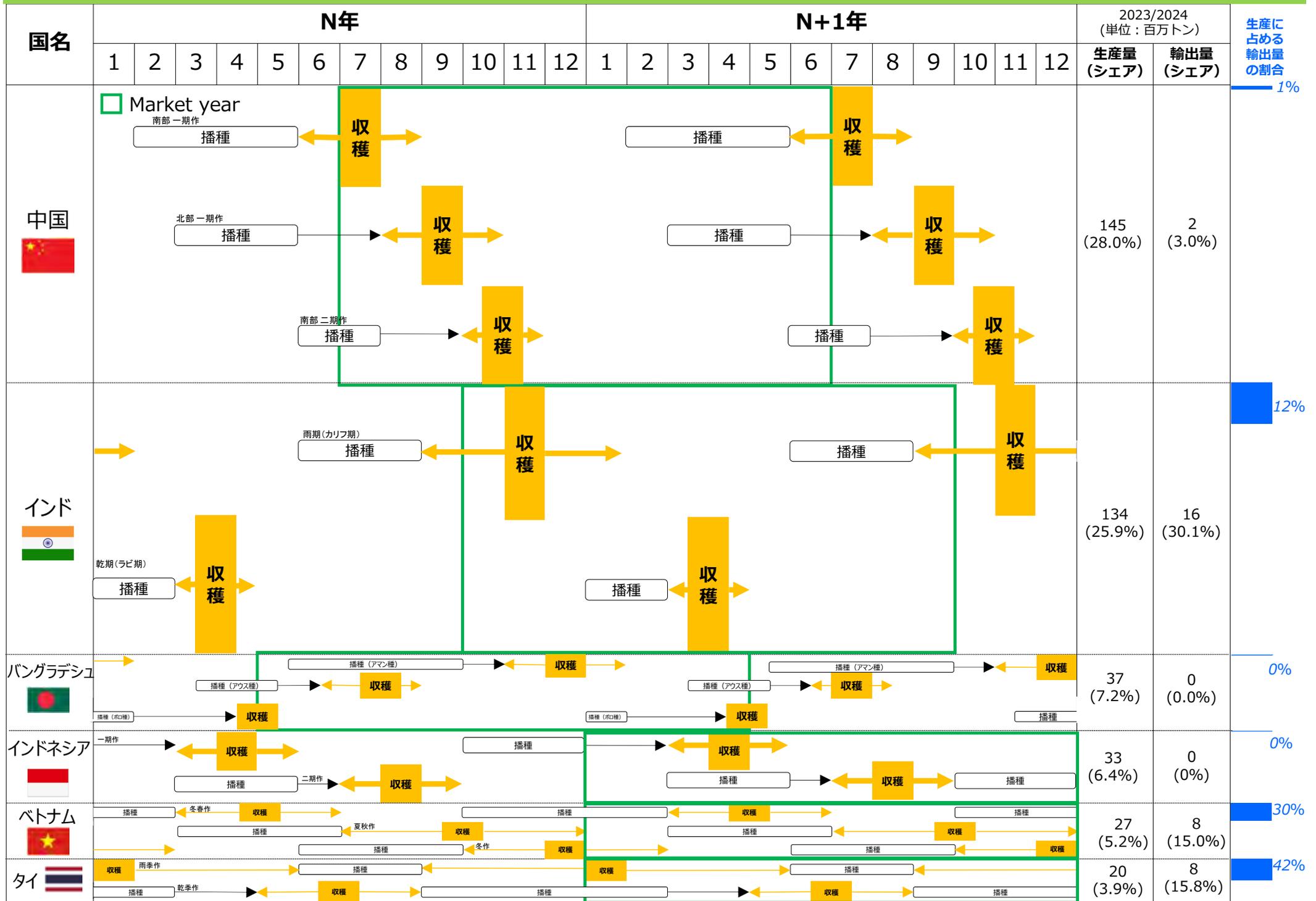
資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」, USDA 「PS&D」 (2024.5)

注 : シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。
冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

その他 :

主要生産国のクロープカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料: AMIS 「Supply and demand balances manual」, USDA 「PS&D」 (2024.5) 注: シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 その他: 122 (23.5%) 19 (36.1%)

主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

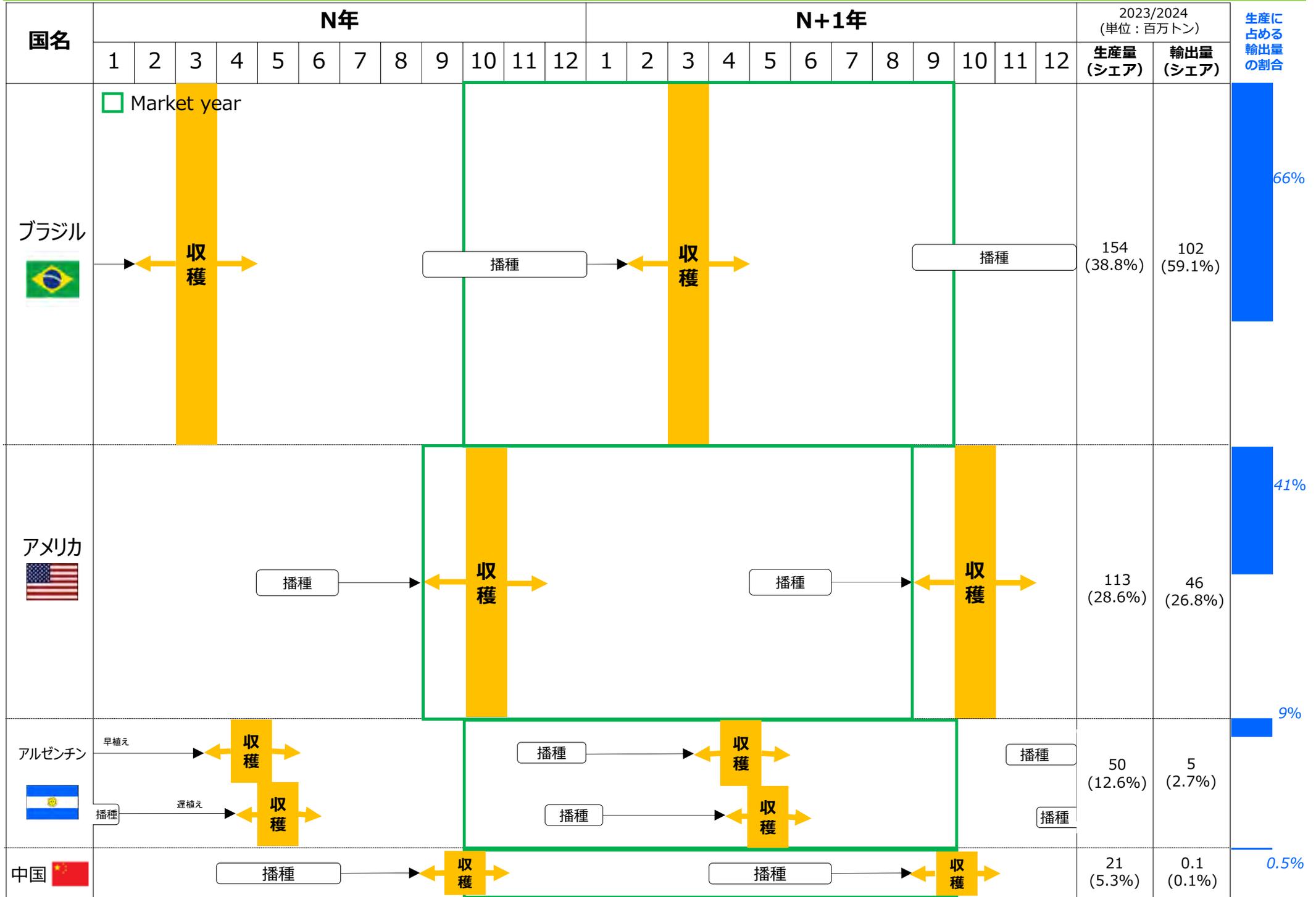
国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位:百万トン)		生産に 占める 輸出量 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
アメリカ 	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> Market year </div> 播種 → 収穫												390 (31.7%)	55 (27.7%)	14%												
中国 	播種 (春作) → 収穫	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> 播種 → 収穫 </div> 播種 (夏作) → 収穫												289 (23.5%)	0 (0.0%)	0%											
ブラジル 	夏とうもろこし 播種 → 収穫	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> 播種 → 収穫 </div> 冬とうもろこし 播種 → 収穫												122 (9.9%)	50 (25.3%)	41%											
EU 	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> 播種 → 収穫 </div>												61 (5.0%)	4 (2.1%)	7%												
アルゼンチン 	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> 播種 → 収穫 </div>												53 (4.3%)	38 (19.3%)	72%												
インド 	乾期(ラビ期) 播種 → 収穫	雨期(カリフ期) 播種 → 収穫	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> 播種 → 収穫 </div>												38 (3.1%)	0.8 (0.4%)	2%										

資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」, USDA 「PS&D」 (2024.5) 注 : シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。

その他 : 276 (22.5%) 50 (25.2%)

主要生産国のクロープカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料: AMIS 「Supply and demand balances manual」, USDA 「PS&D」 (2024.5) 注: シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。その他:

59 (14.8%)
20 (11.3%)

主要生産国のクロープカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出品 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出品 (シェア)	
EU 	Market year						収穫	播種					収穫	播種							20 (22.6%)	0.6 (3.3%)	3%				
カナダ 							播種	収穫					播種	収穫							19 (21.3%)	7 (39.3%)	35%				
中国 							収穫					播種	収穫					播種							15 (17.4%)	0 (0%)	0%
インド 							収穫					播種	収穫					播種							13 (14.1%)	0 (0%)	0%
オーストラリア 							播種	収穫					播種	収穫							6 (6.4%)	5 (27.6%)	81%				
ウクライナ 							収穫	播種					収穫	播種							4 (5.0%)	3 (20.5%)	78%				
ロシア 							播種	収穫					播種	収穫							4 (4.8%)	0.8 (4.8%)	19%				

資料：AMIS「Supply and demand balances manual」, USDA「PS&D」(2024.5)

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している

その他：7 (8.4%) 0.7 (4.5%)

第39号特別分析トピック：我が国の種畜をめぐる動向

種畜とは

○ 種畜とは、繁殖用の家畜であり、肉質や繁殖能力等の遺伝的能力に優れた家畜のことをいう。国内においては、家畜改良センター等、限られた場所で飼養されている。

種畜

各畜種による種畜の呼び方

牛：種牛（種雄牛）
豚：種豚
鶏：種鶏

肉や卵等の畜産物を生産する家畜の呼び方

牛：肉用牛、乳用牛
豚：肉豚
鶏：コマーシャル鶏（採卵鶏、肉用鶏）

種畜の造成・改良

繁殖

生産

畜産物

【肉用牛の場合】

(独) 家畜改良センター
県、民間種畜場等

自然交配
人工授精

繁殖農家

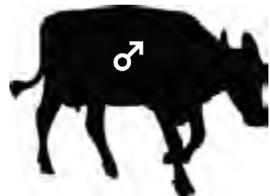
子牛

肥育農家等

畜産物

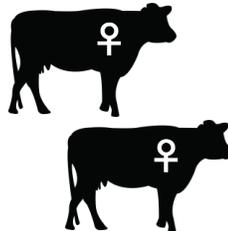
消費者

種雄牛



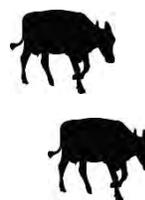
交配

繁殖雌牛



出産

子牛



取引・
肥育

肥育牛



出荷・
と畜

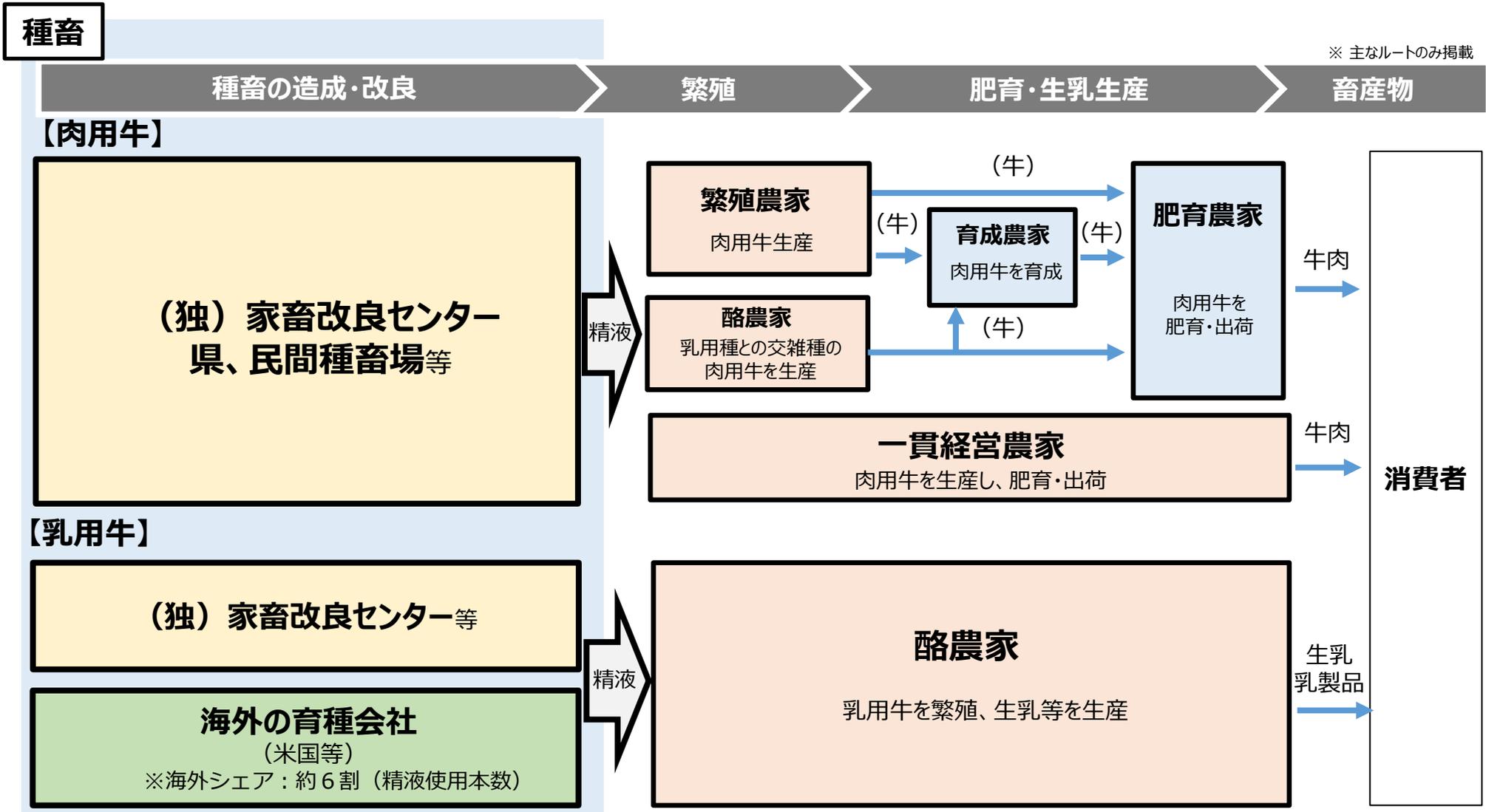
牛肉



なお、家畜改良増殖法における「種畜」とは、牛、馬その他政令で定める家畜の雄であって、その飼養者が第四条（※）の規定による種畜証明書の交付を受けているものをいう。※第四条：「種付け等の制限」について規定

種畜とは（牛）

- 肉用牛から生産される牛肉は、消費者の手に届くまで様々なルートを経由しているが、肉用牛の元となる種畜の造成は、（独）家畜改良センターや県の公的機関や特定の民間種畜場で行われる。（乳用牛も同様）
- 乳用牛では、国産種雄牛の精液のほか、泌乳能力や疾病抵抗性の観点から、米国等の育種会社から輸入された精液も多く使用されている。



種畜とは（豚、鶏）

- 豚や鶏では、能力が高い種畜を繁殖や改良のために海外の育種会社から輸入。
- 特に鶏では、種鶏のうち約9割がEUや米国等の海外の育種会社から輸入。

種畜

種畜の造成・改良

種豚・種鶏増殖

肉豚・コマーシャル鶏生産

畜産物

【豚】

家畜改良センター
都道府県畜産試験場
民間育種会社等

海外の育種会社
(加、米国、等)
※海外シェア：約3割（種豚飼養頭数）

種豚

種豚生産者
種豚増殖

(豚)

豚肉生産者
肉豚育成

豚肉

一貫経営農家
肉豚を生産し、肥育・出荷

豚肉

消費者

【鶏】

家畜改良センター
都道府県畜産試験場等

海外の育種会社
(英国、独、米国等)
※海外シェア：採卵鶏 約9割、肉用鶏 約9割
(種鶏飼養羽数)

種鶏

種鶏生産者
種鶏増殖

(鶏)

鶏卵・鶏肉
生産者
コマーシャル鶏育成

鶏卵

鶏肉

肉用牛の品種

- 和牛と呼ばれる肉専用種は、黒毛和種、褐毛和種、日本短角種、無角和種の4品種のみ。
- 和牛は、改良機関や生産者などの努力の積み重ねによって生み出された我が国固有の知的財産。

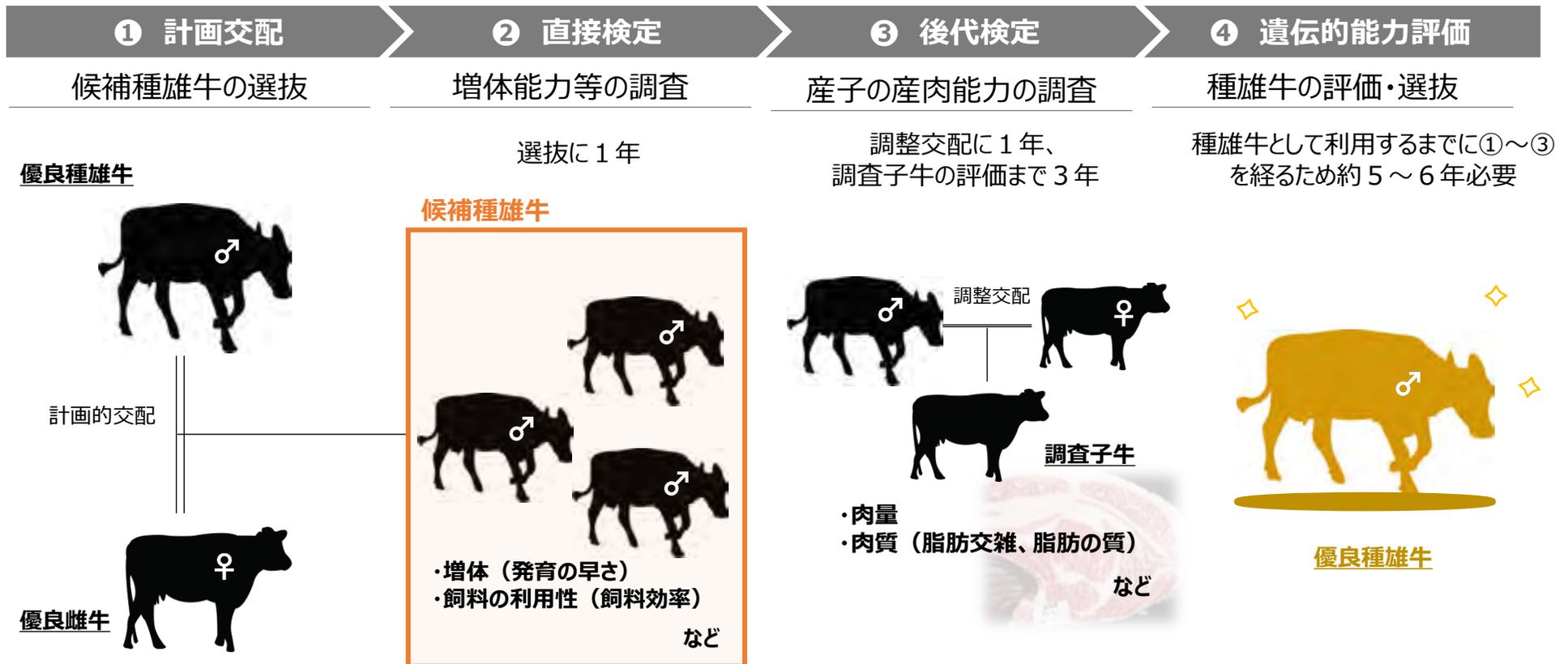
品種名	黒毛和種	褐毛和種	日本短角種	無角和種
				
被毛色	黒褐単色	黄褐色から赤褐色	濃褐色	黒色
主産県	全国	熊本・北海道・高知	岩手・北海道・青森	山口
飼養頭数	1,770千頭	23千頭	6千頭	214頭
特徴	和牛全体の98%以上を占め、肉質は特に脂肪交雑の面で優れる。	耐暑性に優れ、粗飼料利用性も高い。	耐寒性に優れ、粗飼料利用性も高い。	粗飼料利用性が高い。

出典：【品種の特徴】「世界家畜品種事典」等
【飼養頭数】「牛個体識別全国データベース」（2024年1月末時点）

肉用牛の改良

- 優良な種雄牛と雌牛を計画的に交配して生まれた種雄牛の候補（候補種雄牛）を直接検定と後代検定により能力を調査したのち、種雄牛として利用。
- 我が国では、（独）家畜改良センター、県、民間種畜場等で種雄牛の改良が行われているが、（独）家畜改良センターは広域で利用されることを目的に改良し、県では主に自県内での利用を目的に改良。

肉用牛の改良の流れ



直接検定：能力を調査したい牛を対象に検定
後代検定：能力を調査したい牛の子牛の能力を検定

(参考) 和牛遺伝資源関連 2 法成立の背景及び概要

○ 和牛遺伝資源の適正な流通管理及び知的財産としての価値の保護強化に向けて、以下の 2 法が2020年に成立し、同年施行。

① 家畜改良増殖法の一部を改正する法律

→精液・受精卵の流通規制の強化

② 家畜遺伝資源に係る不正競争の防止に関する法律

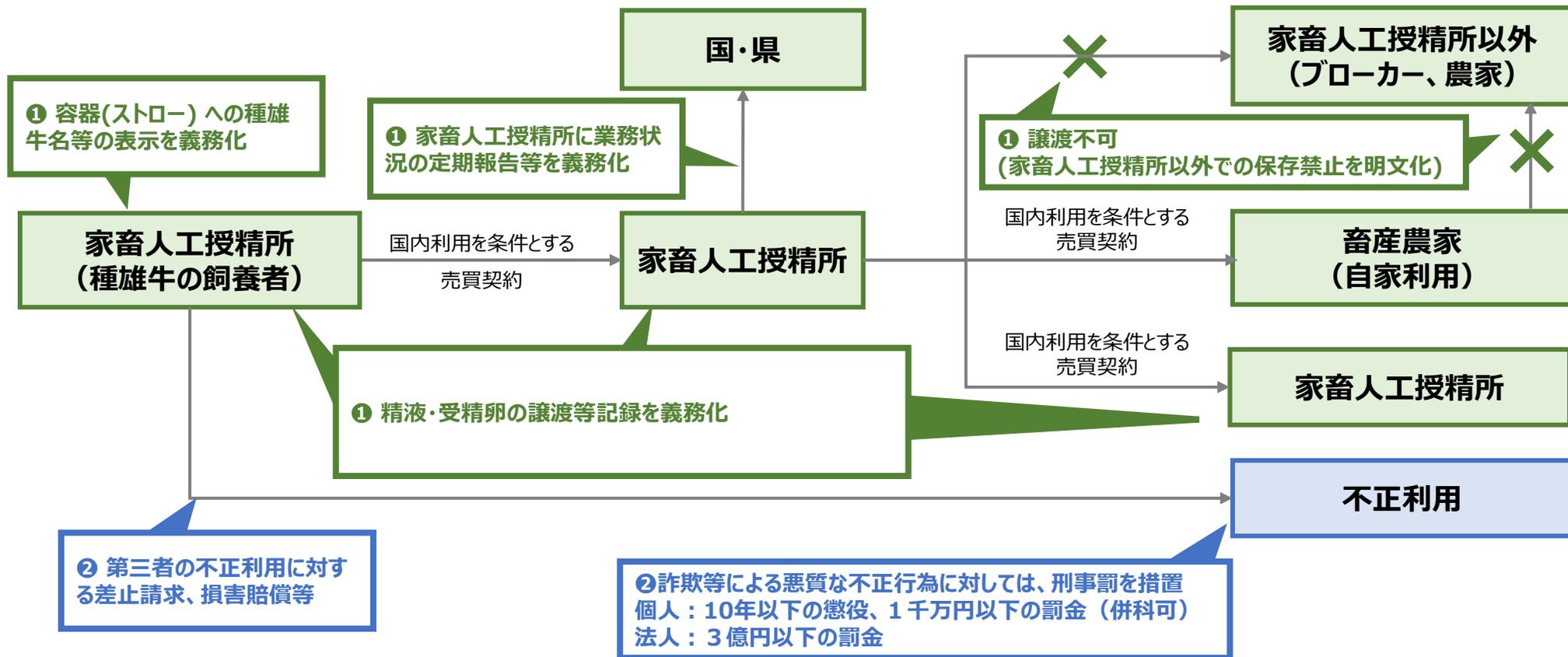
→契約の当事者ではない第三者の不正利用にも対抗できる新たな仕組みの創設（差止・損害賠償請求、刑事罰）

<改正概要>

[凡例]

緑色：①家畜改良増殖法の改正内容の措置内容

青色：②家畜遺伝資源に係る不正競争の防止に関する法律の措置内容



乳用牛の品種

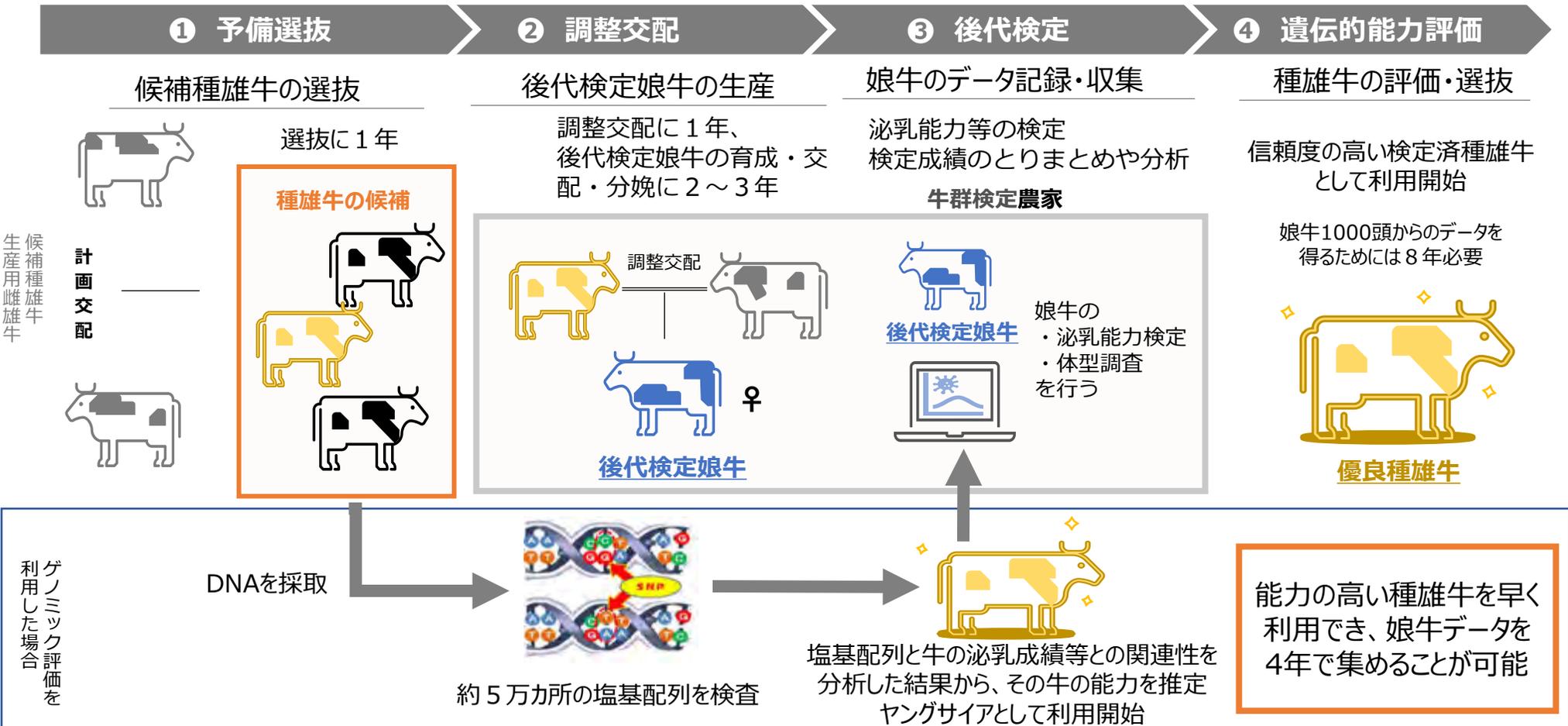
- 我が国における乳用牛（雌）の飼養頭数のうち約99%はホルスタイン種。
- ジャージー種はホルスタイン種の次に飼養頭数が多く、ホルスタイン種に比べ、乳量は少ないが、乳脂率が高い。

品種名	ホルスタイン種	ジャージー種
	 <p>写真提供：（一社）全国肉用牛振興基金協会</p>	 <p>写真提供：（公社）中央畜産会</p>
被毛色	黒白斑または赤白斑	褐色
原産地	オランダ	イギリス
飼養頭数	約147万頭	約1.2万頭
特徴	泌乳能力が他の品種より高い。黒毛和種との交雑種が国内の牛肉資源となっている。	早熟で体格は小型。放牧に適し、粗飼料の利用性が高い。他の品種より、泌乳能力が低い、乳脂率が高い。

乳用牛の改良

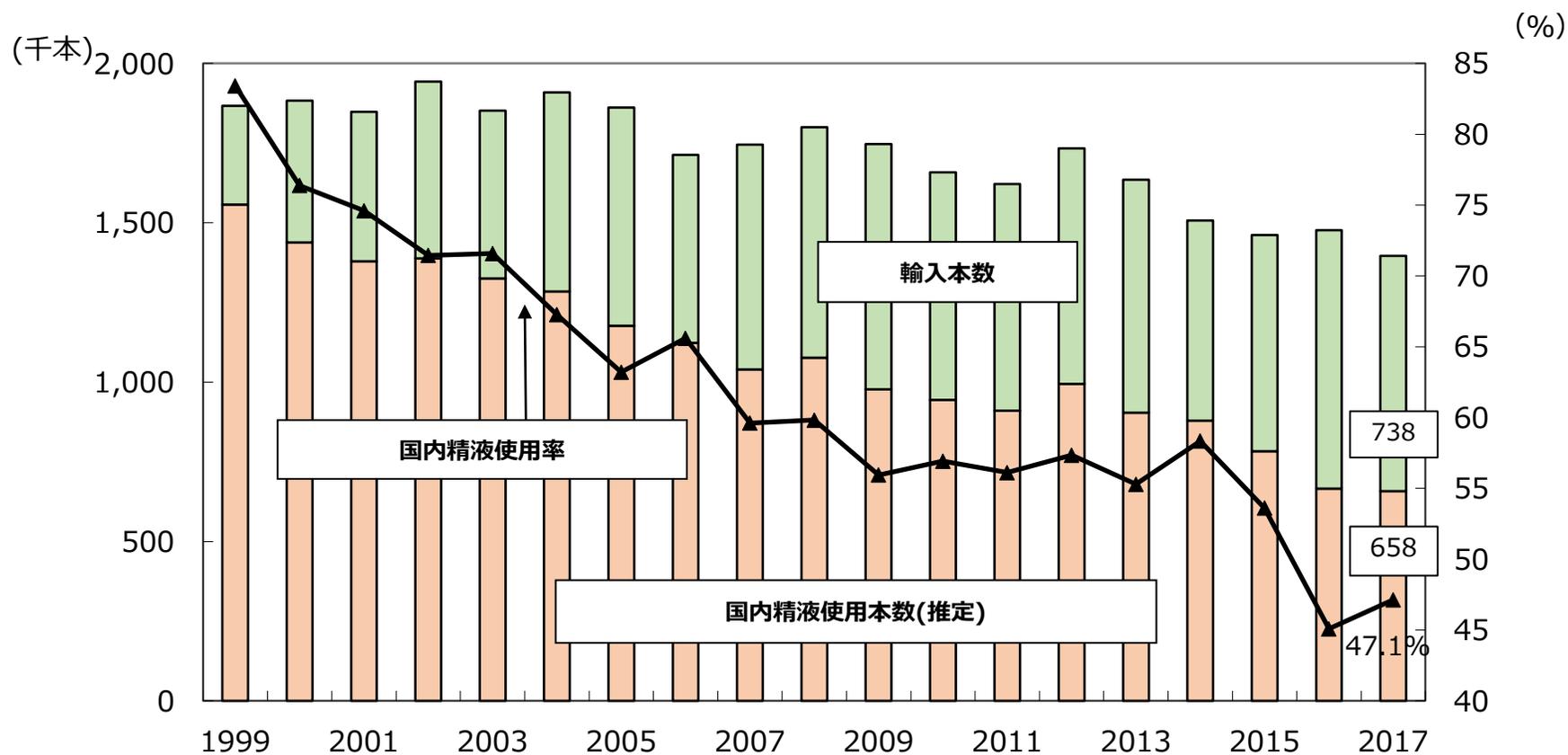
- 乳用牛の改良では、雄牛は生乳を生産しないため泌乳能力等を直接評価することができない。このため、候補となる種雄牛の雌の子牛（娘牛）の泌乳能力等の成績から候補種雄牛の能力を推定し評価（後代検定）。
- 令和5年8月から後代検定に加え、塩基配列から牛の能力を推定するゲノミック評価により、選抜した種雄牛（ヤングサイア）の利用を本格的に開始し、改良速度の加速化を図っているところ。
- 選抜された遺伝能力の高い種雄牛の精液は国内で広く利用されている。

乳用牛の改良・流れ



国産及び輸入精液の流通状況

- 国産精液の流通割合は減少傾向にあり、約半数程度。
- 国産精液に無い特性や優れた能力を持つ輸入精液の利用は、我が国の乳牛改良への貢献が期待されており、主な海外の育種会社として、GENEX社（米国）が有名。
- 国内で種雄牛を生産・選抜する後代検定の仕組みを維持していくためには、国産シェアをこれ以上減少させないことが課題。



出典：畜産統計、牛群検定成績、SIC調べ等から農林水産省作成

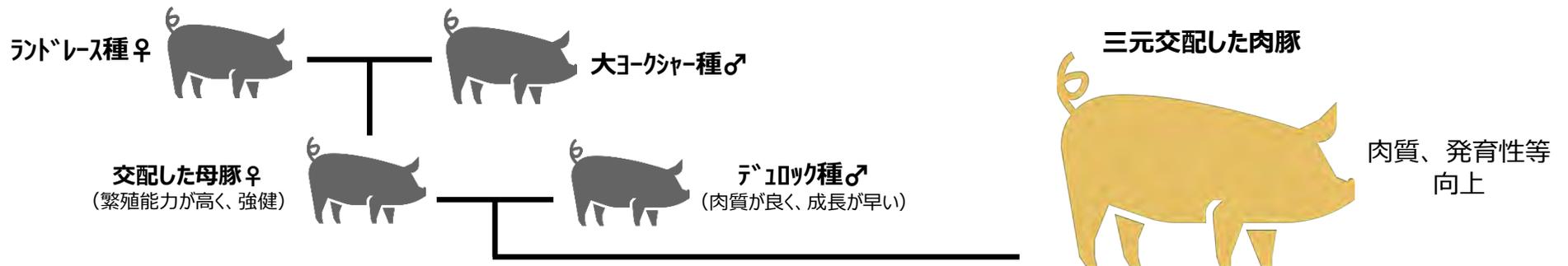
(年度)

豚の品種

- 豚は、各品種（純粋種）を掛け合わせることによってそれぞれの両親や祖父母が持つ特徴を活かして、肉質、発育性、多産性などを向上させ、経済効率を高めながら、豚肉生産がおこなわれている（三元交配など）。
- また、純粋種としても生産され、我が国では「黒豚（バークシャー種）」が有名。

品種名	大ヨークシャー種	ランドレース種	デュロック種	バークシャー種
				
原産国	英国	デンマーク	米国	英国
特徴	赤肉率が高く、加工品の原料として高い評価を得ている。	背脂肪が薄く赤肉率も高く、発育も極めて早い。	顔は長めで、顔面はわずかにしゃくれ、色は褐色。雄系品種として飼養頭数も多い。	発育性（増体）は劣るが、肉質（きめ細かさ・柔らかさ）が良い。

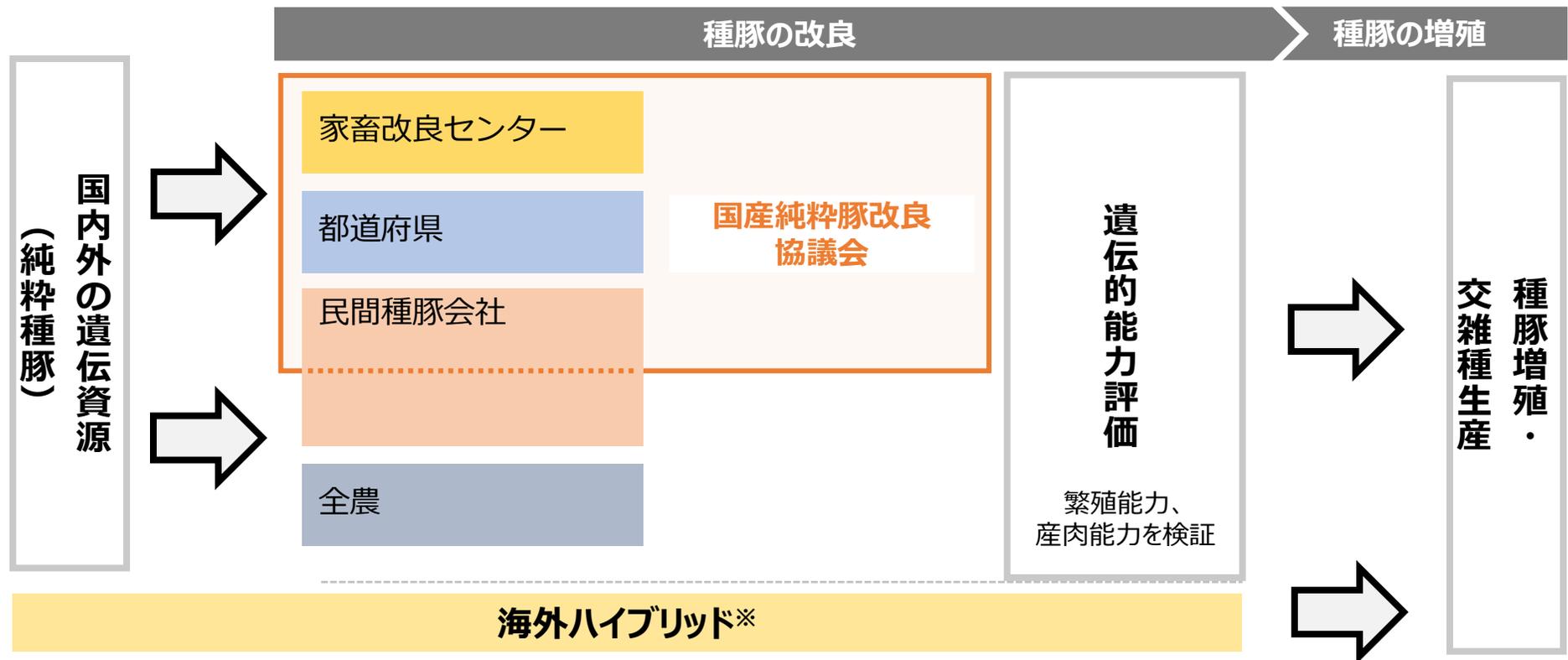
○ 我が国でよく見られる交配方式（三元交配）



豚の改良

- 我が国では、家畜改良センター、都道府県、民間種豚生産者が国内外から種畜を導入し、それぞれで改良を実施。
- 家畜改良センター、都道府県、民間種豚生産者が連携して国産純粋豚改良協議会を設立。優良な種豚の利活用を進めるとともに、改良に用いる頭数規模を拡大し、改良スピードを加速化。

豚の改良・流れ

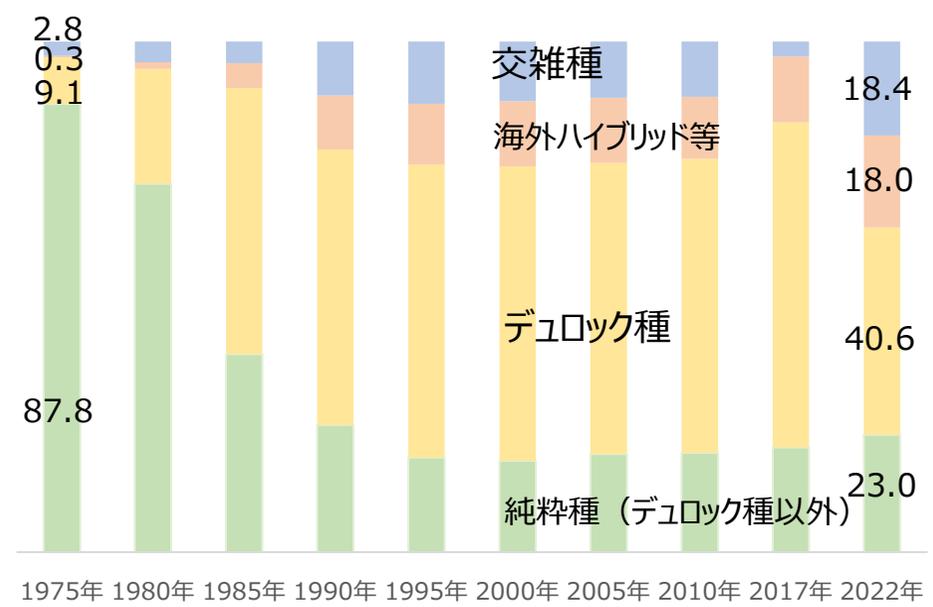


※ 雑種強勢効果を利用するために海外育種会社が複数の品種を掛け合わせて作り出した交雑種。

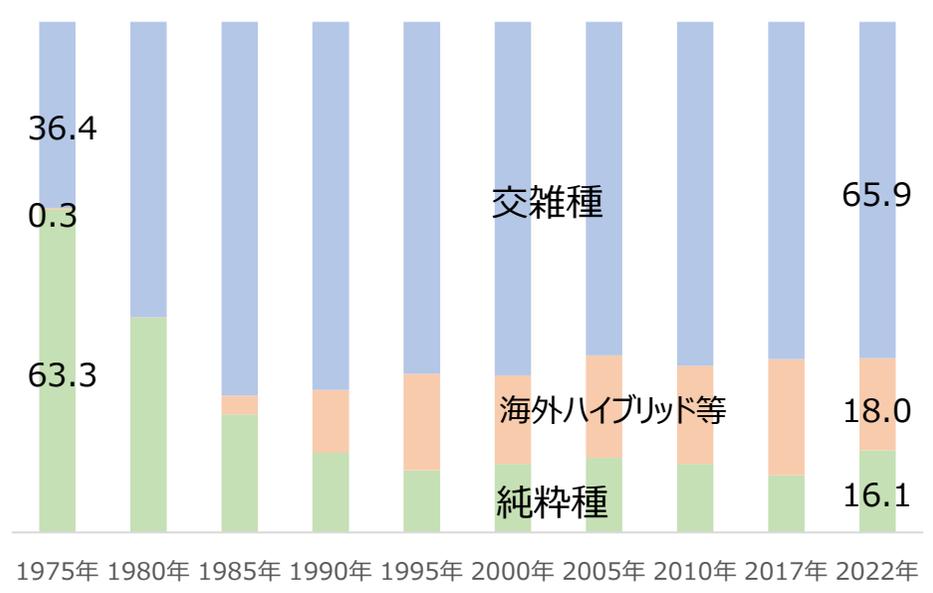
品種動向について

- 種雄豚は昭和50年代は純粋種のデュロック種以外の肉質で優れるハンプシャー種が多かったが、昭和60年以降デュロック種が全体の半数以上を占める状態。近年では海外ハイブリッド種及び交雑種の割合が約4割まで拡大。
- 種雌豚は、肉豚生産が雑種強勢効果を利用した交雑種の利用が主流となっており、海外ハイブリッド等も含めた交雑種の割合が約8割。

種雄豚の品種別飼養頭数割合の推移 (単位 ; %)



種雌豚の品種別飼養頭数割合の推移 (単位 ; %)

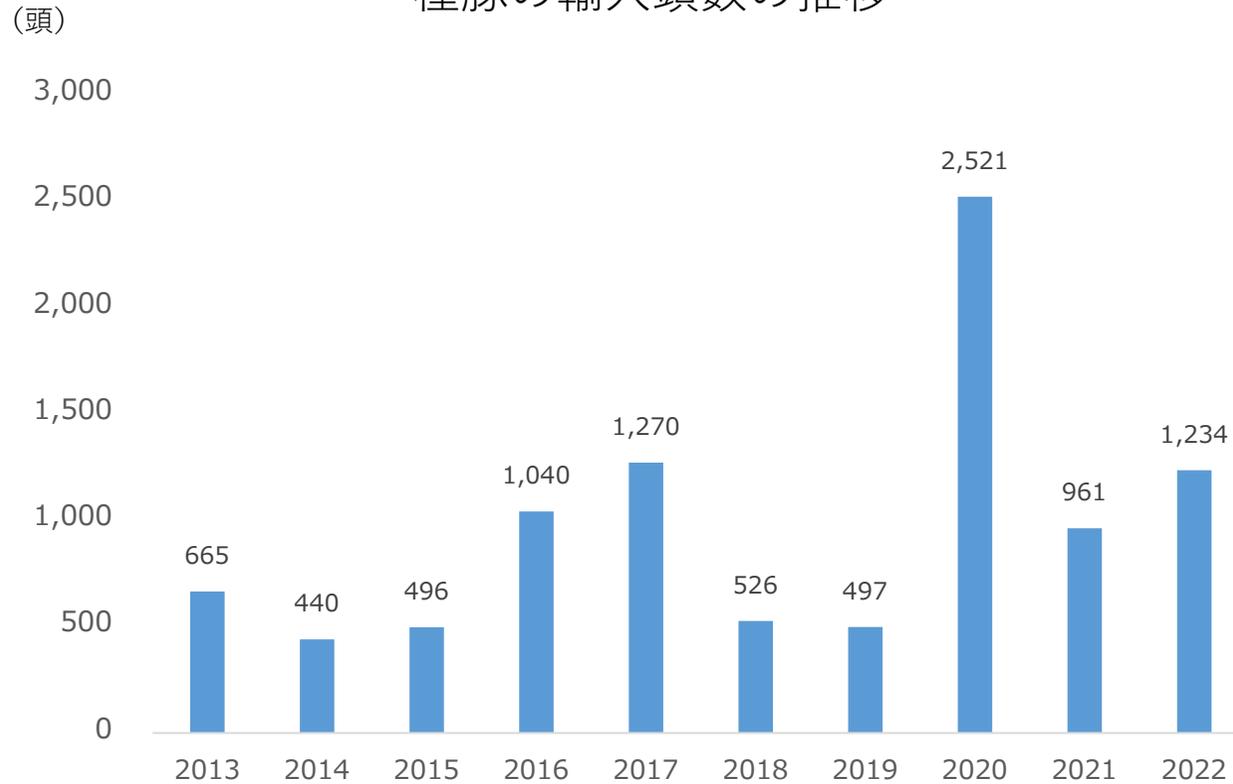


出典：公益社団法人中央畜産会「家畜改良関係資料」、一般社団法人日本養豚協会「養豚農業実態調査」より農林水産省作成

種豚の輸入状況

- 我が国は、主にカナダやアメリカ、デンマークから豚を輸入。
- ハイブリッド豚を生産する主な海外育種会社として、ヘンドリクス・ジェネティクス社（蘭）、PIC社（英）がある。

種豚の輸入頭数の推移



国別動物輸入検疫数量（2022年度、頭）

カナダ	809
アメリカ	197
デンマーク	167
フランス	50
イギリス	11

出典：動物検疫所「動物検疫年報」より農林水産省作成

鶏の品種

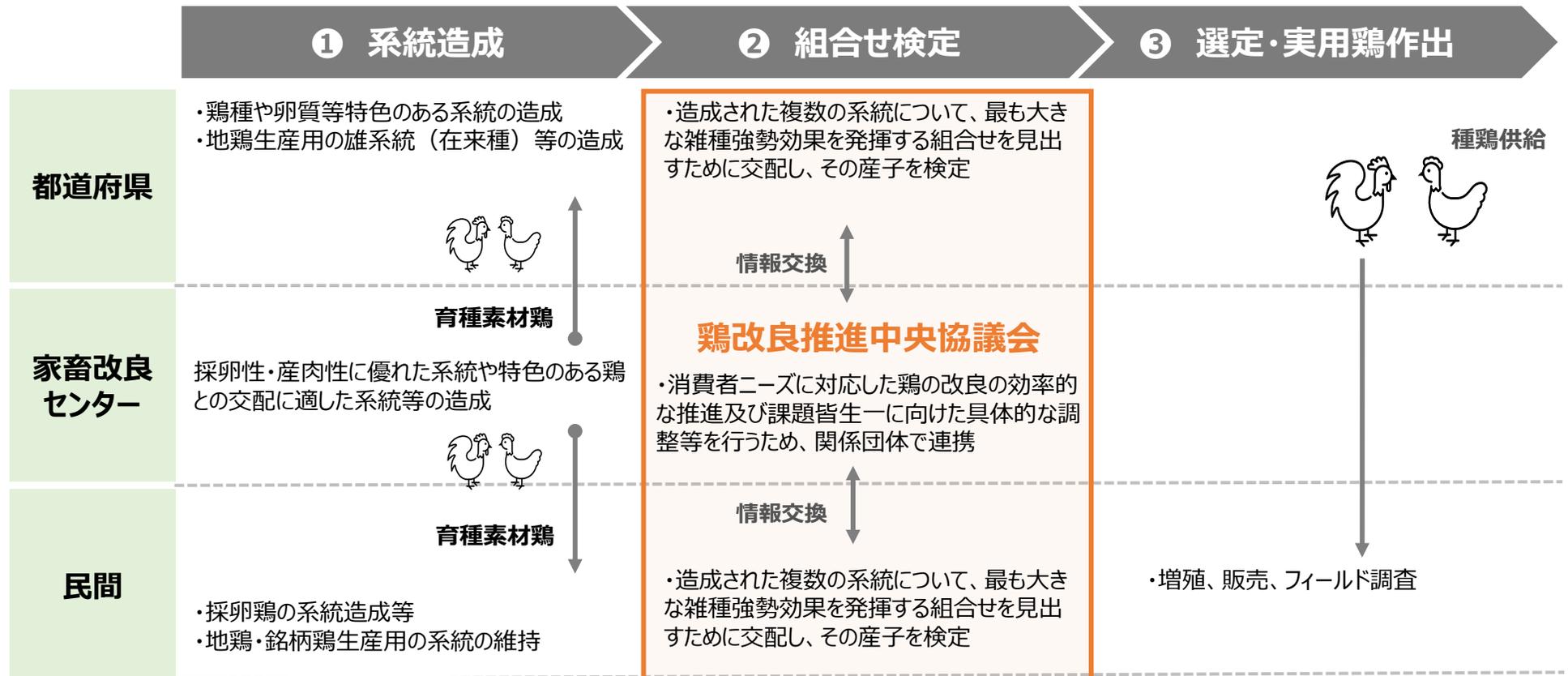
- 鶏には、主として、卵を生産する「卵用種」と、肉用として飼養される「肉用種」がある。卵を生産し、肉用としても飼養される「卵肉兼用種」もある。
- 在来鶏に、その特徴を活かしつつ卵の生産性の高い品種などを交配することにより、地鶏の生産が行われている。

品種名	白色レグホン	横斑プリマスロック	白色プリマスロック	比内鶏
				
原産国	イタリア	米国	米国	日本（秋田県）
分類	卵用種	卵肉兼用種	肉用種	肉用種
特徴	代表的な卵用種で、卵生産用に徹底的に品種改良がなされている。産卵数は供用初年度で250～290個と多産。	代表的な卵肉兼用種だが、現在ではどちらかに特化した系統が作成されている。産卵数は卵用鶏と遜色なく多産。食肉としても美味。	ブロイラー生産のための雌系として世界中で広く利用されており、「白色コーニッシュ」という品種の雄を掛け合わせたものが、肉用鶏の主流。	江戸時代に地鶏とシャモの交配・固定化により作り出された品種。比内地鶏は比内鶏の雄と「ロードアイランドレッド」という品種の雌との交雑種。

鶏の改良

- 特色ある鶏卵、鶏肉を好む消費者ニーズに対応するため、(独)家畜改良センター、都道府県、民間が密接な連携を図ることで、採卵能力・産肉能力等に優れた純粋種の系統を交雑し、改良を重ねながら実用（コマーシャル）鶏を作出。

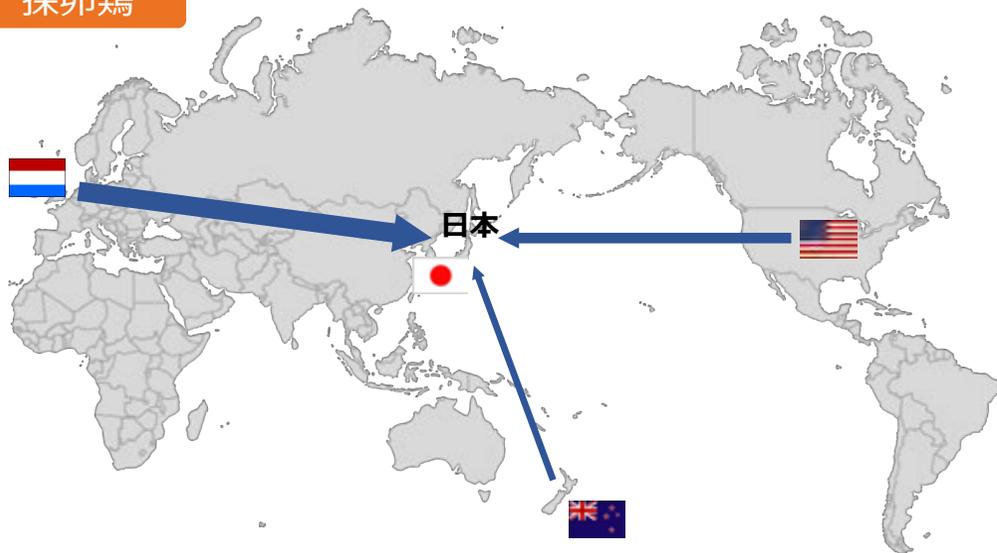
鶏の改良の流れ



種鶏の我が国への輸入動向

- 採卵鶏は、主にオランダ、アメリカ、ニュージーランドから種鶏を輸入。
- 肉用鶏は主にフランス、ニュージーランド、ブラジルからの種鶏を輸入。
- 国内で飼養される種鶏の海外産シェアは採卵鶏96%、肉用鶏98%であり、海外で高病原性鳥インフルエンザの発生した場合や急激な為替変動等の影響を受ける可能性。

採卵鶏



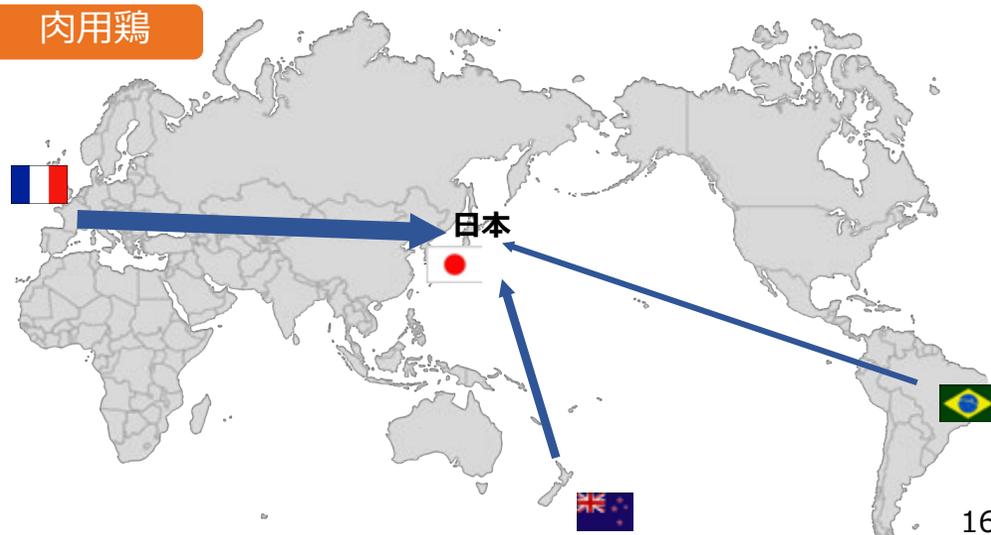
採卵鶏の種鶏の輸入羽数（2023年）

輸入先国	羽数（羽）	シェア
オランダ	61,065	77%
アメリカ	12,944	16%
ニュージーランド	5,701	7%
合計	79,710	100%

肉用鶏の種鶏の輸入羽数（2023年）

輸入先国	羽数(羽)	シェア
フランス	21,297	44%
ニュージーランド	14,188	29%
ブラジル	12,971	27%
合計	48,456	100%

肉用鶏



世界と我が国の種鶏業界

- 我が国の鶏卵や鶏肉については、海外の育種会社により育種改良された海外産種鶏を用いて生産。
- 知的財産保護の観点により、海外の育種会社ではコマーシャル種鶏の作出のもととなる種鶏を雄または雌の一方しか販売しないことから、これを利用者する国内では再生産を行うことができないため、海外から継続的に種鶏を輸入、購入する必要。

主な海外の種鶏業者

EWグループ

ドイツに本社を置き、45以上の国に250以上の子会社がある。

採卵鶏

LOHMANN社 (独)

日本で利用されている系統であるジュリア、ジュリアライトの育種会社であるドイツ企業

Hy-Line社 (米)

日本、英国を含む複数の国に子会社があり、アイオワ州に最大の孵化場を所有。

ブロイラー

Aviagen社 (英)

ブロイラーと七面鳥の育種会社で、イギリス、アメリカで育種改良した品種を世界中に共有。

子会社

Hubbard社 (仏)

※赤鶏で世界的なシェアを占めている。

主な国内の種鶏業者

(株) ゲンコーポレーション (EWグループ)

LOHMANN社、Hy-Line社で育種改良されたジュリア種等の卵用種の種鶏を輸入。

(株) 日本チャンキー

Aviagen社で育種改良された肉専用種であるチャンキー種の種鶏を輸入。

東西産業貿易 (株)

(株) イシイ

(株) ヤマモト

(株) アマタケ

Hubbard社で育種改良された赤鶏の種鶏を輸入。

※一般的に肉用鶏の羽毛は白色だが、赤色の羽毛を持つ肉用鶏。

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

(1) 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

(2) 農林水産関係機関の情報（ALICの情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

(3) その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関(代表的なものです)

- ・米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が2024年9月中旬までに発表した情報を引用しています。（最新年度2024/25年度です）

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

<p>連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)</p>
--

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大
学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、
その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響
中国の需要・輸入動向
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響
中長期（10年先）、超長期（30年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。

https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html

